新潟県埋蔵文化財調査報告書　第216集

一般国道49号
阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ

柄目木遺跡 Ⅰ

２０１０

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ

柄目木遺跡 Ⅰ

２０１０

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道 49 号阿賀野バイパスは、阿賀野市六野瀬から同市下黒瀬に至る延長 13.7km の道路です。国道 49 号は福島県いわき市から新潟市に至る太平洋側と、日本海側を結ぶ主要幹線道路であるとともに、阿賀町・阿賀野市と新潟市との交流を支える道路として重要な役割を果たしています。現在、国道 49 号は阿賀野市の市街地を通過するため、交通混雑、交通騒音等の問題が発生しており、これらの問題を解消するため阿賀野バイパスが計画されました。

本書は一般国道 49 号阿賀野バイパス建設に伴って実施した、阿賀野市大字小里字柄目木 75 － 2 番地ほかに所在する柄目木遺跡の発掘調査報告書です。

発掘調査によって、平安時代と中世の遺構・遺物を検出しました。平安時代では、竪穴住居と掘立柱建物を中心とする集落を検出しました。中世でも掘立柱建物と井戸を多数検出しており、集落になると考えられます。

平安時代の遺物は土師器と新津丘陵産、地元笹神丘陵産の須恵器が大量に出土しています。中世は珠洲焼や笹神丘陵産の中世陶器、青磁が出土しています。

発掘調査で得られたこれらの資料や本報告書が、埋蔵文化財の理解や認識を深める契機となり、地域の歴史資料として広く活用されることを期待しています。

最後に、この発掘調査に対し、多大なご協力とご理解をいただきました阿賀野市教育委員会、並びに地元の方々、また、発掘調査から本書の作成まで格別なご配慮をいただきました国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所に対し厚くお礼を申し上げます。

平成 22 年 3 月

新潟県教育委員会

教 育 長　武藤　克己

例　　言

1　本書は、新潟県阿賀野市大字小里字柄目木 75 － 2 番地ほかに所在する柄目木遺跡の発掘調査記録である。

2　この調査は一般国道 49 号阿賀野バイパス建設事業に伴い、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したもので、調査主体である県教委は財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に調査を依頼した。

3　埋文事業団は掘削作業等を株式会社帆苅組に委託して発掘調査を実施した。

4　遺物の註記は、柄目木遺跡の略記号「ガラメ」にグリッド No.・遺構名・層位等を併記した。

5　本書の図中で示す方位は、すべて真北である。ただし、ここでいう「真北」は日本平面国家座標（新座標）の X 軸方向を示す。

6　掲載遺物の番号は土器・土製品・石製品・木製品・金属製品の種別ごとに通し番号を付した。本文及び観察表、図面図版、写真図版の遺物番号はすべて一致している。

7　本文中の注は脚注とし、頁ごとに番号を付した。また、引用文献は、著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。

8　第Ⅵ章 1 の骨片の分析・原稿は、日本歯科大学　笹川一郎氏から玉稿を頂いた。

9　遺構図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、株式会社セピアスに委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿し印刷した。

10　本書の執筆は、佐藤友子（埋文事業団調査課　班長）、村上章久・安西雅希・真壁鈴子（株式会社帆苅組埋蔵文化財調査課　調査員）が行い、編集は佐藤友子が担当した。執筆分担は真壁：第Ⅱ章、村上：第Ⅲ章 2、第Ⅳ章 3・4、第Ⅶ章 3、安西：第Ⅳ章 1・2、第Ⅴ章 1・2、第Ⅶ章 1・2 で、これ以外は佐藤友子である。

11　調査成果の一部は、柄目木遺跡現地説明会（平成 20 年 11 月 8 日）等で公表しているが、本報告書の記述をもって正式な報告とする。

12　出土遺物及び調査・整理・自然科学分析等に係る各種資料・データ類は、一括して県教委が新潟県埋蔵文化財センターで保管・管理している。

13　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関、地元の方々から多くのご教示・ご協力をいただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。（敬称略　五十音順）

阿賀野市教育委員会　阿賀野川土地改良区　関　雅之　高濱信行　戸根与八郎　古澤妥史　水澤幸一

目　　次

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査と整理作業 …… 1

A　試掘・確認調査 …… 1

B　本発掘調査 …… 3

C　整理体制 …… 5

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地理的環境 …… 6

2　歴史的環境 …… 8

3　周辺の遺跡 …… 8

A　笹神丘陵の生産遺跡 …… 8

B　古代・中世の遺跡 …… 9

第Ⅲ章　遺跡の概要

1　グリッド設定 …… 12

2　基本層序 …… 12

第Ⅳ章　遺　　構

1　記述の方法 …… 15

2　中世の遺構 …… 15

A　概　　要 …… 15

B　遺構各説 …… 17

3　古代上層 …… 22

A　概　　要 …… 22

B　遺構各説 …… 23

4　古代下層 …… 24

A　概　　要 …… 24

B　遺構各説 …… 24

第Ⅴ章　遺　　物

1　概　　要 …… 36

2　中世の土器・陶磁器 …… 36

A　概　　要 …… 36

B　器種分類 …… 36

C　各　　説 …… 37

3　古代の土器 …… 39

A 概　　要 …… 39
B 器種分類 …… 39
C 各　　説 …… 43
4 土 製 品 …… 46
5 石 製 品 …… 47
6 金属製品 …… 47
7 木 製 品 …… 47
第Ⅵ章　自然科学分析
1 出土焼骨について …… 48
第Ⅶ章　ま と め
1 中世の遺構 …… 50
2 中世の遺物 …… 51
3 古代の遺構 …… 52
A 上　　層 …… 52
B 下　　層 …… 54
4 古代の土器 …… 56
A 産地比率と器種構成比率 …… 56
B 西古志型煮炊具について …… 57
≪要　　約≫ …… 60
≪引用・参考文献≫ …… 61
≪観 察 表≫ …… 63
別表 1 遺構観察表 …… 63
別表 2 中世土器・陶磁器観察表 …… 71
別表 3 古代土器観察表 …… 72
別表 4 土製品観察表 …… 77
別表 5 石製品観察表 …… 77
別表 6 金属製品観察表 …… 77
別表 7 木製品観察表 …… 77

挿図目次

第１図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置……2
第２図　トレンチ設定図……3
第３図　周囲の地形……7
第４図　周辺の古代・中世の遺跡分布……10
第５図　グリッド設定図……12
第６図　基本層序……13
第７図　遺構平面形状の分類……16
第８図　遺構断面形状の分類……16
第９図　遺構覆土堆積状況の分類……16
第10図　掘立柱建物概念図……16
第11図　中世土器・陶磁器器種分類……37
第12図　須恵器器種分類……40
第13図　土師器器種分類……41
第14図　SX28 出土人骨……48
第15図　中世遺構分布模式図……51
第16図　中世土器・陶磁器出土分布図……52
第17図　古代下層遺構分布模式図……55
第18図　古代土師器・須恵器出土分布図……58

表目次

第１表　発掘調査工程……5
第２表　周辺の古代・中世の遺跡……11
第３表　遺構略号……15
第４表　須恵器の胎土……39
第５表　古代土器器種分類……42
第６表　部位判定可能な骨片……49
第７表　中世土器・陶磁器重量表……52
第８表　Ⅵ層口縁部残存率集計……57
第９表　竪穴建物器種構成……57
第10表　竪穴建物機能別構成比……57
第11表　須恵器の産地割合……57
第12表　古代土師器・須恵器重量表……58
第13表　西古志型煮炊具出土遺跡……59

図版目次

［図　面］

図版１　調査範囲と周辺の地形
図版２　遺構配置図１　中世（A・B区）
図版３　遺構配置図２　中世（A・B区）
図版４　遺構分割図１　中世（A区）
図版５　遺構分割図２　中世（B区）
図版６　遺構分割図３　中世（A・B区）
図版７　遺構分割図４　中世（A・B区）
図版８　遺構個別図１　中世 SB8・50
図版９　遺構個別図２　中世 SB50・87
図版10　遺構個別図３　中世 SB97・98
図版11　遺構個別図４　中世 SE13・41・84・88～90
図版12　遺構個別図５　中世 SE99・139・143・144
図版13　遺構個別図６　中世 SE141・145・152・155・159・161
図版14　遺構個別図７　中世 SE182、SK6・42・44・115・116・160・166・172
図版15　遺構個別図８　中世 SX1・28・96・180、SD113・114・117～119・126・134
図版16　遺構配置図３　古代上層（A・B区）
図版17　遺構分割図５　古代上層（A・B区）
図版18　遺構分割図６　古代上層（A・B区）
図版19　遺構個別図９　古代上層 SK1066、P1049、SF1010・1030・1101・1102、土器集中1009
図版20　遺構配置図４　古代下層（A・B区）
図版21　遺構分割図７　古代下層（B区）
図版22　遺構分割図８　古代下層（B区）
図版23　遺構分割図９　古代下層（A・B区）
図版24　遺構分割図10　古代下層（A・B区）
図版25　遺構個別図10　古代下層 SI2006・2088、SK2002・2217
図版26　遺構個別図11　古代下層 SI2088・2110・2258
図版27　遺構個別図12　古代下層 SB2367・2369・2370
図版28　遺構個別図13　古代下層 SE2152・2343・2347、SK2012・2026・2051・2057
図版29　遺構個別図14　古代下層 SK2072・2087・2094・2104～2106・2117・2144・2150、P2086・2149
図版30　遺構個別図15　古代下層 SK2157・2160・2164・2216・2219・2221・2223・2228・2233・2239・2242、P2245
図版31　遺構個別図16　古代下層 SK2264・2281・2283・2300・2337・2342・2315・2326・2345・2346・2348、P2316

図版 32　遺構個別図 17　古代下層 SK2351・2356・2361、P2009・2013・2073・2084・2085・2246、SG2016・2100・2103・2096・2156・2249・2325
図版 33　遺構個別図 18　古代下層 SG2344、SX2083・2153・2163・2256・2327・2334・2358、P2265
図版 34　遺構個別図 19　古代下層 SD2046・2074・2089・2090・2116・2123・2127・2214・2218・2235・2237・2284・2294・2335・2352・2389、SF2080・2200、土器集中 2227
図版 35　中世遺構出土土器・陶磁器 1（A・B 区）
図版 36　中世遺構出土土器・陶磁器 2（A・B 区）、中世包含層出土土器・陶磁器（A・B 区）、古代上層遺構出土土器 1
図版 37　古代上層出土土器、古代下層遺構出土土器 1
図版 38　古代下層遺構出土土器 2
図版 39　古代下層遺構出土土器 3
図版 40　古代下層遺構出土土器 4
図版 41　古代下層遺構出土土器 5、古代下層出土土器 1
図版 42　古代下層出土土器 2
図版 43　土製品、石製品、金属製品、木製品
［写　真］
図版 44　調査区近景、中世面（A・B 区）完掘
図版 45　基本層序
図版 46　中世（A・B 区）SB8・50
図版 47　中世（A・B 区）SB87・97・98、SE13・88・90・99
図版 48　中世（A・B 区）SE139・141・144・145・155・159
図版 49　中世（A・B 区）SE159・161・182、SK6・42
図版 50　中世（A・B 区）SK42・44・115・116
図版 51　中世（A・B 区）SK160・166、SX1・28
図版 52　中世（A・B 区）SX28・96、SD113・114・117・126
図版 53　古代上層（A・B 区）SK1066、P1049、SF1010・1030
図版 54　古代上層（A・B 区）SF1043・1044・1064・1065・1068・1101・1102、土器集中 1009
図版 55　古代下層（A・B 区）完掘、SI2006 完掘
図版 56　古代下層（A・B 区）SI2006・2088
図版 57　古代下層（A・B 区）SI2006・2088
図版 58　古代下層（A・B 区）SI2088
図版 59　古代下層（A・B 区）SI2088・2110・2258
図版 60　古代下層（A・B 区）SI2006・2258、SB2367・2369・2370
図版 61　古代下層（A・B 区）SE2152・2343・2347、SK2026
図版 62　古代下層（A・B 区）SK2026・2051・2057・2072・2087
図版 63　古代下層（A・B 区）SK2087・2104・2105・2106
図版 64　古代下層（A・B 区）SK2117・2144・2150・2157
図版 65　古代下層（A・B 区）SK2157・2160・2164・2221
図版 66　古代下層（A・B 区）SK2228・2233・2264
図版 67　古代下層（A・B 区）SK2281・2283・2300・2315
図版 68　古代下層（A・B 区）SK2337・2342・2345・2346・2351
図版 69　古代下層（A・B 区）P2013・2073、SG2156・2249、SX2083
図版 70　古代下層（A・B 区）SX2083・2153・2163・2256・2358、SD2074
図版 71　古代下層（A・B 区）SD2089・2090・2116・2127・2218・2235・2284
図版 72　古代下層（A・B 区）SD2294・2335・2352、SF2080・2200、土器集中 2227
図版 73　中世の土器・陶磁器 1
図版 74　中世の土器・陶磁器 2、古代上層の土器 1
図版 75　古代上層の土器 2・古代下層の土器 1
図版 76　古代下層の土器 2
図版 77　古代下層の土器 3
図版 78　古代下層の土器 4
図版 79　古代下層の土器 5
図版 80　古代下層の土器 6
図版 81　土製品・石製品・金属製品・木製品

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

一般国道49号は太平洋側の福島県いわき市と日本海側の新潟市を結ぶ、物流、文化交流の大動脈である。新潟県内においては、新潟市と沿線市町村の交互交流を支える主要幹線道路であるとともに、地域の生活道路としても重要な役割を果たしている。

阿賀野市保田から同市中央町１丁目間は20,600台／日もの交通量があり、大型車が12.5％を占める状況にある。しかし、現道は阿賀野市の市街地を通過しており幅員が狭小なため、その交通量に対応できず、交通混雑・交通騒音・交通事故等の都市機能や生活環境に与える影響が問題となっている。これらの諸問題を解決するため、安田バイパス・水原バイパスは計画された（第１図）。

安田バイパス（阿賀野市六野瀬～同市寺社）については、暫定２車線が既に供用されている。

平成16年４月１日に安田町・京ヶ瀬村・水原町・笹神村が合併し、阿賀野市（人口約48,000人）が誕生した。この合併に伴い、安田バイパス（延長5.6km）・水原バイパス（延長8.1km）を合わせて「阿賀野バイパス」と呼称することになった。

阿賀野バイパスのうち水原バイパス（阿賀野市寺社～同市下黒瀬）部分は、平成11年に都市計画が決定し、平成12年度に事業化が決定した。平成15年度に用地取得について着手した。これをうけて国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所（以下、国交省）と県教委との間で建設用地内の埋蔵文化財の試掘・確認調査に関する協議が本格化した。

国交省から試掘・確認調査の依頼を受けた県教委は、平成19年度に埋文事業団に調査を委託した。平成19年度の試掘調査により、遺構と古代の遺物を検出し、小字名から「柄目木遺跡」として新規登録した。

その後、国交省、県教委、埋文事業団の三者で取扱い協議を行い、平成20年度にこの新遺跡の本発掘調査を行うこととなり、県教委が埋文事業団に依頼し、平成20年４月に本発掘調査に着手した。

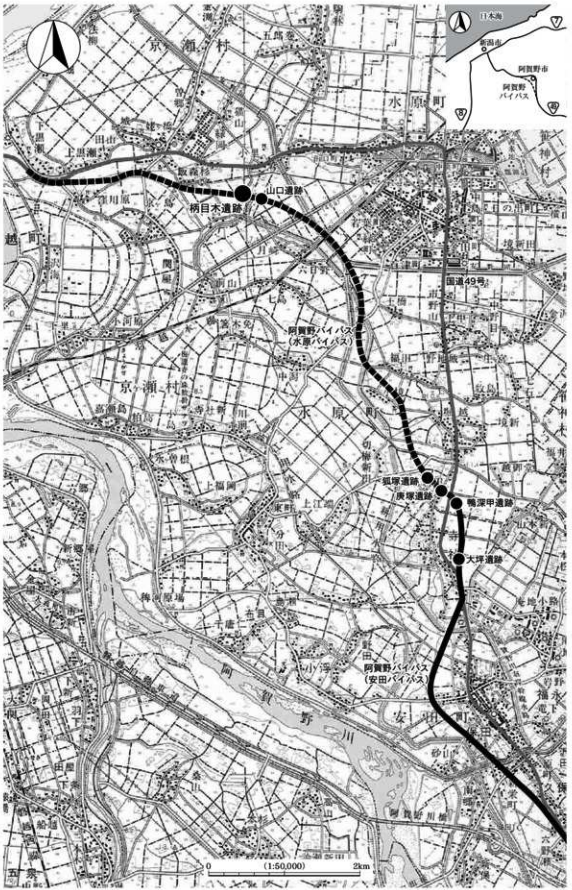
2　調査と整理作業

A　試掘・確認調査

1）調査体制

平成19・20年度に行った試掘・確認調査の体制は以下のようである。

調査年度	平成19年度	平成20年度
調査期間	平成19年７月５日～８月10日	平成20年７月23日～25日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 武藤克己）	
調査機関	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団	
管理	木村　正昭（事務局長）	
	斎藤　　栄（総務課長）	
	藤巻　正信（調査課長）	
庶務	長谷川　靖（総務課班長）	
調査指導	田海　正義（調査課試掘・確認担当課長代理）	
調査担当	田海　正義（　　同　　）	髙橋　保雄（調査課本発掘調査担当課長代理）
調査職員	田中　一穂（　　同　　専門嘱託員）	

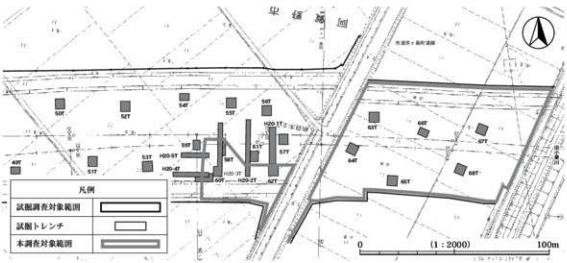


第１図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置
［国土地理院発行「新潟」「新津」1:50,000 原図］

2）調査の結果と取り扱い

本遺跡に関わる試掘調査は、平成 19 年 7 月 5 日～8 月 10 日（実質 23 日）に、阿賀野市下黒瀬から小里（ルビ：おさと）までの調査対象面積 199,260m² に対し、96 か所の試掘坑・トレンチ（以下、T）を任意に設定し行った。実質調査面積は 2,147m² で確認率は 1.1％である。旧小里川の左岸から市道京ヶ島町道線（以下、市道）を挟んだ 55T から 68T の範囲 7,700m² について、平安時代の遺構と遺物（須恵器・土師器）が検出されたことから本発掘調査が必要であると県教委に報告した。市道の西側 55T から 62T の範囲については遺物包含層が残存せず、遺構・遺物の時期が不明のため遺跡の時期が確定出来ないことから、本発掘調査と並行して確認調査を行い、取り扱いを決めることとなった。平成 20 年度は市道の東側 5,700m² について本発掘調査を行うこととした。

平成 20 年 4 月から開始した本発掘調査の結果では、水田面直下に中世面、さらに下層に平安時代の遺物包含層を 2 層検出した。この結果を踏まえ取り扱いが未定であった市道の西側 1,850m² について 7 月 23 日から 25 日に確認調査を行った。その結果、中世の珠洲焼が出土し、遺構も検出したことから中世の遺跡と確認した。さらに下層を調査したが平安時代の遺構・遺物は検出しなかった。このことから中世面 1,100m² について本発掘調査が必要であると県教委に報告した。



第 2 図　トレンチ設定図

B　本発掘調査

1）調 査 体 制

平成 20 年度に行った本発掘調査・整理作業の体制は以下のようである。

調 査 期 間		平成 20 年 4 月 10 日～21 年 1 月 9 日
整 理 期 間		平成 20 年 12 月 1 日～21 年 3 月 31 日
調 査 主 体		新潟県教育委員会（教育長 武藤竜己）
調 査 機 関		財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
管　　理	木村　正昭（事務局長）	
	斎藤　栄　（総務課長）	
	藤巻　正信（調査課長）	
庶　　務		長谷川　靖（総務課班長）
調 査 指 導		髙橋　保雄（調査課本発掘調査担当課長代理）
調 査 担 当		佐藤　友子（　同　班長）
支 援 組 織		株式会社帆苅組

現場代理人	伊藤　　聡（株式会社帆苅組埋蔵文化財調査課　主任）
調　査　員	村上　章久（株式会社帆苅組埋蔵文化財調査課）
	安西　雅希（株式会社帆苅組埋蔵文化財調査課）
	真壁　鈴子（株式会社帆苅組埋蔵文化財調査課）
補　助　員	佐藤直美、斉藤　準、大瀧明美、山本幸恵、市村由香里、刈谷美千代

2）調査の経緯

本発掘調査は平成 20 年 4 月 10 日から準備工を開始したが、道路特定財源の問題で一時中断し、4 月は工事用道路の搬去、現地事務所・作業員休憩所の設置、駐車場の整備のみを行った。5 月 12 日から旧小里川側から表土除去を開始し、21 日まで行った。少量の珠洲焼と土師質土器が出土し、平安時代の遺物は出土しなかった。市道側の南の一部は排土の仮置き場として残し、最後に調査をすることとした。調査区は南北に走る用水路で分断されるため、旧小里川から用水路までを A 区、用水路から市道までを B 区とした（第 5 図）。

表土除去後、5 月 19 日から作業員を入れ、調査区全周と基本層序確認のためにグリッドに沿った東西南北ベルトに沿って排水溝を兼ねた溝を掘削した。溝掘削時には水田面直下から中世の珠洲焼と土師質土器が少量出土し、さらに下層から平安時代の須恵器・土師器が大量に出土し、試掘調査の結果とは異なり、平安時代の単独遺跡ではなく、中世との複合遺跡であることが判明した。さらに用水路を挟んだ 1700m² については、平安時代の遺物包含層が 2 層あることを確認した。平安時代の下層については、旧小里川に向かい低く傾斜しており、その傾斜部分については遺構・遺物が希薄であることも判明した。その結果、中世面 5,700m²、古代上層 1700m²、古代下層 4,500m² の合計 11,900m² の本発掘調査が必要となった。平成 19 年度の試掘調査で判断保留とされていた、市道西側についても 7 月の確認調査の結果、1,100m² について本発掘調査が必要とされ、本遺跡の調査必要面積は 13,000m² となった。

平成 20 年度の当初計画では、柄目木遺跡（5,700m²）と村前東 A 遺跡（5,650m²）の本発掘調査を行う予定であったが、柄目木遺跡の本発掘調査必要面積が倍増したため、県教委と国交省と協議を行い、20 年度は柄目木遺跡のみの調査を行い、村前東 A 遺跡は次年度に調査することとなった。

中世面の遺物包含層（Ⅱ層）はほとんど残っておらず、5 月 22 日から遺構検出を行い、A・B 区ほぼ全面に掘立柱建物と付属の井戸、土坑、溝状遺構、土坑墓などを多数検出した。しかし、遺物も少なく遺構も散在し、やや大規模な溝状遺構等も検出されたが、一般的な集落と考えられた。遺構は覆土が明確に判別できるものとそうでないものがあり、明確でないものについては、古代上層（Ⅳ層）から下層面（Ⅵ層）で検出されたものもあった。中世の遺物が出土したものについては問題ないが、遺物が全く出土しなかった遺構については、古代の遺構としてしまった可能性が残る。A・B 区の中世面については、7 月 16 日にラジコンヘリを使用し、完掘写真を撮影した。

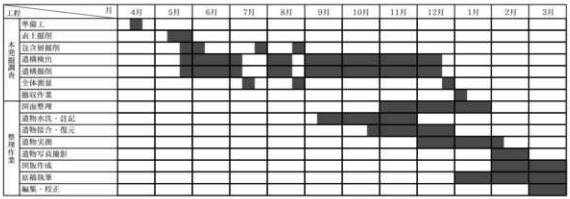
古代上層は中世遺構検出面とのわずかな間層と遺物包含層を人力で掘削したが、遺物は少量の土師器と須恵器が出土したのみであった。遺構は土器集中区と南北方向に延びる道を複数検出した。古代の上層は、A 区が 8 月 18 日、B 区が 8 月 26 日に完掘写真を撮影した。古代の下層との間層（Ⅴ層）と下層の遺物包含層（Ⅵ層）で遺物が希薄な部分については重機で掘削した。

古代の下層は 9 月 3 日から遺物包含層掘削と遺構検出を行った。市道に近い西側に行くほど遺物は少なかった。遺構は B 区の用水の西側に集中して検出された。竪穴住居 3 棟と竪穴建物 1 棟、掘立柱建物 3 棟、井戸 4 基、土坑 81 基、ピット 168 基、溝状遺構 32 条、炭窯等が検出され、集落と考えられた。平安時代の竪穴住居は、阿賀野市では三辺稲荷遺跡［古澤 2008］で 9 世紀末～ 10 世紀の竪穴住居が 4

軒検出されており、本遺跡は同市では２例目となった。遺跡は調査区の更に北側に延伸していると考えられる。古代下層面の完掘写真は 11 月 15 日に空撮した。排土の仮置き場にしていた部分は、11 月 17 日から表土除去を行い中世面の調査を行った。多数の井戸が狭い範囲に検出された。A・B 区で検出された中世の遺構とは様相が異なることから、C 区の中世の遺構との関連が高いと考えられる。

C　整理作業

整理作業は本発掘調査と並行し、現地で遺物の洗浄、註記、接合、復元作業を行った。12 月 22 日から帆苅組整理所で本格的に遺構図面の整理、遺物の実測作業・トレース、遺物の写真撮影、原稿執筆などを行った。



第１表　発掘調査工程

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

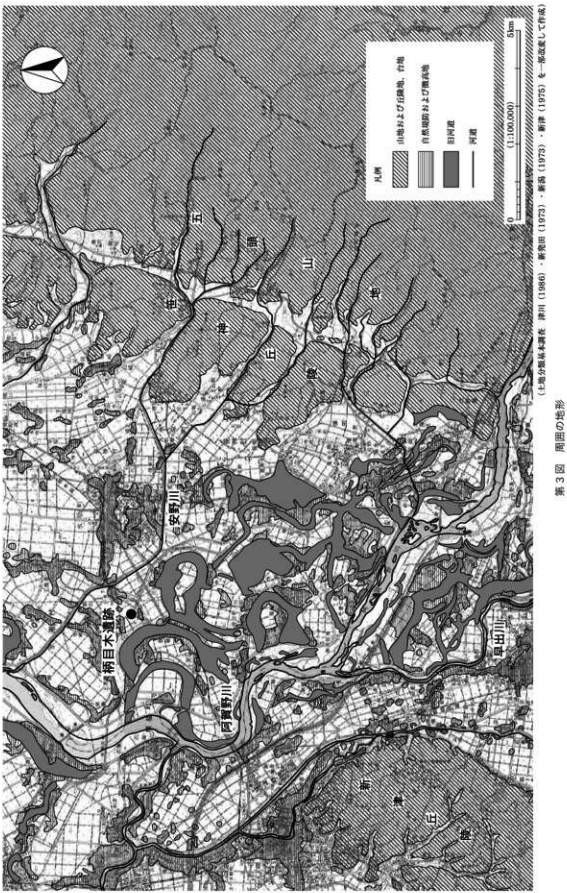
1　地理的環境

柄目木遺跡の所在する阿賀野市は、新潟県の北東、新潟市の南東約 20km に位置する。阿賀野市は、平成 16 年 4 月に安田町・水原町・笹神村・京ヶ瀬村が合併して誕生した新市であり、柄目木遺跡の位置は旧京ヶ瀬村にあたる。周辺を新潟市（旧新津市・旧豊栄市・旧横越町）・新発田市・五泉市・東蒲原郡阿賀町（旧三川村）と接している。

遺跡の現況は水田で、周辺一帯には田園が広がる。遺跡の東側には旧小里川が流れる。旧小里川は、旧水原町上江端付近に端を発し、旧京ヶ瀬村小里付近で安野川と合流して駒林川となり、北上して新井郷川に注ぐ河川である。小里川は、勾配が緩やかで流路は大きく屈曲していたため、かつては豪雨のたびに氾濫し、駒林川と共に沿岸耕地に浸水、冠水被害をもたらしていた［京ヶ瀬村 1969］。両河川とも多くの蛇行部分をカットし直線的な流れに変える大改修工事が行われており、現在の姿となっている。

市の東側には五頭山地が南北に連なる。五頭山地は、五頭山・菱ヶ岳・宝珠山等、標高 900m 前後の山々からなる。この北西に山地と平行する形で、幅の狭い村杉低地帯が形成されている。さらにこれに沿うように、高い所で標高約 100m 前後の山々からなる笹神丘陵が、約 18km にわたって延びている。この笹神丘陵沿いには、古代から中世の窯跡や製鉄遺跡が数多く存在する。笹神丘陵は第三紀層の上に堆積した第四紀洪積層によって形成されている。第四紀の初めごろ、堆積した山寺層と笹神層から大きくは成り立っている。上層の笹神層は礫や砂・粘土の互層で、このうちの粘土が焼き物に適していると考えられている。この粘土は笹神丘陵全体に存在し、古代以来の焼き物の原料となっているものと考えられる［小田ほか 2002］。

市の西側には阿賀野川が流れる。阿賀野川は、はじめ山間を蛇行して流れ、阿賀野市草水、五泉市馬下付近から平野に流れ出し扇状地を形成する。この扇状地は村松方面から流れる早出川の扇状地と合わせ複合扇状地をなし、平均勾配 1000 分の 2、3 の緩傾斜をなす［荒木 1970］。この扇状地にほぼ重なる阿賀野市草水から種河原場付近に至る 12km 程の間で川の流れが比較的急で、砂礫の広い河原を枝分かれしながら流れている。これより下流では流れは大きく蛇行しながら緩やかになり流路も安定する。阿賀野川が流れる新潟平野は、海岸線に沿って砂丘群が発達し、河川の海への流出口を狭くしている。この地形のため、洪水時になると河川の水が海に流出しづらく氾濫をおこしやすい。阿賀野川は氾濫を繰り返すことによって流路を変え、自然堤防、三日月湖（河跡湖）を作り、旧河道の痕跡を残してきた［小田ほか 2001］。本遺跡は阿賀野川の氾濫によって形成された自然堤防上に立地し、現在の阿賀野川から約 3km 東に位置している。遺跡周辺では旧河道の痕跡がはっきりと確認できる。その痕跡から、阿賀野川は現在よりずっと東側を流れていたことがわかる。本遺跡は、当時はもっと阿賀野川に近い位置にあったと考えられ、阿賀野川の流れを利用した生活が営まれていたことが想像できる。



（土地分類基本調査　津川（1986）・新発田（1973）・新潟（1975）を一部改変して作成）

第３図　周囲の地形

2　歴史的環境

本遺跡は、8 世紀後半～ 9 世紀初頭の奈良・平安時代の集落跡と 13 ～ 14 世紀の中世集落跡からなる複合遺跡である。この時期の阿賀野市周辺の歴史的背景について、『笹神村史　通史編』［槽田 2004・田村 2004・樋口 2004］を参考に引用し、簡単に述べる。

北陸地方は、古くは越国と呼ばれていた。7 世紀後半、越国は細分され、越前国・越中国・越後国が成立した。阿賀野川を境に北が越後国、南が越中国であった。成立当初の越後国は沼垂郡・磐船郡の二郡から成り、阿賀野市付近は越後国沼垂郡に属していたと思われる。大宝 2（702）年には、越中国から蒲原・古志・魚沼・頸城の 4 郡が越後国に移管され、和銅元（708）年には越後国に出羽郡（現山形県庄内地方）が立てられた。出羽郡ができたことで律令に基づく支配領域は北に拡大し、蝦夷社会に大きな動揺をもたらした。和銅 5（712）年には出羽郡を分離し、陸奥国の最上・置賜両郡と合わせて出羽国が設置された。これによって越後国の領域は、ほぼ確定したのである。

奈良時代には、723 年に三世一身法、743 年に墾田永年私財法が出され、これを機に律令体制の崩壊が進み、各地で荘園が増え始める。12 世紀初頭の白河院政期に荘園の成立は本格化し、つづく鳥羽院政期には越後国の荘園の多くが成立した。阿賀野市一帯は白河荘の荘域内に含まれ、摂関家の領地であった。平安時代末期になると、白河荘は平氏の一族である豪族城氏の支配下に置かれる。やがて、源平の争乱は越後にも及び、平家の滅亡と共に城氏も没落する。源頼朝は北陸地方を勢力下に置き、1184（寿永 3）年に越後を知行国とした。これによって越後国は王朝側の管轄下から切り離され、鎌倉幕府の支配下に置かれることとなる。その後、伊豆の豪族大見家秀が、城氏に代わって白河荘の地頭となった。やがて大見氏は、安田に拠点を置く安田氏、水原に拠点を置く水原氏、山浦（旧笹神村）に拠点を置く山浦氏に分かれる。以後、白河荘はこれら「白河の面々」と呼ばれる国人領主によって支配されることとなる。

1333（元弘 3）年、鎌倉幕府は滅亡し、建武新政権が発足する。倒幕に大きな功績をあげた新田義貞が、同年越後守に任命され、守護職をも兼任して越後国を統括した。程なく足利尊氏と後醍醐天皇・新田義貞方との関係は悪化し、尊氏は後醍醐側に反旗を翻す。後醍醐側は、新田義貞を総大将として出陣するが、尊氏軍に敗れ去る。これ以降、越後国も南北朝の動乱状況に本格的に突入していく。新田一族は以前から魚沼地方に進出しており、そのためもあって越後では南朝勢の抵抗が根強く続いた。

1341（暦応 4）年、上杉憲顕（のりあき）が越後国守護となる。以後上杉氏は越後の領国支配を進め、上杉氏一族や守護代長尾氏の一族を越後各地の要所に送り込んだ。白河荘では山浦の地に上杉憲顕が入り、山浦上杉氏を名乗る。こうして越後は、上杉氏と長尾氏の支配下に入り、戦国時代を迎えるのである。

3　周辺の遺跡

A　笹神丘陵の生産遺跡

笹神丘陵から五頭山麓にかけては、古代窯跡・中世窯跡や製鉄遺跡などの生産遺跡が数多く存在する。このことは阿賀野市一帯における大きな特徴である。本遺跡においても、笹神丘陵産の須恵器や中世陶器が出土し、密接な関係にあるといえる。生産遺跡に関しては『鴨深甲遺跡』［高橋註a 2006］に詳しい。以下、引用し一部改変して述べる。

笹神丘陵では8世紀に窯業が始まる。1958（昭和33）年立教大学教授中川成夫氏等によって学術調査された清見寺窯跡A遺跡（45）は、焼成部長7.2m、窯床幅1.5m、床面の傾斜約28度であり、須恵器杯、甕などを生産している［中川・倉田1962］。狼沢窯址（48）も同氏等が1972（昭和47）年に発掘調査し、食膳具や貯蔵具、窯道具が出土した［中川ほか1973］。これら笹神丘陵に存在した古代窯跡は現在10遺跡確認されているが、総称して五頭山麓古窯址群と呼び、その胎土は粗く、共通して石英、長石、金雲母を多く含む。

焼き物の生産は中世にも引き継がれ、窯跡を総称して笹神古窯と呼ばれる。この窯跡群は石川県能登半島から珠洲焼が越後に大量にもたらされた中世にあっても、須恵器系陶器と瓷器系陶器の両方を生産した全国的にも類例を見ない窯群である。同窯群は13世紀初頭に須恵器系陶器窯として成立し、13世紀中頃に瓷器系陶器の技術が導入されたと考えられる。須恵器系の窯として代表的なものに北沢遺跡（21）を挙げることができる。検出した5基の窯跡は、丘陵部の小さな沢の南西向き斜面に築かれ、すべて地下式窖窯である。遺物は壺と瓶が主体となり、大甕は見られない［吉岡1994］。背中炙窯址（50）は未発掘ではあるが、灰原と考えられる部分から須恵器系の遺物が表採されている。壺が少なく、片口鉢が多い。時期的には、珠洲編年表と対比して珠洲Ⅱ新期、13世紀第2四半期と捉えられている［吉岡前掲］。

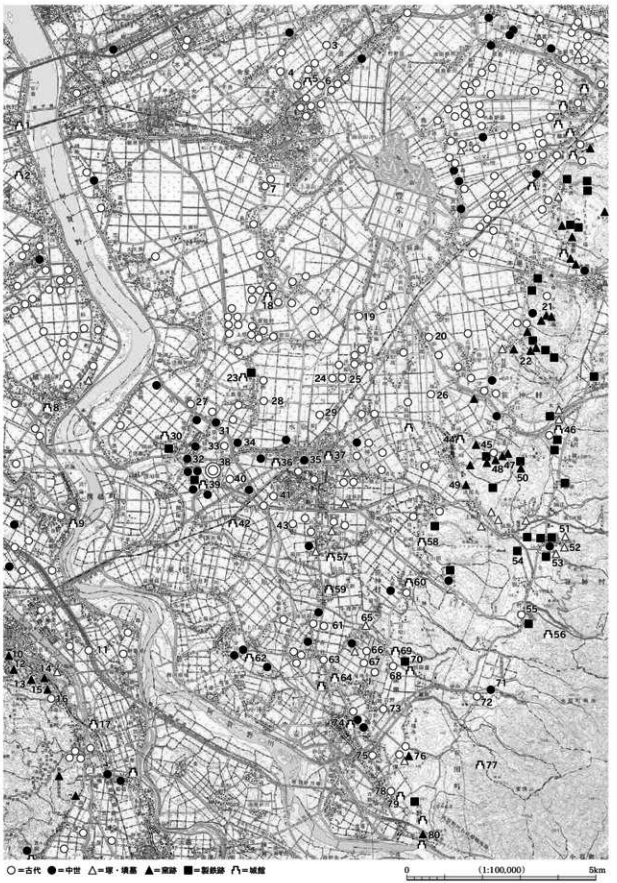
瓷器系陶器としては、赤坂山中世窯跡（80）が挙げられる。五頭山麓の南端、阿賀野川に接近する西側斜面に位置し、瓷器系の陶器窯2基と木炭窯1基を検出した。器種は、甕・壺・片口鉢が主体であり、常滑焼のほか石川県加賀焼・珠洲焼や在地の陶器の影響が見られる。遺物は常滑編年の5・6a型式に相当し、窯は13世紀第3四半期に操業されたと考えられる［小田・高橋前掲］。また、権兵衛沢窯跡（49）からは知多窯や常滑窯に近い製品が生産されていた［中川・倉田前掲］。これら笹神古窯の操業形態は、長期にわたって築かれた珠洲焼や常滑焼などとは異なり、1群数基程度のかなり小規模な生産形態であったと考えられる。したがって、製品の流通は比較的小規模で、山形県寒河江市三条遺跡で一例出土の報告がある［高桑1998］以外は、阿賀北を中心に出土している。

ほかの生産遺跡としては、同じ笹神丘陵で陶器窯よりも多い数の製鉄遺跡が存在する。これらは排滓場の鉄滓から発見されることが多く、時代を確定する遺物がほとんど伴わないため所属時期の不明なものが多い。

B　古代・中世の遺跡

本遺跡周辺では、近年、古代遺跡の発掘が相次いでいる。本遺跡と同じ旧京ヶ瀬地区においては、土居内西遺跡（28）、村下遺跡（27）が挙げられる。土居内西遺跡では須恵器・土師器・珠洲焼・土師質土器・青磁・井戸側等、古代から中世の遺物が出土し、土坑・井戸・溝等を検出した［古澤前掲］。村下遺跡は古墳時代・古代・中世・近世と断続的に続く遺跡であるが、古代の遺構では方形の区画溝（推定一辺70～100m）の中に多くの掘立柱建物が配置されていた。蒲原津から約17kmの距離に位置することから、何らかの川湊的な施設が存在した可能性がある［古澤ほか2004］。

発久遺跡（26）は、四足瓶の異形横瓶が出土したことで早くから全国的に注目された遺跡である。1988年の確認調査では多量の須恵器・土師器が出土した。さらに同年秋と1999年の本調査では、延暦十四年の年号が記された木簡や、古代の職業軍人である健児が勤務したとされる全国でも初の木簡が出土し、古代の一般集落でなく国衙に関連する官衙的な遺跡と報告されている［遠藤2003］。腰廻遺跡（20）は、弥生時代終末から古墳時代・古代・中世までの複合遺跡である。古墳時代では須恵器の蓋杯・高杯・提瓶



第４図　周辺の古代・中世の遺跡分布
（国土地理院地形図「新潟」「新発田」「新津」「津川」1:50,000 を改変）

などがまとまって出土した。また一般集落には見られない子持勾玉や管玉が出土し、地方豪族などの有力者が居住していた可能性が高い。古代では宝亀五年の紀年銘のある荷札木簡、長さ 60cm 以上の県内では類を見ない大型の斎串が出土した。中世では須恵器系陶器の甕・壺・擂鉢、瓷器系陶器の甕などが多数出土した［遠藤前掲］。

12 世紀に入ると阿賀野市一帯は白河荘の領域に含まれる。横峰経塚群（65）では、2 基の経塚から陶製経筒、短刀、和鏡、墨書礫等が出土した。墨書礫の一つには、城四郎長茂を指していると推測されるものがあり、城氏との関連が考えられる。大坪遺跡（63）は、12 世紀頃を中心とした大規模な集落跡である。大型のものを含む多数の掘立柱建物を検出し、青磁、白磁など奢侈品である輸入陶磁器が多数出土していることから、当時の有力者の居館跡と考えられる［荒川ほか 2006］。東には前述の横峰経塚群があり、遺跡の規模を合わせて考えると、城氏に関連した遺跡である可能性が高い。

中世の遺跡としては、旧京ヶ瀬地区では町道上遺跡（32）がある。町道上遺跡は 13 ～ 15 世紀の中世集落遺跡である。方形竪穴状遺構や溝、井戸などを検出し、珠洲焼や瓷器系陶器などが出土した［古澤 2002］。また中世城館跡も数多く存在する。本遺跡の約 400m 南西には下ノ橋館跡（39）があり、さらに駒林要害（23）・七島館跡（42）・下条館跡（36）等がある。白河荘を支配した大見氏は、やがて分家して安田氏、水原氏、山浦氏を名乗るようになる。水原館跡（37）は水原氏、安田城跡（74）は安田氏、笹岡城跡（44）は山浦氏の拠点であったと思われる。旧水原町の堀越館跡（59）は、当時独立した勢力だったのか他のいずれかの勢力に属していたのかは、明確な資料がなく不明である［小田ほか前掲］。多数の城館の成立は時代の緊張の表れであり、本遺跡も動乱の渦中にいたことが推測される。

	遺跡名	時代		遺跡名	時代		遺跡名	時代		遺跡名	時代
1	本所居館跡	中世	21	北沢	中世（鎌倉）	41	三辺稲荷	古代・中世	61	鴨深平	平安・中世
2	江口館跡	中世	22	長兵エ沢窯跡	室町	42	七島館跡	不明	62	分田館跡	室町
3	新五兵衛山	平安	23	駒林要害跡	室町	43	土橋	縄文・平安	63	大坪	縄文・弥生・平安・中世
4	正尺 A	古墳・平安・近世	24	中谷内	平安	44	笹岡城跡	南北朝	64	物見山砦跡	不明
5	城山館跡	室町	25	滑橋	平安	45	清見寺窯址 A	平安	65	横峰経塚群	不明
6	名山 A	古代	26	発久	平安	46	女堂館跡	室町	66	上野林 J	旧石器・縄文・平安
7	上土地亀 B	古墳・古代	27	村下	平安	47	荒沢窯跡	室町	67	上野林 L	縄文・平安
8	堀越館跡	室町	28	土井内西	平安・中世	48	猿沢中世窯跡	室町	68	上野林 C	平安
9	長崎（城跡）	室町	29	永宝	平安	49	藤兵衛沢窯跡	室町	69	手代山砦跡	不明
10	秋葉 2 丁目窯跡	平安	30	城館跡	平安	50	貴中炙窯跡	鎌倉	70	手代山製鉄跡	平安
11	願造寺道上	平安・中世	31	大猿	中世	51	経沢中世墓域	鎌倉～室町	71	滝山	室町
12	七本松窯跡群	平安	32	町道上	中世	52	日洗沢中世墓域	鎌倉～室町	72	ツベタ B	平安
13	滝谷窯跡	平安	33	大曲川端	平安	53	藤台野中世墓域	鎌倉～室町	73	岩野 A	奈良
14	草水町 2 丁目窯跡	旧・縄・平	34	浜豊端	中世	54	今板	室町	74	安田城跡	室町～江戸
15	草水町 1 丁目窯跡	平安	35	七山堂	中世	55	曲畑	平安	75	八百刈	平安
16	愛宕澤	縄文・平安・中世	36	下条館跡	室町	56	村形城	室町	76	五輪敷沢窯跡	平安
17	大関館跡	中世	37	水原館跡	室町	57	野地城跡	室町	77	赤松山城跡	不明
18	長崎館跡	室町	38	柄目木	古代・中世	58	山浦城跡	室町	78	北郷	平安～南北朝
19	小曽根	平安	39	下の橋館跡	室町	59	堀越館跡	室町	79	六野瀬館跡	南北朝～室町
20	鷹魁	古墳～中世	40	山口	弥生・古代・中世	60	大室城跡	室町	80	赤坂山中世窯跡	中世（鎌倉）

第 2 表　周辺の古代・中世の遺跡

第Ⅲ章　遺跡の概要

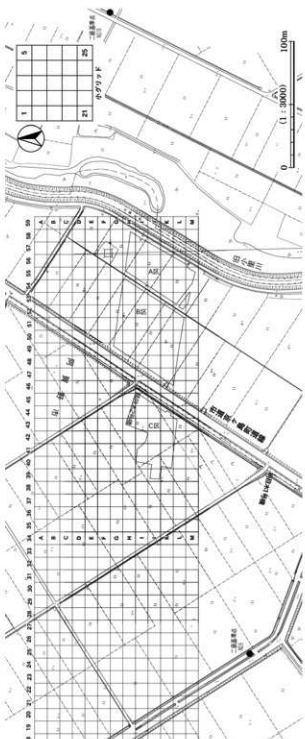
1　グリッド設定

平成 20 年度の当初計画では、柄目木遺跡と村前東Ａ遺跡を本調査予定であったので、両遺跡が入るようにグリッド設定を行った。道路法線のルートと東西方向がおおむね一致することから、方位を基準にグリッド設定を行った。使用したのは２級基準点 No.9（世界測地系Ｘ：203739.367、世界測地系Ｙ：61043.488）と No.10（世界測地系Ｘ:203850.122、世界測地系Ｙ:61551.943）である。両基準点の延長線の交点を基準として、10 × 10m の方眼で区画し大グリッドとした。南北方向を北からアルファベット大文字Ａ～Ｍで表し、東西方向を西から算用数字１～ 60 で表した。グリッドの表記は両者の組合せで 50A 等とした。柄目木遺跡の範囲は 38 ～ 58G ～ M の範囲である。50K の座標値は世界測地系Ｘ：203810.000、世界測地系Ｙ：61290.000 である。大グリッドの中は、２× 2m の更に小さな区画をし、北西角から１～ 25 の小グリッドとした。遺物などはこれらの大・小グリッドと層位などを記録して取上げた。

2　基本層序

遺跡は阿賀野川右岸の自然堤防上に立地する。現況は水田である。調査区は便宜的にＡ・Ｂ・Ｃ区の３区に分けた。Ａ・Ｂ区は、旧小里川から市道京ヶ島町道線の間で、北東方向に延びる用水を挟み、東側をＡ区、西側をＢ区とし、市道京ヶ島町道線から西側の範囲をＣ区とした（第６図）。

調査区の標高は約 6m で、西側から東側へ



第５図　グリッド設定図

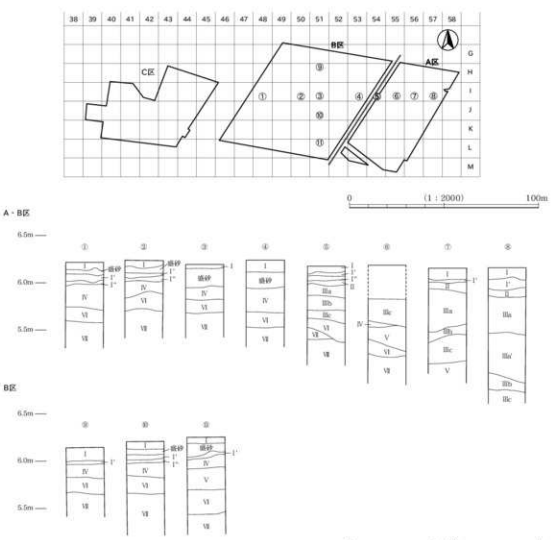
緩やかに傾斜するが、B・C区はほぼ平坦である。A区では、54・55グリッド付近から旧小里川へ向かって、急激な土層の落込みを観察することができる。Ⅳ層（古代上層の遺物包含層）、Ⅵ層（古代下層の遺物包含層）は、B区ではほぼ水平に堆積する。しかし、A区56グリッド以東では土層の落込みが著しく、その堆積が不明瞭となる。Ⅲ層はこの落込みの部分に認められ、厚く堆積する。調査区内の土層断面の観察から、この部分が旧河道にあたり、北東－南西方向に延びるものと推定される。また、中世の遺物包含層であるⅡ層は、東側へ向かって緩やかに傾斜して堆積するが、Ⅳ・Ⅵ層ほどの落込みは認められない。したがって、旧河道は古代上層・下層の時期に流路として存在し、その後、Ⅲ層の堆積により埋没したものと推定される。旧河道については、トレンチ調査を実施し、遺構・遺物の有無を確認したが、検出しなかった。

以下、地区ごとに基本層序を基本層序を説明する。

A・B区

Ⅰ　層：オリーブ褐色土（2.5Y4/4）　水田耕作土である。粘性あり、しまりなし。

Ⅰ'　層：オリーブ褐色土（2.5Y4/4）　水田耕作土である。粘性・しまりあり。



第６図　基本層序

Ⅰ" 層：黄褐色土（10YR5/6）　水田床土である。粘性あり、しまり強い。

Ⅱ　層：褐色シルト（10YR4/6）　中世の遺物包含層である。炭化粒中量含む。粘性・しまりあり。

Ⅲａ層：褐色シルト（10YR4/6）　A区では、中世の遺構確認面である。部分的に白色粘土少量含む。粘性・しまりあり。

Ⅲａ'層：褐色シルト（10YR4/6）　Ⅲａ層よりしまりがなく、やわらかい。粘性あり。

Ⅲｂ層：褐色シルト（10YR4/6）～灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性・しまりあり。

Ⅲｃ層：褐色シルト（10YR4/6）　A区では、中世の遺構確認面である。Ⅲａ層より白色粘土が少ない。粘性・しまりあり。

Ⅳ　層：褐色シルト（10YR4/4）　古代（上層）の遺物包含層である。B区では中世の遺構確認面である。部分的に炭化物を少量含む。粘性強い。しまりあり。

Ⅴ　層：褐色シルト（10YR4/4）～灰黄褐色粘土（10YR5/2）　A区では古代（上層）の遺構確認面である。粘性・しまりあり。

Ⅵ　層：にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　古代（下層）の遺物包含層である。B区では古代（上層）の遺構確認面である。粘性強い。しまりあり。

Ⅶ層：褐色シルト（10YR6/4）　古代（下層）の遺構確認面である。粘性・しまり強い。

Ⅷ層：褐色砂質シルト（10YR6/4）　粘性あり、しまり強い。

Ⅴ　層：にぶい黄褐色シルト質粘土（10YR5/4）　Ⅳ層より粘性、しまりが強い。

第Ⅳ章　遺　　構

1　記述の方法

遺構の説明には、本文、観察表、図面図版、写真図版を使用した。遺構名は遺構の種別ごとに略号を用いた。遺構の略号は第３表の通りである。番号は遺構の種類に関わらず遺構検出段階で確認順に通し番号を付けた。中世に属する遺構はＡ・Ｂ区は１から 100 番代を付けた。古代上層の遺構には 1000 番代、古代下層の遺構には 2000 番代の数字を付けた。ただし調査によって、遺構ではなく撹乱と判断したもの等は欠番とした。遺構番号は遺構の略号と数字の組み合わせとした。

本文は中世（Ａ・Ｂ地区）、古代上層、古代下層の遺構について、時期と種類ごとに遺構番号順に個別の記述を行った。

遺構種類	遺構略号
竪穴建物	SI
掘立柱建物	SB
井戸	SE
土坑	SK
ピット	P
焼土	SG
炭化物集中	SC
性格不明遺構	SX
溝	SD
道	SF

第３表　遺構略号

遺構各節や観察表に記載した遺構の平面や断面形の分類は『和泉Ａ遺跡』［加藤・荒川 1999］、遺構覆土の堆積形状の分類については『青田遺跡』［荒川ほか 2004］に準拠し、一部を改変して表記した（第７～９図）。土層断面図の色調は『新版　標準土色帳』［小山・竹原 1995］に基づく。

別表１の遺構観察表には、個別に掲載した遺構のみを記載した。観察項目は検出グリッド、平面形、断面形、長径、短径、深さ、長軸方向である。竪穴建物・掘立柱建物はこれらに柱穴の規模、柱間寸法、平面積を加えた。長軸方向は遺構の長径を基準に真北からの角度を測定し、「Ｎ－30°－Ｗ」のように記載した。竪穴建物はカマドの位置する辺に直交する線を長軸とした。カマドをもたないものは、長辺の方向を長軸とした。掘立柱建物の長軸方向や呼称については『山三賀Ⅱ遺跡』［坂井 1989］に準拠し、一部を改変して用いた（第 10 図）。土坑とピットは長径が１m 以上のものを土坑とし、それ未満をピットとする区分基準を設けたが、調査段階では遺構の性格を重視したため、この基準は必ずしも厳密には適用しなかった。

遺構図版は配置図・分割図・個別図から構成され、個別図の掲載は竪穴建物、掘立柱建物、井戸、土坑、ピット、焼土、性格不明遺構・溝・道・土器集中の順とした。図面の縮尺は基本的に以下の通りである。

遺構配置図：1/300・1/500、遺構分割図 1/200、竪穴・掘立柱建物の平面・断面図・エレベーション図：1/80、井戸の平面・断面図：1/60、掘立柱建物の柱穴断面図・土坑・ピット・性格不明遺構・溝の平面・断面図：1/40、1/60、1/80 である。

2　中世の遺構（Ａ・Ｂ区）

Ａ　概　　要

Ａ・Ｂ区で検出した遺構の総数は 169 基で、その内訳は掘立柱建物５棟、井戸 17 基、土坑 17 基、性格不明遺構 12 基、溝 16 条、ピット 99 基、焼土３基である。

遺構は調査区のほぼ全域で検出しており、遺構が散在する傾向にある。Ａ区ではⅢ層、Ｂ区ではⅣ層が検出面である。遺構からは青磁・珠洲焼・瀬戸焼・美濃焼・北越窯瓷器系陶器・土師質土器・砥石・鉄製

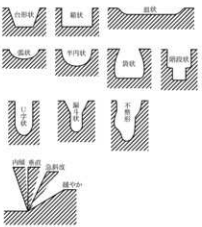
平面形状

円　　形	長径が短径の1.2倍未満のもの。
楕 円 形	長径が短径の1.2倍以上1.5倍未満のもの。
長楕円形	長径が短径の1.5倍以上のもの。
方　　形	長軸が短軸の1.2倍未満のもので、角のあるもの。
隅丸方形	長軸が短軸の1.2倍未満のもので、角に丸みがあるもの。
長 方 形	長軸が短軸の1.2倍以上で、角のあるもの。
隅丸長方形	長軸が短軸の1.2倍以上で、角に丸みがあるもの。
不 整 形	凹凸が激しく一定の平面形をもたないもの。 但し、おおよその形状のわかるものは不整円形、不整楕円形などと呼ぶ

第７図　遺構平面形状の分類

断面形状

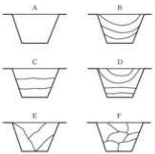
台 形 状	底部に平坦面をもち、緩やかに急斜度に立ち上がるもの。
箱　　状	底部に平坦面をもち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
皿　　状	溝を縦いた平面長径が深さの10倍以上で、底部に平坦面をもち、緩やかに立ち上がるもの。
弧　　状	底部に平坦面をもたない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半 円 状	底部に平坦面をもたない半円状で、急斜度に立ち上がるもの。
袋　　状	検出面の径よりも、底部の径が大きく、内傾して立ち上がるもの。
階 段 状	階段状の立ち上がりをもつもの。
U 字 状	平面長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
漏 斗 状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
不 整 形	凹凸で一定の断面をもたないもの。



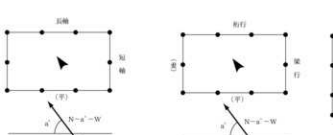
第８図　遺構断面形状の分類

遺構覆土堆積状況の分類

A　単層	覆土が均一とみなされるもの。
B　レンズ状	複数層がレンズ状に堆積するもの。
C　水平	複数層が水平に堆積するもの。
D　水平・レンズ	覆土が下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。
E　斜位	斜めに堆積するもの。
F　ブロック状	ブロック状に堆積するもの。（覆土が一度に堆積するものも含む。）



第９図　遺構覆土堆積状況の分類



第10図　掘立柱建物概念図

品などが出土しており、これらの遺物の年代観から 13 ～ 14 世紀に所属する遺構と思われる。

B　遺構各説

以下では個々の遺構の特徴的な事柄のみを抽出して記述した。これ以外は観察表にゆだねる。

1）掘立柱建物

掘立柱建物はＡ区から２棟、Ｂ区から３棟を検出した。長軸方向は北西―南東方向が４棟であり、これに直交する北東―南西方向のものが１棟である。いずれも梁行が１間のものである。掘立柱建物はＡ区西側に SB8・98 が重複して所在し、Ｂ区南側に SB87・97、Ｂ区北側に SB50 が所在する。掘立柱建物の柱痕底部には灰黄褐色シルト・灰黄色粘土が堆積しているものが見られ、柱の沈下を防止するために人為的に充填した可能性がある。

SB8（図版８・46）

54J・54K グリッドに所在する。北西―南東方向に長軸をもつ建物である。SB98 と重複し、これより新しい。桁行２間、梁行１間である。柱間寸法は桁行 3.2m ～ 2.8m、梁行 4m を測る。柱穴の掘形は円形である。３基の柱痕底部には灰黄色シルトが充填されている。

SB50（図版８・９・46）

52G・51H・52H グリッドに所在する。北西―南東方向に長軸をもつ建物である。桁行３間、梁行１間の身舎の東側に廂が付属する。柱間寸法は桁行 2.4 ～ 2.2m を測る。廂部分の幅は 1.3m である。身舎と廂の柱穴の掘形は円形であるが、廂の柱穴は身舎に対してやや小型である。２基の柱痕底部に灰黄色粘土が充填されている。

SB87（図版９・47）

49J・49K グリッドに所在する。北東―南西方向に長軸をもつ小型の建物である。桁行２間、梁行１間である。柱間寸法は桁行 2.5m である。柱穴の掘形は円形である。３基の柱痕底部に灰黄褐色シルトが充填されている。

SB97（図版 10・47）

49I・49J・50J グリッドに所在する。北西―南東方向に長軸をもつ建物である。桁行３間、梁行１間である。北東隅の柱穴は検出できなかった。柱間寸法は桁行 2.6m である。柱穴の掘形は円形である。

SB98（図版 10・47）

54J・54K グリッドに所在する。北西―南東方向に長軸をもつ建物である。桁行２間、梁行１間である。柱間寸法は桁行 2.9 ～ 2.6m である。検出面はⅣ層であるが、柱穴の掘形は方形であることから中世のものと判断した。SB8 と重複しているがこれより古い。SB8 はほぼ同方向・同位置で建て替えが行われているが、SB8 の調査時点で SB98 の柱穴はまったく検出できなかったことから、時間差はかなりあったものと考えられる。

2）井　　戸

井戸はＡ区で３基、Ｂ区で 14 基を検出した。素掘りのものと井戸側を持つものがある。井戸は掘立柱建物に近接する。SB8・98 には SE13・99、SB50 には SE41・84、SB87 には SB141、SB97 には SE139 が近接している。またＢ区南西には７基の井戸が集中しており、Ａ・Ｂ区の他の井戸の分布状況

と異なる。

SE13（図版11・47）

55K16・17グリッドに所在する素掘りの井戸である。本遺跡で調査された井戸としては小型のものである。覆土の堆積はレンズ状である。覆土はオリーブ褐色シルトが主体で、7層に識別される。断面形は弧状である。4層から珠洲焼編年［吉岡1994］Ⅲ期に属する珠洲焼の片口鉢が（図版35－1）が出土した。

SE41（図版11）

51I5グリッドに所在する素掘りの井戸である。覆土の堆積は水平である。覆土は黄褐色シルトを主体とする。側壁は垂直気味に立上がる。覆土から皿期に属する珠洲焼の片口甕（図版35－2）と、下層から曲物の一部が出土した。湧水による崩落の危険性があったため底部までの調査は行えなかったが、井戸の底部に水溜として曲物が設置されていた可能性がある。

SE84（図版11）

52H18～20・23～25グリッドに所在する。SD118と重複するがこれより新しい。側壁は急角度に立上がる。覆土中には炭化物が集中する11層を確認した。覆土から14世紀に属する土師質土器の皿（図版35－3）と混入と思われる古代の土師器小甕が出土した。湧水による崩落の危険性のため底部までの調査は行っていない。

SE88（図版11・47）

49H21・22グリッドに所在する素掘りの井戸である。覆土の堆積は下層が水平に、上層がレンズ状に堆積する水平・レンズ状である。覆土はにぶい黄褐色シルトが主体で18層に識別される。断面形は不整形であり、底面が平坦で、側壁は東側で垂直気味に立上がり、西側は「く」の字状に張り出し、開口部が緩やかに立上がる。

SE89（図版11）

48H15・20グリッドに所在する素掘りの井戸である。覆土の堆積は下層が水平に、上層がレンズ状に堆積する水平・レンズ状である。覆土は11層に識別され中層～下層にかけて層中に灰白色シルトブロックを多く含む。断面形は箱状である。底面は西側にやや傾斜する。

SE90（図版11・47）

56J3・4・8・9グリッドに所在する素掘りの井戸である。覆土の堆積は下層が水平に、上層がレンズ状に堆積する水平・レンズ状である。覆土は灰黄褐色シルトが主体で、20層に識別される。断面形は台形であり、底面は平坦で、側壁は東側が急角度に、西側は弧状に立上がる。

SE99（図版12・47）

54J20・25、55J16・17・21・22、55K1・2グリッドに所在する。断面は漏斗状である。覆土には礫や炭化物が多量に含まれる。覆土から13世紀後半から14世紀初め頃の青磁椀（図版35－6）、Ⅳ期に属する珠洲焼片口鉢（図版35－7）と、同時期に属すると思われる土師質土器皿（図版35－4・5）が出土した。湧水による崩落の危険性があったため、底面までの調査は行っていない。

SE139（図版12・48）

49I16・17・21・22グリッドに所在する。覆土の堆積は下層が水平で、上層がレンズ状に堆積する水平・レンズ状である。木製品は出土しなかったが、覆土の堆積状況から井戸側が設置されていたと想定される。覆土は35層に識別されるが、1～26層は井戸側内部の覆土であり、27～35は掘形である。断面形は不整形である。井戸側の底面はやや深く掘り込まれる。掘形の側壁は東側が垂直気味に立上がり、西側は

「く」の字状に立上がる。

SE141（図版 13・48）

50K11・12 グリッドに所在する素掘りの井戸である。覆土堆積はレンズ状で、3 層に識別される。平面は円形で断面は漏斗状である。底面は中央部分が深く掘り込まれ、側壁は北側が垂直気味に、南側はやや緩やかに立ち上がる。

SE143（図版 12）

47K21・22、47L1・2 グリッドに所在する。覆土堆積は水平状である。1 層と 4 層には炭化物が多量に含まれる。南側が調査区外に広がるが平面は楕円形と思われる。側壁は西側が垂直気味に、東側はやや緩やかに立上がり、開口部は垂直となる。湧水による崩落の危険性があったため、底面の調査は行っていない。

SE144（図版 12・48）

47K2・6・7・11・12 グリッドに所在する。覆土堆積はレンズ状である。覆土は黄褐色シルトが主体である。側壁は垂直気味に立上がる。掘形の南寄りに井戸側を検出したが、井戸側西側は覆土堆積時の土圧によって崩れていた。したがって本来は方形の木組みと思われる。井戸側は縦に並べた幅約 0.1 ～ 0.24m の側板の内側を、長さ約 0.8m の横桟で支えており、宇野による分類［宇野 1982］の方形縦板組隅柱横桟留めに相当すると思われる。井戸側内から曲物底板（図版 43 － 17）が出土しており、底部に水溜めの曲物が設置されていた可能性がある。

井戸の西側は調査区外に広がっているが、本遺構は市道京ヶ島町道線に近接しており、道路に及ぼす影響を考慮して井戸側の抜き取りや底面までの調査は行わなかった。

SE145（図版 13・48）

47J19・20・24・25 グリッドに所在する素掘りの井戸である。SD181 と重複し、これより新しい。覆土堆積はレンズ状である。覆土は 7 層に識別され、1 ～ 4 層は炭化粒を多量に含んでいる。断面形は階段状である。底面は平坦で側壁の東側が階段状に、西側は垂直気味に立上がる。1 層からは北越窯の甕片（図版 35 － 8）が出土した。

SE152（図版 13）

47K17・18・22・23、47L2 グリッドに所在する。覆土堆積はレンズ状である。覆土は開口部が褐灰色シルトを、下層は黄褐色シルトを主体とする。断面形は漏斗状で側壁の立ち上がりは垂直である。井戸の下部は幅 0.6m で垂直に掘り込まれていることから井戸側が設置されていた可能性がある。湧水による崩落の危険性があったため、底部までの調査は行えなかった。

SE155（図版 13・48）

47K14・15・19・20 グリッドに所在する素掘りの井戸である。P146 ～ 148 と重複するが、これより古い。覆土堆積はブロック状である。覆土は灰白色シルトが主体で 5 層に識別される。断面形は不整形である。底部は平坦で、側壁は北側がやや段状に立上がる。

SE159（図版 13・48・49）

48K6・7 グリッドに所在する素掘りの井戸である。SD181 と重複するがこれより新しい。覆土堆積はレンズ状である。覆土は暗オリーブ褐色シルトが主体で 5 層に識別される。断面形は底部が丸みをもつ U 字形であるが側壁はやや開き気味である。

SE161（図版 13・49）

47J25、48J21、47K5、48K1グリッドに所在する素掘りの井戸である。SD181と重複するがこれより新しい。覆土の堆積は水平である。覆土は黄褐色シルトが主体で10層に識別される。遺構断面は箱状である。

SE182（図版14・49）

50J13・14・19グリッドに位置する素掘りの井戸である。覆土の堆積はレンズ状で6層に識別され、1層は炭化粒を多量に含む。断面形は不整形であり、底面は北側に傾斜し側壁北側は急角度に、南側はやや緩やかに立上がる。3層から土師質土器が出土した（図版35－9）。

3）土　　坑

土坑は15基を検出した。A区で6基、B区で9基である。50G・51Gグリッドに6基が集中しており、SK42・115・116は覆土上層に炭化粒を多量に含む。

SK6（図版14・49）

54K22グリッドに所在する土坑である。覆土堆積はレンズ状である。覆土はオリーブ褐色シルトが主体で6層に識別される。平面形は南側が試掘67Tに切られているため不明である。断面形は弧状であり、底面は緩やかな丸みをおび、側壁はやや急角度に立上がる。2層からⅣ期初めの珠洲焼の片口鉢（図版35－12）と4層、6層から土師質土器皿（図版35－10・11）が出土した。

SK42（図版14・49）

51G18・19・23・24グリッドに所在する土坑である。覆土の堆積はレンズ状で12層に識別される。炭化物を多量に含む5層が遺構全体に堆積している。5層からはⅢ期に属する珠洲焼の片口鉢（図版35－13）と、熙寧元寶（北宋、1068年初鋳、図版43－16）1枚と磨滅が著しく銭種不明の古銭1枚が出土した。遺構北側には5層上面に暗灰黄褐色シルトが広がっている。覆土の堆積はレンズ状である。断面形は弧状であり、緩やかな丸みを帯びた底面から側壁の北側は緩やかに、南側は急角度で立上がる。土坑から骨片などは確認できなかったが、銭貨の出土を考慮すると墓坑の可能性も考えられる。

SK44（図版14・50）

51G13・18グリッドに所在する土坑である。覆土は2層に識別される。断面形は弧状であり、平坦な底面から側壁は緩やかに立上がる。

SK115（図版14・50）

50G8・9・13・14グリッドに所在する。覆土の堆積はレンズ状で7層に識別される。焼土粒・炭化物・炭化物粒を多量に含む3層から、かんざし状の鉄製品（図版43－14）が出土した。覆土の堆積はレンズ状である。断面形は不整形であり、底面は北側に傾斜し、側壁は弧状に立上がる。

SK116（図版14・50）

50G7・8・12・13グリッドに所在する。覆土の堆積はレンズ状である。覆土はオリーブ褐色シルトを主体に5層に識別される。遺構断面は弧状の土坑であり、底面は平坦であり側壁は緩やかに立上がる。

SK160（図版14・51）

48J12グリッドに所在する。覆土の堆積はレンズ状で覆土は6層に識別され、1・3・4層には炭化物が多量に含まれる。断面形は不整形である。

SK166（図版14・51）

48K13グリッドに所在する。覆土の堆積は水平4層に識別される。断面形は箱状である。遺構の東側

から砥石と思われる花崗岩（図版 43 － 9）と、凝灰岩の自然礫が各 1 点出土した。

4）ピ　ッ　ト

ピットは SB50 周辺の B 区北西側と南西側あたる SE145・159・161 等の井戸群周辺に集中する。A 区は北東側にピットが集中するが、掘立柱建物を構成することはできなかった。

P172

47K11 グリッドに所在する。底面はやや丸みをもち側壁は急角度に立上がる。ピット内から凝灰岩の自然礫が出土した。断面形は U 字状である。

5）性格不明遺構

性格不明遺構は 8 基を検出した。A 区で 1 基、B 区で 7 基である。この内 SX1・28・96 から焼土や炭化物とともに焼骨と思われる骨片が出土した。SX1 と SX96 の骨片が微細で部位が不明であるのに対し、SX28 は部位が明確な大型のものが多く、鑑定により人骨と判明した（第Ⅵ章 1 節参照）。

SX1（図版 15・51）

54L23 グリッドに所在する。覆土は 3 層に識別される。炭化物層直上の 1 層は焼土粒と 5mm 程の骨片が多量に含まれている。平面形は隅丸長方形であり、断面形は皿状である。

SX28（図版 15・51）

53J12・13・17・18 グリッドに所在する長楕円形の遺構である。覆土の堆積はレンズ状でオリーブ褐色シルトが主体の 10 層に識別される。遺構西側の掘り込みが浅いのに対し、東側は深く掘り込まれている。深く掘り込まれた東側の覆土は焼土粒・焼土ブロックや炭化粒、焼骨を多く含む。焼骨は特に 5・6 層から多量に出土した。平面形は長楕円形であり、断面形は西側が皿状、東側は弧状である。焼骨は鑑定の結果、人骨であることが判明し、覆土の状況等も考慮すると、火葬墓の可能性がある。

SX96（図版 15・52）

52K19・20・24・25 グリッドに所在する。覆土の堆積はレンズ状でオリーブ褐色シルトを主体とする 5 層に識別される。覆土には炭化物粒や骨片・焼土粒が含まれるが、4 層は特に炭化物と焼骨を多量に含む。断面形は弧状であり、底面は凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。焼骨は鑑定の結果、人骨であることが判明し、覆土の状況も考慮すると、火葬墓の可能性があるが判然としない。

SX180（図版 15）

48J11 グリッドに所在する。覆土の堆積はオリーブ褐色シルトの単層である。断面形は皿状である。

6）溝

長さ 10m 以上の大型の溝を 7 条検出した。北東―南西方向に延びるものが 3 条、北西―南東方向に延びるものが 2 条、南北方向に延びるものが 1 条、L 字状に延びる溝が 1 条である。これらは B 区北東で交差しており、切合いによる新旧関係は（古）SD118 → 126 → 117 → 114・113（新）となっている。

SD113（図版 15・52）

55H、53・54I、52・53J、51・52K、50・51L グリッドに所在する。A・B 区の中央を北東－南西方向に伸びる。覆土の堆積はレンズ状で黄褐色シルトの 6 層に識別される。1・2 層は 1 ～ 10cm 大の礫を少量含んでいる。溝の北側の断面は弧状であり、側壁は緩やかに立上がる。南側の断面は、上部は側壁

が緩やかな弧状であり下部は台形状である。溝幅は北東側が幅広く狭く南西側は浅くなる傾向にある。底部や覆土から土師質土器皿（図版35－14・15）やⅢ期末～Ⅳ期にかけての珠洲焼片口鉢（図版35－16～19）、北越窯瓷器系陶器（図版35－20）が出土した。

SD114（図版15・52）

53～55H～49・50Lグリッドにかけて所在する。SD113に並列する形でA・B区の中央を北東－南東に延びる。覆土の堆積はレンズ状で4層ないし5層に分層される。1・2層は小礫を多量に含んでいた。断面形は南側が半円状であり、側壁は急角度に立上がる。北側の断面形は底面が狭い漏斗状であり、側壁が急角度に立上がる。溝は北側にかけて深く掘り込まれる傾向にある。53H25・53I14グリッドでは溝が切れている。覆土から土師質土器皿（図版35－21・22）、Ⅳ期に属する珠洲焼片口鉢（図版36－24～26）、Ⅱ期末～Ⅲ期に属する珠洲焼の甕（図版36－28）Ⅳ期以前に属する珠洲焼壺（図版36－27）や藤沢編年［藤沢2005］古瀬戸中Ⅱ期に属する瀬戸美濃焼の椀（図版35－23）、北越窯の甕（図版36－29）が出土した。

SD117（図版15・52）

53G～Mグリッドに所在する。A・B区中央を南北方向に延びる。SD113・114・126・125・134と重複しているが、SD113・114より古くSD125・126・134より新しい。覆土の堆積はレンズ状で、オリーブ褐色シルトが主体の3層に識別されるが、場所により見極めは困難であった。断面形は台形状であり、平坦な底面から側壁は急角度に立上がる。覆土から混入したと思われる古代の土師器小甕が出土した。

SD118（図版15）

49・50G、50～53H、53Iグリッドに所在する。B区北側を北西－南東方向に延びる。SD117・126・SE84と重複しているがこれより古い。覆土はにぶい黄橙色シルトが主体で2層に識別され、断面形は弧状である。

SD119（図版15）

49G、49～51H、51Iグリッドに所在する。SD118に平行する形でB区北側を北西－南東に延びる。覆土の堆積はレンズ状で、にぶい黄橙色シルトが主体とする3層に識別される。断面形は台形状で側壁は急角度に立上がる。

SD126（図版15・52）

52～54H、52・53Iグリッドに所在する。B区北東を北東－南西方向及び北西－南東方向のL字形に延びる溝である。SD114・117・118と重複しているが、SD114・117より古く、SD118より新しい。覆土の堆積はレンズ状で3層に識別される。断面は台形状で側壁は緩やかに立上がる。

SD134（図版15）

52Iグリッドに所在し、北西－南東方向に延びる。SD114と重複するがこれより古い。覆土の堆積は単層で断面形は弧状である。

3 古代上層

A 概　　要

上層で検出した遺構の総数は70で、その内訳は土坑4基、道9条、土器集中1か所、焼土1か所、

炭化物集中２か所、ピット50基、溝１条、性格不明遺構２基である。

遺構は、Ｂ区東側～Ａ区西側の狭い範囲に集中して分布し、Ａ区はⅤ層、Ｂ区はⅥ層が検出面である。これらの遺構は検出層位、遺物の年代観などから、古代（8世紀後半～9世紀中葉）に所属するものと推定される。

Ｂ　遺構各説

以下では個々の遺構で特徴的な事柄のみを抽出して記述した。これ以外は観察表に委ねる。

SK1066（図版19・53）

54K16グリッドに所在する。覆土はレンズ状に堆積し、５層に識別される。３層は締りの強い焼土、４層は約10cmの厚さで、炭化粒をやや多く含む。底面は凹凸があり、側壁は北側で階段状、南側では緩やかに立上がる。また、壁面、底面は被熱し、部分的に赤化している。覆土の堆積状況などから、炭窯の可能性が考えられる。遺物は土師器が10.5g出土した。

P1049（図版19・53）

52I13グリッドに所在する。覆土はレンズ状に堆積し３層に識別される。覆土は褐色シルトが主体で、１層は炭化粒を微量含む。底面は凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。

SF1010（図版19・53）

51G、52G・Ｈグリッドにかけて、円形・楕円形・不整形の落込みが10基並列する。これらの落込みは波板状凹凸面を構成し、北西－南東方向に延びる。落込みの覆土はいずれも単層で、灰黄色粘土が堆積し、堅く締っている。底面は平坦面を形成するもの、凹凸の著しいものなど多様である。遺物は土師器が204.5g出土した。

SF1030（図版19・53）

51～54G・Ｈ・Ｉグリッドにかけて、楕円形・不整形の落込みが８基並列する。これらの落込みは、54Ｈグリッド南側で一部途切れるものの、波板状凹凸面を構成して北東－南西方向に延びる。落込みの覆土はいずれも単層で、灰黄色粘土が堆積し、堅く締っている。底面は平坦面を形成するもの、凹凸の著しいものなど多様である。遺物は須恵器有台杯（図版36－１～３）、土師器が747g出土した。

SF1043・1044・1064・1065（図版19・54）

52J～Ｋグリッドに所在する。個々に別遺構として調査したが、位置関係などから同一の遺構と捉えることができる。SF1064・1065間でやや間隔が開くが、円形・楕円形・不整形の落込みが21基並列する。これらはSF1043・1064間でやや蛇行し、北東－南西方向に延びる。落込みの覆土はいずれも単層で、灰白色シルトが堆積し、堅く締まっている。底面は平坦面を形成するもの、凹凸の著しいものなど多様である。遺物はSF1043から土師器が62.5g出土した。

SF1101（図版19・54）

53K、54J・Ｋグリッドにかけて、楕円形・不整形の落込みが９基並列する。これらの落込みは波板状凹凸面を構成し、北東－南西方向に延びる。分布状況から、52L東側、53K・Ｌ西側に存在する落込み列に続くものと考えられる。落込みの覆土は締りの強い灰黄褐色粘土が堆積し、断面形は台形状のものが主体である。底面が酸化して褐色に変色するものが多い。

SF1102（図版19・54）

54・55Kグリッドにかけて、不整形・円形・楕円形の落込みが11基並列する。これらの落込みは波

板状凹凸面を構成し、北東－南西方向に延びる。約5m西側に位置するSF1101とおおむね平行する。分布状況から、52K南側、53L東側に存在する落込み列に続くものと考えられる。落込みの覆土は締りの強い灰黄褐色粘土が堆積し、断面形は台形状のものが主体である。底面が酸化して褐色に変色するものが多い。

土器集中1009（図版19・54）

53G22・23グリッドに所在し、2.4m×1.5mの範囲に遺物が集中する。集中域には疎密があり、西側に分布が偏る。また、集中域の中央付近には浅い落込みがあり、焼土・炭化粒を含む。遺物は土師器長甕（図版36－5～7）、鍋（図版36－8）、須恵器有台杯（図版36－4）が出土した。

4 古代下層

A 概　　要

下層で検出した遺構の総数は313で、その内訳は竪穴建物4軒、掘立柱建物3棟、井戸3基、土坑84基、焼土17か所、溝31条、炭化物集中2か所、ピット141基、道2条、性格不明遺構25基である。

遺構は調査区のほぼ全域で検出しているが、特にB区北東部に集中する。分布状況から、遺跡は北東方向へ延びるものと考えられる。これらの遺構は検出層位、遺物の年代観などから古代（8世紀後半～9世紀初頭）に所属するものと推定される。

B 遺構各説

以下では個々の遺構で特徴的な事柄のみを抽出して記述した。これ以外は観察表に委ねる。

1）竪穴建物

平面形はいずれも方形で、長軸は東～南を向く。遺構が集中するB区北東部の外縁に位置し、規模は長径が5m前後のもの（SI2206・2088・2258）と、3m程度とやや小型のもの（SI2110）が認められる。

カマドは燃焼部の火床面を確認したが、煙道・袖部は残存していない。また、カマドは5m規模の建物には存在するが、小型の建物では検出されなかった。

柱穴は基本的に壁沿いに構築されるが、5m規模の建物は床面からの深さが約0.1～0.18mと浅く、不明瞭なものが多い。これに対して、小型の建物では床面からの深さが約30cmを測り、柱痕が認められるものも存在する。

以上のことから、5m規模の建物と小型の建物では、カマド、柱穴などの構築において差異が認められる。カマドを持たない小型の建物については、その構造から住居以外の機能も想定される。

SI2006（図版25・55～57）

51・52Iグリッドに所在し、北西－南東方向に長軸をもつ建物である。覆土は5層に識別され、いずれも焼土粒・炭化粒を含む。床面は平坦で、側壁は緩やかに立上がる。柱穴は南西隅で1基確認した。

カマドは南壁の西寄りに位置し、煙道・袖部は確認できなかった。火床面は0.5×0.36mの範囲で赤化し、堅緻である。火床面の南側で、土師器小甕の下半部（図版37－20）が倒立した状態で出土した。外面は被熱による痕跡が認められ、黒変している。位置関係などから支脚に使用されたものと推定される。火床面の西側では、土師器長甕の上半部（図版37－24）が正立した状態で出土した。被熱による痕跡は認めら

れず、位置関係などから袖部の芯材に使用されたものと考えられる。また、カマドの東側では、焼けて赤化した焼土面を確認した。焼土面はカマドと重複し、これに切られる。焼土は堅緻で、確認状況などから火床面と推定される。この焼土面とカマドの重複関係から、カマドは造り替えられたものと考えられる。

建物中央部の床面では土坑２基（SK2202・2217）が存在する。これらは重複し、SK2202が新しい。

SK2202の覆土は４層に識別され、１層は締まりの強い焼土が堆積する。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。SK2217の覆土は４層に識別され、いずれも焼土・炭化粒を含む。底面は平坦で側壁は緩やかに立上がる。土坑付近の床面には、土坑覆土と同様の焼土粒・炭化粒が認められることから、建物と土坑は同時期のものであると推定される。

遺物はSI2006から土師器無台椀（図版37－19）、小甕（図版37－20～23）、長甕（図版37－24）、鍋（図版37－25）、鉄滓が出土した。

SI2088（図版25・26・56～59）

52J・Kグリッドに所在し、北西－南東方向に長軸をもつ建物である。覆土は７層に識別され、水平に堆積する。床面はやや凹凸があり、側壁は急角度で立上がる。柱穴は北東隅２基、北壁側２基、南壁側３基、西壁側１基の計８基を確認した。西壁から約0.5m内側には幅0.14～0.24、深さ0.06～0.14cmの溝が、西辺と平行して存在する。検出状況などから、間仕切り溝と推定される。

カマドは南東壁の隅付近に位置し、煙道・袖部は確認できなかった。火床面は赤化し、堅緻である。カマドの東側に近接して楕円形のピット（P1）が存在する。P1の覆土は３層に識別され、いずれも焼土・炭化物を含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。

遺物は土師器小甕（図版37－26・27）、長甕（図版38－28・29）、鍋（図版37－30）、羽口（図版43－1）、不明鉄製品があり、カマド周辺と北西隅にまとまって出土した。カマド周辺では土師器長甕（図版37－28）が出土し、これと同一個体と考えられる土器（図版37－29）を覆土で確認した。北西隅では小甕と鍋が出土した。

SI2110（図版26・59）

53Iグリッドに所在し、南北方向に長軸をもつ建物である。SG2096と重複し、これより古い。覆土は３層に識別され、１層は焼土・炭化物を多量に含む。床面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。柱穴は北西・南東・南西隅に６基存在し、南西隅では一部重複しながら４基集中する。柱穴の覆土は焼土・炭化粒を含む。カマドは確認できなかった。遺物は覆土１層から多量に出土し、土師器甕、須恵器無台杯（図版38－31・32）、土錘（図版43－4）が出土した。

SI2258（図版26・59・60）

51Lグリッドに所在し、北東－南西方向に長軸をもつ建物である。土器集中2227と重複し、これより古い。覆土は５層に識別され、水平に堆積する。床面はやや凹凸があり、側壁は南側では急角度、そのほかは緩やかに立上がる。柱穴は確認できなかった。

カマドは南壁中央付近に位置し、煙道・袖部は確認できなかった。火床面は赤化し、やや締りがある。遺物は土師器小甕（図版38－34）、土師器長甕（図版38－35）、土師器鍋、須恵器有台杯（図版38－33）、鉄滓が出土した。

2）掘立柱建物

掘立柱建物は、遺構が集中するB区北東部に位置する。検出状況から竪穴建物より北側に分布域が広

がるものと推定される。長軸は北西－南東方向が２棟、東西を向くものが１棟である。建物の構造は、遺構の重複から検出できなかった柱穴が多かったため、不明な部分が多い。

SB2367（図版 27・60）

51･52H グリッドに所在し、北西－南東方向に長軸をもつ建物である。SK2306 と重複し、これより古い。梁行には SX2340・2310 が存在するため、全容は不明であるが、柱穴の配置から桁行４間、梁行１～２間と推定される。柱間寸法は桁行 1.12 ～ 1.64m を測り、柱穴の掘形は円形である。

SB2369（図版 27・60）

53・54H グリッドに所在し、北西－南東方向に長軸をもつ建物である。SK2057・2072・2239・2247・SD2237 と重複し、これより古い。遺構の大部分をほかの遺構との重複により欠失するため、全体の状況は不明である。残存部分の柱穴の配列から桁行３～４間、梁行２間と推定される。柱穴の掘形は円形である。

SB2370（図版 27・60）

53G グリッドに所在する。桁行は４間であるが、建物が調査区外へ延びるため全体の状況は不明である。SK2015・2263 と重複し、これより古い。残存状況から長軸は北東－南西を向くと推定される。柱穴の掘形は円形である。

3）井　　戸

井戸は建物の分布とは異なり、B 区西側にまとまりをもって存在する。規模は約 1.5 ～ 3m である。覆土の堆積状況から井戸側の存在が推定されるものもある。

SE2152（図版 28・61）

50H22・23、50I2・3 グリッドに所在する。覆土は 16 層に識別され、断面形は階段状である。覆土は褐色シルトが主体で、白色シルト・炭化物を含む。16 層は軟弱な明緑灰色シルトが厚く堆積し、底面近いものと推定される。遺物は土師器が 16.5g 出土した。

SE2343（図版 28・61）

49I8･9･13･14 グリッドに所在する。覆土は９層に識別され、上層～中層にかけて炭化粒を多量に含む。土層断面の観察から、１～５層は井戸側、６～９は掘形の覆土と考えられる。側壁は西側で垂直、東側では階段状に立上がる。遺物は土師器が 1.0g 出土した。

SE2347（図版 28・61）

48I14・19 グリッドに所在する。覆土は８層に識別される。覆土中層では、0.65 × 0.5m の範囲で炭化物層を検出した。層厚は約 5cm を測る。底面はやや凹凸があり、断面形は袋状である。遺物は鉄片のほか、須恵器が 36.0g 出土した。

4）土　　坑

調査区の全域で確認されているが、建物が分布する B 区北東部で多く検出されている。覆土は中世の土坑と比べて粘性が弱く、焼土・焼土粒を含むものが多い。また、覆土に炭化物・炭化粒を多量に含み、底面・側壁が熱を受けて赤化するものが存在する。Ⅵ層ではこのような土坑を９基確認しており、検出状況から炭窯の可能性が考えられる。分布は、ほかの土坑とは異なり、A・B 区の南側で検出した。

SK2012（図版 28）

53G21・22 グリッドに所在する。SK2001 と重複し、これより古い。覆土はレンズ状に堆積し、3 層に識別される。1 層は焼土・焼土ブロックを多量に含み、2、3 層には炭化物・炭化粒を含むが、側壁、底面に被熱の痕跡は認められない。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。

SK2026（図版 28・61・62）

51G16・17・21・22 グリッドに所在する。覆土は 6 層に識別され、上層は焼土・炭化物・炭化粒、下層は炭化粒を含む。土坑東側の確認面では、0.72 ～ 0.78m の範囲に焼土を確認した。焼土面は赤化し、やや締りが強い。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。遺物は焼土面から土師器鍋（図版 38 － 37）、4 層から土師器長甕（図版 38 － 36）が出土した。

SK2051（図版 28・62）

53H10 グリッドに所在する。土坑西側を大きく欠失するため、平面形は不明である。覆土は 11 層に識別され、ブロック状に堆積する。覆土は焼土粒・炭化粒を含む。底面は凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。遺物は須恵器の壺（図版 38 － 38）が出土した。

SK2057（図版 28・62）

54H11･12 グリッドに所在する。覆土は 12 層に識別され、ブロック状に堆積する。確認面では径 0.68m の焼土面を確認した。焼土厚は 0.04m を測り、堅緻である。上層から中層にかけて、焼土粒・炭化粒をやや多く含む。底面は平坦で、側壁は緩やかに立上がる。遺物は須恵器が 26.0g 出土した。

SK2072（図版 29・62）

54H11 グリッドに所在する。SK2057 と重複し、これより古い。覆土は 3 層に識別され、上層～中層は焼土粒・炭化粒を多量に含む。底面は平坦で、側壁は急角度で立上がる。

SK2087（図版 29・62・63）

52J19 グリッドに所在する。覆土は 4 層に識別され、水平に堆積する。1 層下位、4 層～底面で厚さ約 0.01m の焼土面を確認した。この間に 2 層の黄褐色砂、焼土・炭化物を多量に含む 3 層の褐色シルトが堆積する。底面は凹凸があり、側壁は急角度で立上がる。また、底面、側壁は被熱し、赤化する。覆土の堆積状況などから炭窯と考えられる。硬化した焼土面が 2 層認められることから、2 度以上使用されたものと推定される。遺物は土師器が 23.0g 出土した。

SK2094（図版 29）

53I22 グリッドに所在する。覆土は 4 層に識別され、上層は焼土･炭化物を多量に含む。断面形は弧状で、東側の側壁は急角度で立上がる。遺物は須恵器が 21.0g 出土した。

SK2104（図版 29・63）

53I5・10 グリッドに所在する。覆土は 4 層に識別され、南側では褐色シルト、北側では白色粘土が堆積する。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。遺物は須恵器が 2.0g 出土した。

SK2105（図版 29・63）

53I9 グリッドに所在する。覆土は 6 層に識別され、ブロック状に堆積する。覆土は褐色シルトが主体で、炭化物を含むものが多い。底面は南側の一部で凹凸があるものの、おおむね平坦である。側壁は急角度に立上がる。遺物は土師器の小甕（図版 38 － 39・40）が出土している。

SK2106（図版 29・63）

53I13 グリッドに所在する。土坑上面は中世の溝（SD117）に切られる。覆土は 3 層に識別され、水平に堆積する。覆土は褐色シルトが主体で、いずれも焼土・炭化物を含む。底面は平坦で、側壁は急角度に

立上がる。遺物は1層から須恵器杯蓋（図版38－42）、3層から須恵器無台杯（図版38－41）が出土した。

SK2117（図版29・64）

54H20・24・25グリッドに所在する。西側は欠失し、東側は用水が走るため、規模等は不明である。土坑中央部には径約0.7mの落込みを確認した。覆土は4層に識別され、断面形は階段状である。遺物は1層から多量に出土しており、須恵器無台杯（図版39－43～45）、土師器小甕（図版39－46・47）、土師器長甕（図版39－48）、鉄滓が出土した。

SK2144（図版29・64）

53I11・12グリッドに所在する。SD2122と重複し、これより古い。覆土は2層に識別される。いずれも赤褐色シルトが堆積し、1層は炭化物を多量に含む。底面は凹凸があり、側壁は急角度に立上がる。遺物は羽口（図版43－2）が出土した。

SK2150（図版29・64）

50I19グリッドに所在する。覆土は2層に識別され、水平に堆積する。2層は炭化物層で、木炭が残る。層厚は約6cmである。底面はやや凹凸があり、側壁は急角度に立上がる。また、底面、側壁の一部は被熱し、赤化する。覆土の堆積土状況などから、炭窯の可能性が考えられる。遺物は土師器が0.5g出土した。

SK2157（図版30・64・65）

51L9・10グリッドに所在する。覆土は3層に識別され、水平に堆積する。2層は炭化物層で、木炭が残る。底面、側壁の一部は被熱し、赤化する。覆土の堆積状況などから、炭窯の可能性が考えられる。遺物は土師器が64.0g出土した。

SK2160（図版30・65）

51L2・3グリッドに所在する。覆土は2層に識別され、褐色シルトが堆積する。1層は白色シルトブロックを多量に含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。

SK2164（図版30・65）

51L3・4・8・9グリッドに所在する。覆土は3層に識別され、1層は焼土・炭化物を多量に含む。底面はやや凹凸があり、側壁は急角度に立上がる。遺物は1層から多量に出土し、須恵器無台杯（図版39－49）、土師器長甕（図版39－50）が出土した。

SK2216（図版30）

52G25グリッドに所在する。覆土は2層に識別され、いずれも炭化粒を含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。遺物は1層から須恵器無台杯（図版39－51）が出土した。

SK2219（図版30）

54H1・2・6・7グリッドに所在する。SK2226と重複し、これより古い。覆土は3層に識別され、いずれも炭化粒を含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。

SK2221（図版30・65）

54G23・24、54H3・4グリッドに所在する。P2231・2236・2245・2271・2272と重複し、これより古い。土坑北側を欠失するが、残存部の状況から平面形は楕円形と推定される。覆土は4層に識別され、水平に堆積する。1～3層は炭化粒を多量に含む。底面はやや凹凸があり、側壁は急角度に立上がる。遺物は確認面～中層にかけて多量出土し、須恵器無台杯（図版39－52・53）、土師器鉢（図版39－54）、土師器小甕と長甕（図版39－55～57）が出土した。

SK2223（図版30）

53H13・18 グリッドに所在する。土坑北側を欠失するが、残存部分の状況から平面形は楕円形と推定される。覆土は2層に識別され、焼土粒・炭化粒を含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。遺物は1層から土師器小甕（図版39－58）が出土した。

SK2228（図版30・66）

53L14 グリッドに所在する。覆土は4層に識別され、水平に堆積する。3～4層にかけて焼土・焼土粒・炭化粒を多量に含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立ち上がる。また、底面、側面は被熱し、赤化する。覆土の堆積状況などから、炭窯の可能性が考えられる。

SK2233（図版30・66）

54L11 グリッドに所在する。覆土は3層に識別され、1層下位～2層にかけて焼土・炭化粒を多量に含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。また、底面、側壁は被熱し、赤化する。覆土の堆積状況などから、炭窯の可能性が考えられる。

SK2242（図版30）

54L12 グリッドに所在する。覆土は2層に識別され、水平に堆積する。2層は炭化粒を多量に含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。また、底面、側壁は被熱し、赤化する。覆土の堆積状況などから、炭窯の可能性が考えられる。

SK2264（図版31・66）

54L5 グリッドに所在する。覆土は6層に識別され、6層は焼土粒・炭化粒を多量に含む。底面はやや凹凸があり、側壁は急角度に立上がる。また、底面、側壁は被熱し、赤化する。覆土の堆積状況などから、炭窯の可能性が考えられる。

SK2281（図版31・67）

52I3・4 グリッドに所在する。土坑北側を欠失するが、残存部分の状況から平面形は円形と推定される。覆土は3層に識別され、1層は炭化粒を多量に含む。底面はやや凹凸があり、側壁は急角度に立上がる。遺物は検出面で須恵器無台杯（図版39－59）が出土した。

SK2283（図版31・67）

52I8・9・13・14 グリッドに所在する。土坑上面は中世の溝（SD126）に切られる。覆土は単層で、焼土粒・炭化粒を含む。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。遺物は須恵器無台杯（図版39－60）が出土した。

SK2300（図版31・67）

52H9 グリッドに所在する。SI2258 と重複し、これより古い。覆土は5層に識別され、ブロック状に堆積する。覆土はオリーブ褐色シルトが主体で、焼土粒・炭化粒を含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。

SK2315（図版31・67）

52H24・25 グリッドに所在する。P2326 と重複し、これより古い。土坑北側を欠失するが、残存部分の状況から平面形は楕円形と推定される。覆土は4層に識別され、いずれも炭化粒を含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。遺物は土師器鍋（図版39－61）が出土した。

SK2326（図版31）

52I4・5 グリッドに所在する。SK2325 と重複し、これより古い。覆土は単層で、炭化粒を多量に含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。

SK2337（図版 31・68）

51G22 グリッドに所在する。覆土は単層で，炭化粒を少量含む。底面は平坦で，側壁は急角度に立上がる。

SK2342（図版 31・68）

55K16 グリッドに所在する。覆土は 3 層に識別され，2 層は炭化物を多量に含む。底面はやや凹凸があり、側壁は急角度に立上がる。また、底面、側壁の一部は被熱し、赤化する。覆土の堆積状況などから、炭窯の可能性が考えられる。

SK2345（図版 31・68）

49H7・12 グリッドに所在する。覆土は単層で、焼土粒・炭化粒を少量含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。

SK2346（図版 31・68）

48 I15、49I11 グリッドに所在する。SK2348 と重複し、これより古い。覆土は単層で、炭化粒を微量含む。底面は平坦で、側壁は緩やかに立上がる。

SK2351（図版 32・68）

53L10・15 グリッドに所在する。覆土は単層で、炭化粒をわずかに含む程度で平面形の検出は非常に困難であった。底面は平坦で、側壁は緩やかに立上がる。遺物は須恵器杯蓋（図版 39 － 62）、須恵器短頸壺（図版 39 － 63）が出土した。

SK2356（図版 32）

49J16 グリッドに所在する。覆土は 5 層に識別され、2 層は炭化粒を多量に含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。また、底面、側壁の一部は被熱し、赤化する。覆土の堆積状況などから、炭窯の可能性が考えられる。遺物は土師器が 42.5g 出土した。

SK2361（図版 32）

49L7 グリッドに所在する。覆土は 3 層に識別され、3 層は炭化物層である。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。また、底面、側壁は被熱し、赤化する。覆土の堆積状況などから、炭窯の可能性が考えられる。遺物は須恵器無台杯（図版 40 － 64）が出土した。

5）ピ ッ ト

分布は B 区北東部に集中する。規模・形状から柱穴と考えられるものが主体である。土層断面の観察から柱痕が認められ、底面に白色～灰黄褐色シルトが充填されているものが多く認められる。中世の掘立柱建物においても、底面に灰黄褐色シルトが充填される柱穴が存在する。したがって、本遺跡では柱の沈下を防ぐために、この灰黄褐色シルトを用いていたことが考慮される。

P2009（図版 32）

53G21 グリッドに所在する。覆土は 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。いずれも炭化物を含むが、特に 1 層に多い。遺物は 1 層から須恵器有台杯（図版 40 － 65）、土師器 144.0g が出土した。

P2013（図版 32・69）

53G18・23 グリッドに所在する。覆土は 3 層に識別され、いずれも焼土粒・炭化粒を含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立ち上がる。遺物は 1 ～ 3 層にかけて多量に出土し、土師器長甕（図版 40 － 67・68）、土師器小甕（図版 40 － 66）が出土した。

P2073（図版 32・69）

52G23 グリッドに所在する。覆土は 3 層に識別される。覆土の堆積状況から 1 層は柱痕と考えられる。遺物は 1 層から須恵器無台杯（図版 40 － 69）が出土した。

P2084（図版 32）

52K6 グリッドに所在する。覆土は 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。1 層は焼土・炭化物を多量に含む。断面形は弧状である。

P2085（図版 32）

53J21 グリッドに所在する。覆土は 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。1 層は焼土・炭化物を多量に含む。断面形は弧状である。

P2086（図版 29）

52J19 グリッドに所在する。覆土は単層で、焼土・炭化物を少量含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。遺物は土師器が 48.0g 出土した。

P2149（図版 29）

53I11・16 グリッドに所在する。SK2144 と重複し、これより古い。覆土は 6 層に識別される。この下には白色シルトが充填されており、堅く締まる。遺物は土師器が 73.5g 出土した。

P2246（図版 32）

53I5 グリッドに所在する。覆土は 4 層に識別される。覆土の堆積状況から 2 層は柱痕と考えられる。この下には灰黄褐色シルトが充填されており、堅く締まる。遺物は土師器が 6.0g、須恵器が 70.0g 出土した。

P2265（図版 33）

55I17 グリッドに所在する。覆土は単層で、にぶい黄褐色シルトが堆積する。底面はやや凹凸があり、側壁は急角度に立上がる。

6）焼　　土

遺構の集中する B 区北東部に分布し、特に集中域の南側先端の 53I グリッドに集中する。焼土面は被熱が強く、硬化したものが多い。

SG2016（図版 32）

53G23、53H3 グリッドに所在する。1、2 層は堅く締った焼土で、特に 1 層は被熱が強く、赤化する。遺物は土師器が 6.0g 出土した。

SG2096（図版 32）

53 I 24 グリッドに所在する。遺構南側を欠失するため、平面形は不明である。1 層上面は被熱し、赤化する。焼土面の周辺には、炭化物を多量に含む 2 層の黄褐色シルトが広がり、レンズ状に堆積する。遺物は土師器が 7.0g 出土した。

SG2100（図版 32）

53I23 グリッドに所在する。遺構北側、南側を欠失するため、平面形は不明である。1 層は被熱し、赤化する。焼土面の周辺には、炭化物を小量含む 2 層の黄褐色シルトが広がり、レンズ状に堆積する。遺物は土師器が 7.5g 出土した。

SG2103（図版 32）

53I22・23 グリッドに所在する。遺構北側、南側を欠失するが、残存部分の状況から平面形は楕円形

と推定される。1層及び2層上面は被熱し、赤化する。2層下位～3層は炭化物を少量含み、レンズ状に堆積する。遺物は2層から須恵器有台杯（図版40－72）が出土した。このほか、土師器が50.5g出土した。

SG2156（図版32・69）

48K20・25グリッドに所在する。ブロック状に堆積する。硬化した焼土面は認められない。

SG2249（図版32・69）

53H17グリッドに所在する。1・2層は被熱し、赤化する。焼土面の周辺には、炭化粒を微量含む3層のオリーブ褐色シルトが広がり、レンズ状に堆積する。遺物は土師器が54.5g、須恵器が4.0g出土した。

SG2325（図版32）

51 I12グリッドに所在する。1層は被熱し、赤化する。焼土面の東側には、炭化粒を微量に含む2層の黄褐色シルトが広がり、レンズ状に堆積する。遺物は土師器が81.5g出土した。

SG2344（図版33）

51I1グリッドに所在する。SK2330と重複し、これより古い。1層は被熱し、赤化する。焼土面の北西側には、焼土粒を多量に含む2層の暗赤褐色シルトが広がる。遺物は土師器が134.0g、須恵器が0.5g出土した。

7）性格不明遺構

SX2083（図版33・69・70）

52L2・3グリッドに所在し、遺構東側を欠失する。残存部分の状況から平面形は不整形で、東西に延びると推定される。覆土は単層で炭化物を含む。底面は凹凸があり、側壁は急角度に立上がる。遺物は須恵器有台杯（図版40－76）、土師器62.5gが出土した。

SX2153（図版33・70）

50H16・17・21・22グリッドに所在する。遺構西側を試掘トレンチで欠失するが、残存部分の状況から平面形は方形と推定される。覆土は単層で炭化物を含む。底面は凹凸があり、側壁は急角度に立上がる。遺物は土師器小甕等38.5g、鎌（図版43－15）が出土した。遺構覆土の識別は非常に困難であったが、鎌の出土を考えると、竪穴建物であった可能性も残る。

SX2163（図版33・70）

51K12・13・17～19・22～24、51L3・4グリッドに所在する。包含層掘削時に周辺から遺物がまとまって出土したことや、広く炭化物が散らばることから、遺構と想定し炭化物が確認できる範囲に十字に土層観察用のベルトを設定した。覆土は単層で炭化物を多量に含む。底面は凹凸があり、明確に側壁が立上がるとは言いがたい。遺物は想定より少なく、土師器が38.5g出土したのみであった。遺構であると断定するには問題が残ろう。隣接する炭窯と見られるSK2157との何らかの関連が想定される。

SX2256（図版33・70）

55I21・22グリッドに所在する。P2265と重複し、これより古い。覆土は2層に識別され、水平に堆積する。底面は平坦で、側壁は南側で階段状、そのほかは急角度に立上がる。遺物は須恵器盤（図版40－77）、土師器が6.5g出土した。

SX2327（図版33）

51G18・19グリッドに所在する。覆土は単層で、浅黄色シルトが堆積する。遺構の形状、深さ等は井戸に類似するが、覆土の堆積状況に相違が認められる。底面は平坦で、側壁は垂直に立上がる。

SX2334（図版 33）

53K13・14・18・19・23 グリッドに所在する。遺構北西側は用水が走るため、調査できなかった。残存部分の状況から平面形は方形と推定される。覆土は 4 層に識別され、1・2 層は白色シルトブロック・炭化物を含む。東側の底面はやや凹凸があるが、そのほかは平坦である。側壁は急角度に立上がる。遺構北側の 1 層から、土師器 134.0g、須恵器 0.5g、置き砥石（図版 43 － 11）が出土した。遺構の平面形の識別は非常に困難であった。置き砥石が出土したことを考慮すると竪穴建物の可能性も残る。

SX2358（図版 33・70）

50L14・15・19・20 グリッドに所在する。遺構南側を欠失するが、残存部分の状況から平面形は方形と推定される。東壁付近は、土坑状の落込みが認められる。覆土は単層で、炭化物を微量含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。遺物は土師器が 70.0g 出土した。

8）溝

主に B 区北東部に分布する。断面形は、弧状・台形状・箱状・V 字状など多様である。ほとんどのものが、東西・南北方向に構築されている。

SD2046（図版 23・34）

53H25 グリッドに所在する。P2038 と重複し、これより古い。約 0.2m 南に存在する SD2284 と平行して東西方向に延びる。覆土は単層で、炭化物を少量含む。断面形は弧状である。遺物は土師器が 100.0g 出土した。

SD2074（図版 23・34・70）

54H8・13 グリッドに所在し、一部途切れながら南北方向に延びる。覆土は 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。いずれも炭化粒を含むが、1 層にやや多く含まれる。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。遺物は須恵器 2.0g 出土した。

SD2089（図版 23・34・71）

51L19・20、52L16 グリッドに所在し、東西方向に延びる。SF2080・SK2158 と重複し、これより古い。覆土は 4 層に識別され、断面形は V 字状である。4 層は粘性の強い褐色粘土が堆積し、炭化粒を少量含む。遺物は土師器が 417.0g、須恵器が 31.0g、鉄滓が出土した。

SD2090（図版 24・34・71）

52L6・7 グリッドに所在する。約 0.2m 北側に存在する SX2083 と平行して、東西方向に延びる。覆土は単層で、炭化物を少量含む。断面形は弧状である。遺物は土師器が 71.5g、須恵器が 98.0g 出土した。

SD2116（図版 23・34・71）

54H22・23 グリッドに所在する。SD2046 から 2m 東側の延長にあり、東西方向に延びる。また、約 1.1m 北側には SD2074 が存在し、これと直交する形となる。覆土は 2 層に識別され、炭化物・白色粘土を少量含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。遺物は須恵器が 88.5g 出土した。

SD2127（図版 23・34・71）

53I14・15 グリッドに所在し、東西方向へ延びる。SK2106・2119 と重複し、これより古い。位置関係から西側に位置する SD2122 へ続くものと推定される。覆土は 3 層に識別され、レンズ状に堆積する。覆土は黄褐色シルトが主体で、炭化物・白色シルトを含む。断面形は弧状で、側壁は急角度に立上がる。遺物は土師器が 440.5g、須恵器が 16.0g 出土した。

SD2214（図版 23・34）

54H2 グリッドに所在し、東西方向へ延びる。SK2219・2226・2394 、SD2192・2389 と重複し、これより古い。位置関係から、西側に存在する SD22372 へ続くものと推定される。覆土は 4 層に識別され、いずれも炭化粒を含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。遺物は鉄滓が出土した。遺物は土師器が 244.0g、須恵器が 16.5g 出土した。

SD2218（図版 23・34・71）

53H6 ～ 9 グリッドに所在し、北側に隣接する SD2237 と平行して東西方向へ延びる。覆土は 6 層に識別される。覆土はオリーブ褐色シルトが主体で、焼土粒・炭化粒を含む。底面は平坦で、側壁はほぼ垂直に立上がる。遺物は土師器が 818.0g、須恵器が 503.5g 出土した。

SD2235（図版 23・34・71）

52G19・24 グリッドに所在し、北西－南東方向へ延びる。SD2234 と重複し、これより古い。覆土は 4 層に識別され、レンズ状に堆積する。上層は炭化粒・灰白色シルトブロックを多量含む。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。遺物は 4 層から須恵器無台杯（図版 40 － 81・82）が出土した。

SD2237（図版 23・34）

53H2 ～ 5、54G21、54H1 グリッドに所在し、東西方向へ延びる。P2038・2241、SD2203、SK2219・2226 と重複し、これより古い。覆土は 6 層に識別され、いずれも焼土粒を含む。底面は平坦で、側壁はほぼ垂直に立上がる。遺物は 1 ～ 2 層からの出土が多く、須恵器無台杯（図版 40 － 83 ～ 85）、有台杯（図版 40 － 86）、杯蓋（図版 40 － 87）、鉄滓が出土した。

SD2284（図版 23・34・71）

53H22・23 グリッドに所在し、東西方向へ延びる。P2290 と重複し、これより古い。覆土は単層で、炭化粒を多量含む。断面形は弧状で、側壁は急角度に立上がる。遺物は須恵器無台杯（図版 41 － 88）、土師器が 9.0g 出土した。

SD2294（図版 24・34・72）

54L4・5 グリッドに所在し、東西方向へ延びる。覆土は単層で、にぶい黄褐色シルトが堆積する。底面は平坦で、側壁は緩やかに立上がる。

SD2335（図版 21・34・72）

51I19・24 グリッドに所在し、南北方向へ延びる。覆土は単層で、炭化物・炭化粒を多量に含む。底面は東側へやや傾斜し、側壁は急角度に立上がる。遺物は土師器が 46.0g 出土した。

SD2352（図版 21・34・72）

50G24、52H4 グリッドに所在し、北西－南東方向へ延びる。覆土は 3 層に識別され、ブロック状に堆積する。覆土は締りの強い褐色シルトが主体である。底面は平坦で、側壁は急角度に立上がる。

SD2389（図版 23・34）

54G22、54H2 グリッドに所在し、南北方向へ延びる。SD2192・2214 と重複し、これより古い。覆土は 3 層に識別され、レンズ状に堆積する。いずれも炭化粒を含み、特に上層に多い。断面形は弧状である。

9）道

A 区北西、B 区南東で各 1 条確認した。古代上層と同様に南北方向に構築され、覆土の堆積状況も類似する。

SF2080（図版 24・34・72）

51・52L グリッドにかけて、楕円形・不整形の落込みが 15 基並列する。これらの落込みは波板状凹凸面を構成し、北東－南西方向に延びる。落込みの覆土は、⑨としたもの以外は黄灰色シルトと明褐色シルトの混合土で、堅く締まっている。底面は平坦面を形成するもの、凹凸の著しいものなど多様である。遺物は土師器が 4.3g、須恵器が 47.0g 出土した。

SF2200（図版 23・34・72）

51H グリッド中央部で、楕円形・不整形の落込みが 15 基並列する。これらの落込みは波板状凹凸面を構成し、北東－南西方向に延びる。落込みの覆土は単層で、灰白色シルトが堆積し、堅く締まっている。底面は平坦面を形成するもの、凹凸の著しいものなど多様である。遺物は土師器が 17.0g 出土した。

10）土 器 集 中

土器集中 2227（図版 34・72）

53H6 グリッドに所在し、1.1m ～ 0.38m の範囲に遺物が集中する。SI2258 北側の覆土 3 層で確認した。遺物は土師器長甕が出土し、SI2258 の出土土器と接合関係が認められる。

第Ⅴ章　遺　　物

1　概　　要

本遺跡出土の遺物には、中世の土器・陶磁器・土製品・石製品・金属製品・木製品・人骨、古代の土器・石製品・金属製品、弥生時代の石器がある。出土量は中世の土器・陶磁器が浅箱で３箱、金属製品が１箱、石製品が１箱、木製品が１箱、人骨が２箱である。古代の土器は25箱と最も多く、ほかは石製品・金属製品が各１箱と少数である。弥生時代の石器は石鏃が１点出土しているが、これ以外に本遺跡には弥生時代の遺構・遺物は全く無くないことから、旧小里川を挟んで隣接する山口遺跡との関連があるものと考えられる。

記述は、出土量の多い土器については中世の土器・陶磁器、古代の土器として時期ごとに報告するが、土製品・金属製品・石製品・木製品については器種別に報告する。

2　中世の土器・陶磁器

A　概　　要

中世に所属する遺物は青磁・瀬戸焼・美濃焼・珠洲焼・土師質土器・北越窯甕、石製品、鉄製品等が出土している。土器・陶磁器の主体を占めるのは珠洲焼、土師質土器であり、北越窯甕がこれに続く。このほかは瀬戸焼・美濃焼４点、青磁６点の出土である。これらの土器・陶磁器類は、ほぼ13世紀半ば～14世紀に所属する。

B　器種分類（第11図）

中国産磁器

青磁：椀と盤が出土しているが、大半は椀である。時期が明確なものでは、13世紀後半から14世紀初めに属するものである。

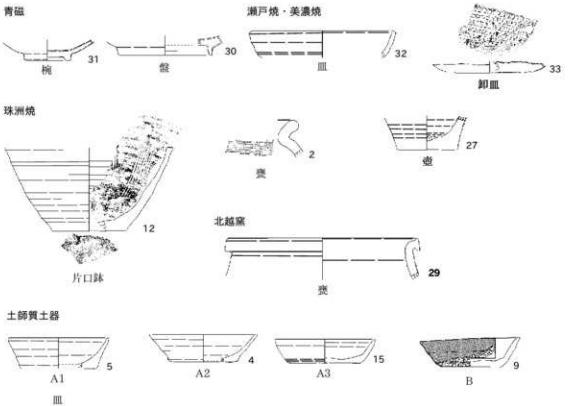
国産土器・陶器

瀬戸焼・美濃焼：皿・卸皿が出土している。藤沢編年［藤沢2005］古瀬戸前Ⅲ期（13世紀後半）～古瀬戸中Ⅳ期（14世紀半ば）に所属するものである。

珠洲焼：吉岡編年［吉岡1994］Ⅱ期からⅣ期に属するものが出土している。器種は片口鉢、壺、甕であるが、片口鉢と甕が殆どで、壺は２点のみの出土である。

北越窯：瓷器系の甕のみが出土している。権兵衛沢窯段階から狼沢窯段階（13世紀中～14世紀初め）のものである［鶴巻2005］。

土師質土器：すべてロクロ成形のものである。底部切り離し技法によってA・Bに大別した。口径がすべて10cm以上であったことから皿とし、更に器形による細分を行った。なお底部糸切り皿は１点のみの出土だったため器形による分類は行わなかった。小皿はいずれもロクロ成形・底部ヘラ切りが行われて



第 11 図　中世土器・陶磁器器種分類

いた。

A：ロクロ成形　底部ヘラ切り

1：体部が急角度で立ち上がるもの。口縁部が直線的なものとナデにより外反するものがある。

2：体部がやや開き気味に立ち上がるもの。直線的なものと底部や口縁部がナデにより外反するものがある。

3：体部がやや開き気味に立ち上がり、口縁部がナデにより内湾するものがある。

B：ロクロ成形　底部は糸切り

C　各　　説（図版 35・36・73・74）

1）A・B 区中世遺構出土土器・陶磁器（1 ～ 31）

SE13（1）　珠洲焼で Ⅲ 期に属する片口鉢の底部である。卸目は細かく鋭利である。

SE41（2）　珠洲焼で Ⅲ 期に属する甕である。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁部直下の張り出しが明瞭である。

SE84（3）　A2 類に属する土師質土器皿である。器高に比して口径が大きい。

SE99（4 ～ 7）　4・5 は土師質土器皿である。4 は A2 類に属するもので底部外面がやや張り出し、口縁部はヨコナデにより外反している。5 は A1 類に属するもので、底部外面はやや張り出す。6 は青磁椀である。見込みは平坦で高台は断面四角形をなす。高台内は無釉で畳付けは部分的に釉薬がかかる。7 は珠洲焼で Ⅳ 期に属する片口鉢である。体部は直線的に立上がり、口縁端部は外側に面取りされる。

SE145（8）　北越窯産の甕である。口縁部はＮ字状であり、内外面はヨコナデが行われている。

SE182（9）　土師質土器皿でＢ類に属する。体部は開き気味に立上がり、口縁部はヨコナデにより外反する。内外面にタール状の炭化物とススが付着しており、灯明皿として転用したと思われる。

SK6（10～12）　10・11は土師質土器皿である。10はA2類に属するもので体部中央はナデにより外反する。11はA1類に属するもので、口縁部はヨコナデにより外反する。底部は外面が大きく張り出す。12は珠洲焼でⅣ期初めに属する片口鉢で口縁部はやや内湾する。口縁端部は平坦である。見込み部分の摩滅が著しい。

SK42（13）　珠洲焼Ⅲ期に属する片口鉢である。体部は直線的に立上がる。口縁部はやや内湾し、口端部は外方に面取りする。

SD113（14～20）　14・15は土師質土器皿である。14はA1類に属するもので、底部外面がわずかに窪む。15はA3類に属するもので口縁部はナデによる稜が明瞭である。16～19は珠洲焼片口鉢である。16はⅣ期後半に属するものである。体部は直線的に立上がり、口縁端部は水平に面取りされる。17～19はⅢ期末からⅣ期初めに属するものである。17の体部は直線的に立ち上がる。底部外面はヘラケズリがなされている。18の卸目は鋭利である。19の底部外面は静止糸切り後の切り離し時のヘラ痕跡が残る。20は北越窯の甕の肩部片である。菊花と簾状の押印がなされている。押印から猿沢窯段階のものと思われる。

SD114（21～29）　21・22は土師質土器皿である。21はA2類に属するものであり、口縁部はナデにより外反する。底部外面は張出しをもつ。内面には体部から底部立上がりへの緩方向に「一」字状の墨書がなされる。22はA3類に属するものである。底部はロクロ回転ヘラ切り後、ナデが行われている。内外面にタール状の炭化物とススが付着しており、灯明皿に転用したと思われる。23は瀬戸焼・美濃焼の椀である。古瀬戸中Ⅱ期に属する。畳付けと貼付け高台の内面は無釉である。

24～28は珠洲焼である。24～26は片口鉢である。24はⅣ期末に属するものである。体部は直線的に立上がり、口縁端部は水平に面取りされ、やや外に張り出す。25・26はⅣ期に属するものである。25の体部は直線的に立上がり、口縁端部は水平に面取りされる。26は強いロクロナデにより底部外面が高台状となっている。27はⅣ期以前に属する壺の底部である。内面にロクロナデ痕が明瞭に見られる。28はⅡ期末～Ⅲ期に属する甕で、口縁端部が水平方向に外反する。

29は北越窯の瓷器系の甕である。Ｎ字状の口縁部をもち肩部の張出しは乏しい。猿沢窯段階のものである。

2）A・B区包含層出土土器・陶磁器（30～33）

30・31は青磁である。30は盤で、高台は断面四角形で畳付けは無釉である。13世紀後半～14世紀前半に属するものである。31は椀で畳付けから高台内部は無釉である。13世紀後半～14世紀前半に属するものである。古代上層の遺物包含層（Ⅳ層）からの出土である。32・33は瀬戸焼・美濃焼である。32は古瀬戸前Ⅲ期に属する皿であり、口縁部は内湾気味に立上がる。釉薬の剥落が著しいが内外面に部分的な灰釉を残す。33は古瀬戸前Ⅳ期に属する卸皿である。内外面に薄い灰釉が塗布されている。

3　古代の土器

A　概　　要

古代の遺物はⅣ層とⅥ層からほとんどが出土している。Ⅳ層からは、珠洲焼が少量出土しているが、取上げ時の層位の誤認か、上層からの混入が考えられる。また、Ⅳ層出土土器とⅥ層出土土器が多く接合していることから、Ⅳ層～Ⅵ層までの堆積は短期間であったことが想定される。古代の土器は須恵器と土師器で灰釉陶器や緑釉陶器、須恵器折縁杯は出土していない。春日編年［春日 1999］のⅣ１期～Ⅴ期（８世紀後半～９世紀中葉）までのものが出土しているが、中心となる時期はⅣ２・３期の８世紀末～９世紀初頭である。須恵器は地元である阿賀北・笹神丘陵産と新津丘陵産のものが大半で、佐渡小泊産須恵器はわずか３点である。須恵器は焼ゆがみが激しいもの、他の個体が溶着したものなどが見られる。

B　器種分類（第12・13図、第４・５表）

1）須　恵　器

食膳具である無台杯が最も多く出土しており、次いで有台杯、杯蓋である。壺、甕等の貯蔵具は少なく、全体の器形が分かるものはわずかである。別表３の観察表に胎土の分類をＡ～Ｄと表記しているが、詳細は第４表のとおりである。

無台杯　底部が丸みをもつものをＡ、底部が平坦なものをＢとした。身の深さを表す器高指数（器高／口径×100）が29以下の身の浅いものをⅠ、30以上の身の深いものをⅡとした。更に口径で１：13.0cm 以下、２：13.1 ～ 14.0cm 未満、３：14.0cm 以上に細分した。分類はこれらの組合せである。底部の切り離しはすべてヘラ切りである。

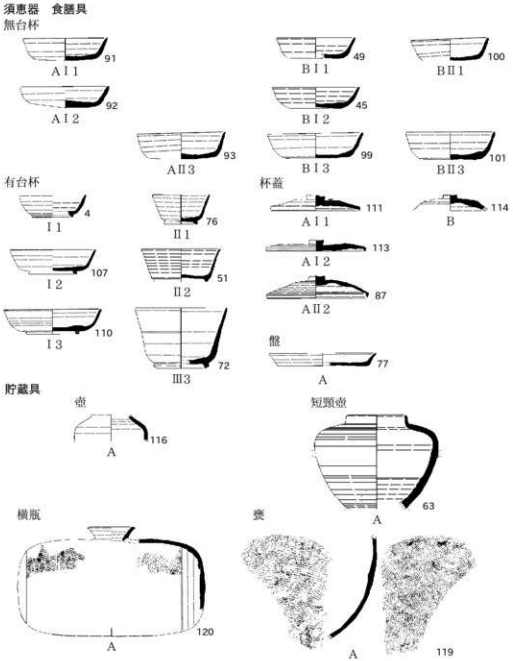
有台杯　身の深さを表す器高指数からⅠ～Ⅲに細分した。35以下の身の浅いものをⅠ、40 ～ 55の身の深いものをⅡ、65以上の特に身の深いものをⅢとした。更に口径で１～３に細分した。１：口径11.0cm 以下、２：12.0 ～ 14.0cm、３：14.1cm 以上である。底部の切り離しはヘラ切りで、底部から体部下半にヘラケズリを行うものが多い。

杯蓋　ツマミの形状で二分し擬宝珠状のものをＡ、ボタン状で平坦なものをＢとした。器高指数19以下の低いものをⅠ、20以上の高いものをⅡとした。口径で１：13.0 ～ 15.0cm、２：15.1 ～ 17.0cm と細分した。

分　類	特　　徴
Ａ群	胎土そのものが相対的に粗く、石英・長石・金雲母を多く含む。器面はざらついたものが一般的で、含まれる鉱物の粒子は金雲母を除くと比較的大きい。新発田市・阿賀野市・五泉山麓窯跡群のほか、村上市元山窯跡群・胎内市松山窯跡群・新発田市下小中山・貝屋窯跡群・ホーロク沢窯跡群で生産された須恵器に一般的に見られる。
Ｂ群	胎土そのものが精良で、白色小粒子を多く含む。器面に黒色の斑点や吹き出しが見られるものが多い。器種によって胎土が異なり、無台杯と小型の有台杯は胎土が特に精良で器面は滑らかであるが、そのほかの器種は砂っぽいややざらついた胎土である。佐渡市小泊窯跡群（やや離れた地点の大木戸窯跡も含む）で生産された須恵器と考えられる。
Ｃ群	胎土そのものは比較的精良であり、石英・長石の小粒子を少量含む。器面は滑らかである。海面骨針を含むものもある。新潟市・秋葉区・五泉市にまたがって存在する新津丘陵窯跡群で生産された須恵器に一般的に見られる胎土であるが、村上市元山窯跡群、胎内市松山窯跡群で生産された須恵器の中にも一部確認できる。
Ｄ群	Ａ～Ｃ群以外のものを一括する。

（［春日 2004］を一部改変）

第４表　須恵器の胎土



第 12 図　須恵器器種分類

盤　広い底部から口縁部が短く外反するものである。出土数は少なく、口径は 17.0 ～ 18.0cm である。

壺　破片のみで全体の器形が分かるものは無く、法量等での細分は行っていない。

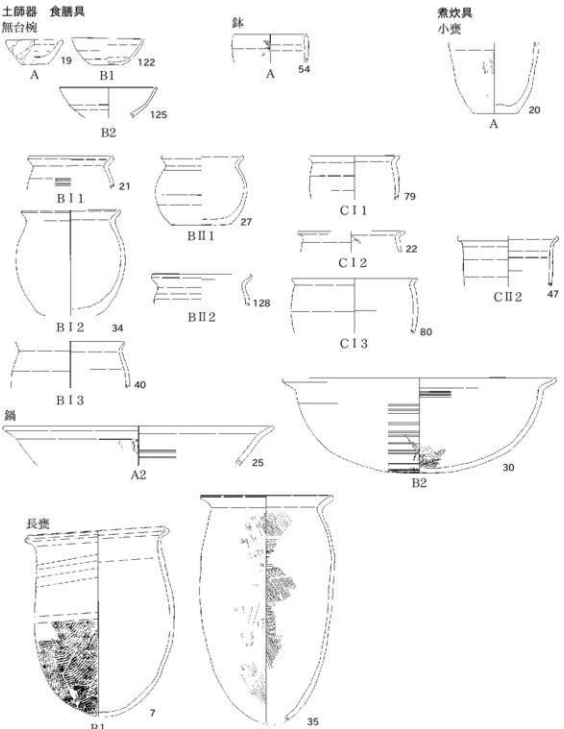
短頸壺　有蓋で肩が張る、いわゆる薬壺形のもので高台が付く。

横瓶　俵形の体部に小さな短い口縁部が付くものである。

甕　口縁部、体部の破片しか出土しておらず、全体は不明である。細分は行っていない。

2）土　師　器

食膳具はわずかであり、大半は小甕、長甕、鍋の煮炊具である。内外面黒色処理を施した無台椀もある



第 13 図　土師器器種分類

ようだが、細片のため内面黒色処理の無台椀と明確な区別がつかない（未報告）。別表３の観察表の胎土の分類は、須恵器の分類を参考に可能な限り表記した。

無台椀　非ロクロ成形で器壁が厚いものをＡ類、ロクロ成形で器壁が薄いものをＢ類とした。内面を

須恵器	無台杯　口径 1　13.0cm 以下 2　13.1 ～ 14.0cm 未満 3　14.0cm 以上	A	底部が丸いもの。	
		B	底部が平坦なもの。	
			Ⅰ	器高指数 29 以下。
			Ⅱ	器径指数 30 以上。
	有台杯　口径 1　11.0cm 以下 2　12.0 ～ 14.0cm 3　14.1cm 以上		Ⅰ	器高指数 35 以下。
			Ⅱ	器高指数 40 ～ 55。
			Ⅲ	器高指数 65 以上。
	杯蓋　口径 1　13.0 ～ 15.0cm 2　15.1 ～ 17.0cm	A	ツマミは擬宝珠状で口縁端部は垂下または内傾する。	
		B	ツマミはボタン状で平坦。	
			Ⅰ	器高指数 19 以下。
			Ⅱ	器高指数 20 以上。
	壺	A		
	短頸壺	A		
	横瓶	A		
	甕	A		
土師器	無台椀　口径 1　12.0cm 以下 2　14.0cm 以上	A	非ロクロ成形。	
		B	ロクロ成形、底部小さく体部は丸みを持って立ち上がる。	
	鉢	A		
	小甕　口径 1　12.0 ～ 14.0cm 2　14.1 ～ 17.0cm 3　17.1 ～ 20.0cm	A	非ロクロ成形。平底。口縁部不明。	
		B	須恵器技法を使用した小甕。口縁部は「く」の字に外反する。底部は平底。	
		C	須恵器技法を使用した小甕。口縁部は短く水平に屈曲する。底部は平底。	
			Ⅰ	口縁部端部「コ」の字または丸く収まる。
			Ⅱ	口縁部端部上に摘まれる。
	長甕　口径 1　20.0cm 以上	B	須恵器技法を使用した長甕。底部は丸底、口縁部は「く」字状に外反する。	
		D	砲弾型の体部に「く」の字に強く外反する短い口縁部がつく、いわゆる西古志型甕といわれるもの。	
	鍋　口径 1　35.0cm 以下 2　36.0cm 以上	A	非ロクロ成形。底部不明。	
		B	須恵器技法を使用し、口縁部は「く」の字に外反する。	

第５表　古代土器器種分類

黒色処理したものもあるが、細分は行っていない。口径で 1：12.0cm 以下、2：14.0cm 以上に細分した。

鉢　体部から口縁部にくびれが無く、ほぼ垂直に立ち上がるもの。

小甕　非ロクロ成形で平底、ハケメを多用するものをＡ類とした。ロクロ成形のものは、口縁部の形状でＢ・Ｃ類に分けた。Ｂ：須恵器技法を使用し、口縁部は「く」の字に外反し、底部平底である。Ｃ：須恵器技法を使用し、口縁部は短く水平に屈曲する。底部は平底である。口縁端部の形状でⅠ：「コ」の字または、丸く収めるもの、Ⅱ：端部が上に摘まれるものに細分した。口径で 1：12.0 ～ 14.0cm、2：14.1 ～ 17.0cm、3：17.1 ～ 20.0cm に細分した。

長甕　須恵器技法を使用し、底部は丸底で口縁部が「く」の字に外反するものを小甕の分類と合わせてＢ類、砲弾形の体部に「く」の字に強く外反する短い口縁部がつくもので、いわゆる西古志型甕といわれるハケメを多用するものをＤ類とした。口径はＢ・Ｄ類ともに 1：20.0cm 以上のものである。口縁端部の形状による細分は行っていない。

鍋　非ロクロ成形のものをＡ類としたが、出土数は少ない。須恵器技法を使用し、口縁部が「く」の字に外反するものをＢ類とした。口径 35.0cm 以下を 1、36.0cm 以上のものを 2 として細分した。

C　各　　説（図版 36 ～ 42・74 ～ 80）

出土地点など詳細は観察表に譲る。

1）古代上層遺構出土土器

SF1030 ②（1 ～ 3）　1 は新津丘陵産の有台杯で、低い内端接地の高台が付く。2 はⅠ 2 類で笹神丘陵産の身の浅い有台杯である。高台は垂下し接地面は水平である。Ⅵ層出土の破片と接合している。3 はⅡ 1 類で新津丘陵産の身が深い小型有台杯である。高台は垂下する。撹乱を受け中世遺構 SD114 出土の破片と接合している。

土器集中 1009（4 ～ 8）　4 はⅠ 1 類の新津丘陵産の有台杯で、小型で身が浅い。高台は外反し、内端接地である。P2013 出土の破片と接合している。5 はＢⅠ類のロクロ成形の長甕である。体部上半はロクロナデの凹凸が顕著である。体部下半はタタキ痕がわずかに残る。6 も B1 類のロクロ成形の長甕である。口縁端部が上に摘ままれる。中世遺構 SD114・115 出土の破片と接合している。7 も B1 類のロクロ成形の長甕である。底部は丸底で、平行線文タタキで成形されている。口縁は「く」の字に外反し、端部はやや内側に摘ままれる。口縁部から底部まで残るわずかな資料である。8 は B2 類のロクロ成形の鍋である。底部は丸底で、平行線文タタキで成形される。

2）古代上層遺物包含層出土土器

9 はＢⅠ 3 類の新津丘陵産の無台杯である。10 は笹神丘陵産の無台杯である。体部は直立気味に立ち上がる。11 はＢⅠ 1 類の新津丘陵産の無台杯である。口縁端部はやや玉縁状となる。12 はＢⅡ 1 類の新津丘陵産の無台杯である。体部外面にヘラ書きがあるようだが、上部が欠損し内容は不明である。13 は佐渡小泊産の無台杯である。笹神・新津丘陵産に比べ、胎土が精良で底部から体部まで器壁が非常に薄い。14 はⅡ 3 類の笹神丘陵産の有台杯である。高台は外反する。15 はＡⅠ 2 類の新津丘陵産の杯蓋である。16 はＡⅡ 2 類の新津丘陵産の杯蓋である。天井部は平坦である。17 はＢ類の土師器無台椀である。底部は回転糸切りで「×」のヘラ書きが施される。18 も B1 類の土師器無台椀である。口径は 12.0cm である。

古代上層の遺物包含層出土土器は、9 のようにⅣ 1 期の古手の須恵器無台杯もあるが、Ⅴ期の無台椀（17・18）、Ⅴ期以降の佐渡小泊産須恵器（13）もあり、古代下層出土土器より若干新しい様相が伺える。また、古代上層遺構出土分も含めると古代上層の須恵器は、胎土Ｃ群の新津丘陵産が量的に多い。

3）　古代下層遺構出土土器

SI2006（19 ～ 25）　図示したものは、すべてⅣ 2・3 期のもので地元笹神丘陵産である。食膳具は 19 の土師器の無台椀のみである。非ロクロ成形で器壁が厚く、外面のヘラケズリも粗く粗雑なつくりである。伏せた状態で出土している。19 のほかは煮炊具である。20 はＡ類の非ロクロ成形の小甕の体部から底部である。外面は剥落が著しいが、ハケメがわずかに残る。21 はＢⅠ 1 類の小甕である。外面にカキメが施される。22 はＣⅠ 2 類の小甕である。内面のハケメがわずかに残る。23 はＣⅠ 3 類の小甕である。内面にカキメが施される。24 はＢ類の長甕である。口縁部は長く緩く外反する。25 は A2 類の非ロクロ成形の鍋である。ゆがみが大きく、口径は誤差が大きい。外面は縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメ調整である。口縁部は緩やかに外反する。

SI2088（26 ～ 30）　26・27 は小甕である。26 は体部下半から底部まで残存している。外面の剥落が著しいが、カキメが残る。27 はＢⅡ１類の小甕である。器高が低く口径の大きいやや扁平な器形である。28 はカマド内から出土した長甕で、29 は覆土から出土した長甕である。両者は接合しないが胎土・色調・器形等よく似ており、同一個体と考えられる。28 はカマドの芯材として入れられ、29 は出土層位から住居の埋戻し時の紛れ込み、あるいは住居内床面に残存していたものである。28・29 はＡ類の長甕で内外面ともカキメ調整で、縦方向のハケメもわずかに残る。30 はＢ2 類の鍋で、全体の器形が分かる数少ないものである。底部の丸みはタタキ成形した後、カキメで調整している。

SI2110（31・32）　31 はＡＩ２類の底部に丸みを持つ無台杯で、底部はヘラ切りである。内外面にススが付着している。32 は平底のＢＩ１類の無台杯で、底部はヘラ切りである。

SI2258（33 ～ 35）　33 はＩ２類の有台杯である。口縁端部がわずかに外反する。高台は低く、接地面は水平である。34 はカマド出土のＡＩ２類の小甕で外面は剥落が著しい。口縁部は短く「く」の字に屈曲する。35 はＤ類とした西古志型の長甕で、体部と底部がわずかに欠損する。体部の器壁は薄く、土器集中 2227 出土の破片と多く接合していることから、土器集中 2227 は SI2258 の廃棄場の可能性が高い。

SK2026（36・37）　36 はＢ類の長甕で口縁部は「く」の字に屈曲している。37 は鍋で底部の器壁はかなり厚くなっている。口径は 32.0cm とやや小型である。

SK2051（38）　38 は壺の体部下半から高台部である。高台は二段成形で、接地面は細く華奢なつくりである。高台内面に自然釉が付着しており、伏焼きされたものであろう。

SK2105（39・40）　39 は小甕で内面にわずかなハケメが残る。40 も小甕で口縁部は薄く短く「く」の字に外反する。

SK2106（41・42）　41 は須恵器無台杯で、底部は残っていないが丸みをもつ底部か。SD2090 出土の破片と接合している。42 はＡＩ１類の杯蓋である。口径 13.4cm と最も小さいものである。

SK2117（43 ～ 48）　43 はＢＩ１類の無台杯である。底部外面左下に墨書がある。下が欠損しているが、おそらく「上」であろう。文字は 2cm ほどで小さく勢いが無い。阿賀野市内で墨書土器の出土している遺跡は、旧笹神村の壱本杉遺跡［川上 1999］で折縁杯の高台内に「上」と書いたものが１点確認できる。44 はＢＩ２類で全体に器壁が厚く、45 もＢＩ２類で体部の器壁が若干薄いがいずれも胎土Ａ群の無台杯である。46 はＢＩ２類の小甕で、口縁部は緩く「く」の字に外反する。内面はカキメ調整である。47 はＣⅡ２類の小甕で寸胴の体部に短く「く」の字に開く口縁部が付く。口縁端部は上に摘まれる。48 はＢ類の長甕で口縁部は長く「く」の字に外反し、端部は面を作る。

SK2164（49・50）　49 はＢＩ１類の無台杯で底部の器壁は厚く、体部は薄い。50 はＤ類の西古志型の長甕である。特徴である内面の横方向のハケメ、外面の縦方向のハケメがよく残る。

SK2216（51）　51 はⅡ２類の有台杯である。器壁は薄く、立上がりは急でシャープな器形である。高台は底部外周に付くため大きい。高台が内傾する数少ない資料である。

SK2221（52 ～ 57）　52 はＡＩ１類の無台杯である。底部に火だすき痕が残る。53 はＢＩ３類の無台杯で口径 15.9cm と大きく、体部は直立気味に立上がる。内外面にススが付着する。54 は鉢である。外面にハケメが残る。ススも付着し煮炊きに使用したとみられる。55 はＢＩ２類の小甕である。56 はＢ類の長甕で口縁部は長く「く」の字に外反する。57 はＤ類の西古志型長甕である。剥落が顕著で外面の縦方向のハケメがわずかに残る。

SK2223（58）　58 はＢＩ２類の小甕である。口縁部は短く「く」の字に外反する。

SK2281（59）　59はＡⅠ２類の無台杯である。底部は丸底で体部は内湾気味に立上がる。

SK2283（60）　60はＢⅠ１類の無台杯で、SG2132出土の破片と接合している。

SK2315（61）　61はＢ類の鍋である。口径は31.4cmである。

SK2351（62・63）　62はＡⅠ２類の杯蓋で焼きゆがみが激しい。63は短頸壺で高台が剥がれ欠損している。肩のやや下に把手あるいは耳のようなものがついていた痕跡が１か所残る。有蓋と見られ口縁端部に使用による摩耗痕が見られる。

SK2361（64）　64はＢⅠ１類の無台杯で体部は浅く開き気味に立上がる。

P2009（65）　65はⅡ１類の小型の有台杯で器壁が非常に薄い。高台は垂下し中央がわずかに窪み両端が接地する。

P2013（66～68）　66は小甕の体部から底部で内外面にカキメ調整される。67はＢ類の長甕でP2016出土の破片と接合している。68はＤ類の西古志型の長甕である。口縁部は長く「く」の字に外反する。口径は23.6cmである。

P2073（69）　69はＢⅠ１類の無台杯である。

P2129（70）　70はＢ類の鍋で口径32.0cmである。口縁端部はやや肥厚する。

P2204（71）　71はＢⅠ３類の無台杯で、口縁端部は玉縁状である。底部外面に「一」のヘラ描きが確認できる。

SG2103（72）　72はⅢ３類の有台杯で体部に沈線が１条巡る、金属器写しといわれるものである。高台は内端接地である。この器形は72のみである。

SG2166（73・74）　73はＢⅡ２類の小甕である。口縁端部はわずかに上に摘まれる。内面はカキメ調整である。74はＤ類の西古志型長甕である。内外面ハケメ調整がわずかに残る。

SC2099（75）　75はＢⅠ２類の小甕である。器壁は全体に薄いが、口縁端部は肥厚する。

SX2083（76）　76はⅡ１類の口径9.0cmと小型の有台杯である。体部にはロクロナデの凹凸が著しく残る。高台は底部の外周に付き、外端接地である。

SX2256（77）　77は口径17.0cmの盤である。体部はやや外反気味に立上がる。外面底部が摩耗している。

SX2353（78～80）　78はⅡ２類の有台杯である。焼ゆがみが激しい。高台は垂下し、中央がやや窪み両端が接地している。このようにゆがみが激しいものは胎土Ｃ群に多い。79はＣⅠ１類、80はＣⅠ３類の小甕である。口縁部は短く屈曲する。

SD2235（81・82）　81はＢⅠ２類の無台杯で、口唇部は使用による摩耗が著しい。体部に打ち欠きが見られる。82もＢⅠ２類の無台杯で底部は厚く、体部は器壁が若干薄い。

SD2237（83～87）　83はＢⅠ２類の無台杯で、見込みに「×」のヘラ描きが認められる。SD2218出土の破片と接合している。84もＢⅠ２類の無台杯で、口縁端部がわずかに外反する。85は深身のＢⅡ１類の無台杯である。底部の厚さが均一ではない。86はⅡ２類の有台杯で高台は内端接地である。SD2237は中世遺構掘削時の撹乱を受け、86の破片がSD113やSD117覆土に混入している。87は杯蓋で器高の高いＡⅡ２類である。天井部に火だすき痕が残る。

SD2284（88）　88は無台杯の底部である。外面に「又」のようなヘラ描きが認められる。

4）古代下層遺物包含層出土土器

以下、器種ごとに述べる。

無台杯（89～101） 89・90はＡⅠ1類、91・92はＡⅠ2類、93はＡⅡ3類、94～96はＢⅠ1類、97・98はＢⅠ2類、99はＢⅠ3類、100はＢⅡ1類、101はＢⅡ3類で、特定の分類のものが多いとはいえない。口径が14.0cm以上の93・99・101がⅣ1期で、あとはすべてⅣ2・3期のものである。胎土もＡ類である地元阿賀北・笹神丘陵産が7個、Ｃ類の新津丘陵産が6個とほぼ同数である。95の底部外面右に墨書がある。一部欠損しているが「上」の可能性が高い。

有台杯（102～110） 102～108はⅠ2類、109・110はⅠ3類である。報告した9個体の内8個が胎土Ａ群で、1個が胎土Ｃ群と極めて偏りがある。

杯蓋（111～114） 111・112はＡⅠ2類、113はＡⅠ3類ですべて胎土Ｃ群、114はＢ類で胎土Ａ群である。遺構出土分も胎土Ｃ群が圧倒的に多く4個、Ａ群が1個である。全体では7:2の割合である。111は杯蓋の天井部に重ね焼きした有台杯の高台の一部が容着して残存している。

盤（115） 新津丘陵産の盤である。底部の接地面が使用により摩耗している。

壺（116・117） 116は体部の肩のみの破片であるが、仏具（花瓶）の可能性がある壺Ｇといわれる器種である。産地は不明である。117は高台のみで詳細は不明である。

甕（118・119） 118は甕の口縁部である。口縁部が短いことから中型の甕のものであろう。119は佐渡小泊産の甕の体部片である。外面は平行線文タタキ痕、内面も平行線文当て具痕が残る。

横瓶（120・121） 120・121は横瓶で笹神丘陵産である。120は体部の片面が閉塞されていることを確認した。もう一方は欠損しているが、笹神産横瓶は両面閉塞が基本ということから、両面閉塞の可能性が高い。内面は同心円文当て具痕、外面は平行線文タタキで成形後、カキメ調整を施す。

無台椀（122～126） 122～124は口径が12.0cm以下のB1類、125・126は口径14.0cm以上のB2類である。122のみ底部糸切りが残る。126は内面が黒色処理された内黒土師器である。口縁部は体部の中間でやや開く。器壁が極めて薄いつくりである。

小甕（127～130） 127はＢⅠ2類で内面はカキメ調整される。128・129はＢⅡ2類で口縁部は「く」の字に外反し、端部は上に摘まれる。130はＣⅠ3類で口縁部は短く屈曲する。

鍋（131・132） いずれもB2類である。131の口縁部は「く」の字に外反し、内外面カキメ調整される。132の口縁部は緩やかに開く。

4 土 製 品（1～8）

いずれも古代下層に属するものである。1～3は羽口である。1はSI2088出土である。表面にガラス化した付着物が認められる。2はSK2144出土のものである。表面に調整時のハケ目状の擦痕が確認できる。3はⅥ層出土である。被熱により全体が赤化している。

4～7は細型土錘である。いずれも手づくねで作られたと思われる。4はSI2110出土のものである。表面に指頭による押圧痕が残る。5～7はⅥ層出土のものである。

8はⅥ層出土の円柱状のカマドの支脚である。上面と底面の中央にはケズリによって平坦面が作られる。側面はケズリ、指頭押圧、ナデによる調整がなされる。

5　石　製　品（9～13）

9は中世に属し、SK166の底面出土のものである。花崗岩の一面に磨きによって平坦面を作り、光沢をもつ部分がある。砥石として使用したと思われる。10～12は古代下層に属する砥石である。10はP2143出土のものである。四面が使用されており右側面には線条痕が多く認められる。11はSX2334出土のものである。扁平な礫の平坦面と側面を使用している。側面部には数面の使用面が認められる。重量が4kgであるため、置き砥石と思われる。12はⅥ層出土の砥石である。正裏面と側面が使用されている。側面は使用により「く」字状をなしている。

13はⅥ層出土の弥生時代に属すると思われる石鏃である。両面調整の有茎平基であり、裏面に主剥離面を残す。器体は反りをもつ。混入したと思われる。

6　金属製品（14～16）

14は中世に属するかんざし状の鉄製品である。15は古代下層で検出されたSX2153出土の鎌である。緩やかな弧状をなし、断面は0.15cmと薄いものである。先端部と茎部は欠損している。16はSK42出土の銭貨で熙寧元寶（北宋初鋳1068年）である。

7　木　製　品（17）

17は中世のSE144出土の曲物底板である。柾目材が使用され、側面には釘痕などは認められない。

第Ⅵ章　自然科学分析

1　出土焼骨について

笹川　一郎

大部分が破片となっており、数点の指骨以外は骨の完全な形が残っていない。部位が判定できるものを第６表に示した。他にも多数の部位不明骨片があるので、この表にない部位は存在しないというものではない。

複数の遺構から出土した骨は、大きさや形態からヒトの骨と判定される。明らかに獣骨と考えられる骨は混在しない。

SX28 出土の骨は、大きさと四肢骨に骨端軟骨が認められないこと、第三大臼歯の歯槽の一部があることから成人と考えられるが、性別や詳細な年齢は不明である。また、骨格各部位がまんべんなく出土しているので、全身があった可能性が考えられる。SX28 からは下顎骨の左筋突起部が２点出ているので、最小個体数は２個体である。

橈骨頭は３点（SX28・２点、SX331・１点）ある。この内２点は小片であるが、別遺構からの出土なので同一骨に由来する可能性はない。ここからも SX28 出土の骨の最小個体数は２個体が支持される。

骨には深い亀裂や変形があり、歯のエナメル質はまったく認められない事から完全焼骨（700 ～ 800℃以上で焼かれた）と推定される［池田 1981］。

1～5・7～12　(1:2)
6　(1:3)

第 14 図　SX28 出土人骨

引用文献

池田次郎　1981　「出土火葬骨について」『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第 43 冊　太安萬侶墓』79―88　奈良県立橿原考古学研究所編

地区名	遺構番号	層位	鑑定可能部位	個数	備考	写真番号
B区	SX28	1	下顎骨・左・下顎枝片（筋突起を含む）	1	部位重複	3
			下顎骨・左・大臼歯部片	1	7の歯根、8の歯槽壁	5
			下顎骨・小臼歯部歯槽部片	1		
			歯根片	1		
			頭蓋片	7		
			椎骨片（含頚椎、胸椎、肋骨突起）	8		
			上腕骨・右・遠位端	1		
			上腕骨片	1		
			尺骨・右・近位端	1		6
			脛骨・近位部片	1		
		2	小骨片			
		3	指骨・基節骨遠位部（足？）	1		
		4	小骨片			
		5	頭蓋片	9		
			歯根片	1		
			椎骨片	5		
			橈骨遠片	1	部位重複	7
			手骨片	2		
			下顎骨・下顎頭、たぶん右	1		
			歯牙片	2		
			頭蓋片	7		
			椎骨片	6		
			肋骨片	5		
			頭蓋片	2		
			椎骨片	3		
			肋骨片	1		
			寛骨片	3		
			頭蓋片	1		
			肋骨片	1		
			指骨・中節骨、手の小指？	1		8
			仙骨、左約３分の１を欠く	1	２部分が接合	9
			椎骨片	1		
			大腿骨・左・近位部	1		11
			大腿骨頭、左右不明	1		10
			大腿骨・おそらく右・遠位部	1		12
			大腿骨・遠位部、左右不明	1		
		5・6	小骨片			
			側頭骨・左・錐体	1	８番に右錐体	1
			頭蓋片	5		
		6	下顎骨・左・筋突起	1	部位重複	4
			下顎骨・大臼歯部歯槽部、おそらく左	1		
			歯根片	3		
			側頭骨・右・錐体	1	15番に左の錐体	2
			頭蓋片・縫合部	4		
			椎骨片	5		
			橈骨遠片	1	部位重複（小片）	
			上腕骨遠片（あるいは大腿骨遠片）	1		
			手骨片、足骨片	13		
			手の指骨・末節骨（大は親指）	3		
			足の指骨・末節骨	1		
		覆土	頭蓋片	2		
			椎骨片（含頚椎片２）	4		
B区	SX96		頭蓋・後頭骨・内後頭隆起部片	1		
			頭蓋片	29		
			歯根片	3		
			肋骨片	11		
C区	SK293	1	頭蓋底片	1		
C区	SX319	2	頭蓋片	3		
			肋骨片	8		
			中手骨か中足骨片	3		
		覆土	小骨片			
C区	SX331		頭蓋片（蝶骨弓１個含む）	3		
			椎骨片	4		
			肋骨片	10		
			橈骨遠片	1	部位重複（小片）	
			四肢の長骨片	11		
			中手骨か中足骨片	5		
			足根骨片	1		
		覆土	椎骨片	1		
		覆土	四肢の長骨片	6		
		覆土	中手骨か中足骨片	1		

第６表　部位判定可能な骨片（骨）

第Ⅶ章　ま　と　め

1　中世の遺構

中世に所属する遺構は掘立柱建物・井戸・土坑・ピット・性格不明遺構・溝を検出した。所属する時期は出土遺物から13世紀～14世紀にかけてと考えられる。以下、集落の構造を見ていきたい。

掘立柱建物　本遺跡では検出した柱穴を検討した結果、掘立柱建物5棟を検出した。A区西側にSB8・98、B区では南側にSB87・97、北側にSB50が所在しており、掘立柱建物は散在している。掘立柱建物の長軸方向は北西-南東が4棟、北東-南西が1棟である。北西-南東方向の長軸はN－50°－W前後である。

掘立柱建物の間数は2間×1間のものが3棟(SB8·87·98)、3間×1間のものが2棟(SB50·97)であり、本遺跡では梁行1間の建物が主体となっている。

掘立柱建物の主体である梁行1間の建物の床面積はSB8が23.44m²、SB50が唯一の片廂付き建物で26.8m²、SB87が19.73m²、SB97が30.31m²、SB98が20.27m²である。面積に大きな差異のない掘立柱建物が散在している。これらの掘立柱建物に伴う遺物は確認できなかった。

井戸　井戸は17基確認した。中世の集落遺構では井戸は掘立柱建物に近接していることが指摘されている［小田 2006］。本遺跡でもA・B区では、SB8・98にSE13とSE99が近接し、SB50にはSB84・41が近接し、SB87にはSE141、SB97にはSE139が近接する。

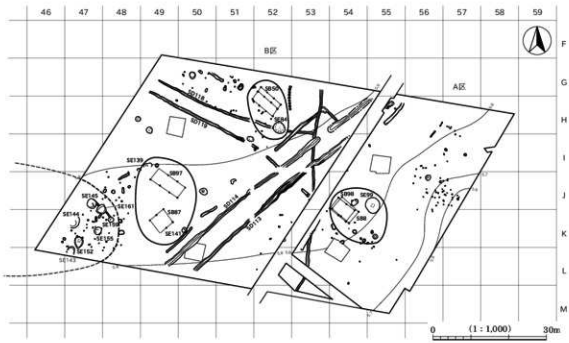
これに対してB区南西の47・48J・K、47・48K、47Lグリッドでは SE143・144・145・152・155・159・161の7基の井戸の集中を確認している。こうした井戸の集中は散在的なA・B区の遺構の分布状況と異なることから、C区の遺構群（平成21・22年度調査成果と合わせて別途報告予定）との関連が考えられる。

A・B区では掘立柱建物に伴う遺物は確認できなかったが、SE13からⅢ期に属する珠洲焼片口鉢が出土している。またSE99から13世紀後半～14世紀初めにかけての青磁椀とⅣ期に属する珠洲焼片口鉢が出土している。SE84からはⅢ～Ⅳ期に属する珠洲焼甕（未報告）が出土した。

掘立柱建物に近接する井戸を同時期のものと推定すると、SB8、50、98は13世紀中頃～14世紀に属する建物と思われる。なお、SB87にはSE141が近接するが遺物は出土せず、SB97にはSE139が近接しているが時期を特定できる遺物は出土しなかった。

溝　A·B区では溝を7条検出したが、10mを超えるものはSD113·114·117·118·119·126である。切り合いによる新旧関係は（古）118→126→117→114・113（新）と確認できた。

B区東側を北東-南西方向に並列した状態で延びるSD113・114の方位はN－50°—EとN－51°—Eである。掘立柱建物との関係では、長軸方位がN－37°—WであるSB87とほぼ直行する。SB87以外のA・B区掘立柱建物の主軸方位はN－50°－W前後であり、SD113・114以外の大型の溝の方位とも並行または直交のいずれにも当てはまらない。これら大型の溝から出土する遺物は、13世紀後半～14世紀に属すると思われる土師質土器・瀬戸焼・美濃焼・珠洲焼・北越窯甕であり、掘立柱建物と同時期と推定される井戸から出土した遺物と時期的な差はみられなかった。



第 15 図　中世遺構分布模式図

SD118 と SD119 は調査区を北西 - 南東方向に約 3 ～ 4m 隔たって 28m 並行に延びている。長軸方向、規模、覆土が類似していることから同時期に構築されたと考えられる。これらの並列する溝の性格であるが、溝が直線的で長大であることから道の側溝と考えた。しかし、間の平坦面に特に硬化面や足跡・轍等は確認できなかった。また、南東に行くほど間隔が広がり、途切れることからほかの用途も考えられ、今後類例の増加を待って再検討したい。

SD113 と SD114 も 3 ～ 5m の間隔で 70m 並行して調査区を北東 - 南西方向に延びている。SD114 は 53I グリッドで 3m ほど途切れることから、出入り口であったと考えられる。SD114 が途切れたところでは SD113 は途切れていないことから、両溝は掘削時期に差があると考えられる。SD113 は深さ 34cm ～ 44cm とほぼ均一であるが、SD114 は深さ 0.6 ～ 1.24m と場所によりかなり高低差がある。深さの違いは溝の機能の違いとも考えられる。しかしながら両溝は覆土に多量の礫を含むという共通性もあり、同時期に機能して埋った可能性は高い。両溝の性格については、一定の深さもあることから区画溝と考えられる。

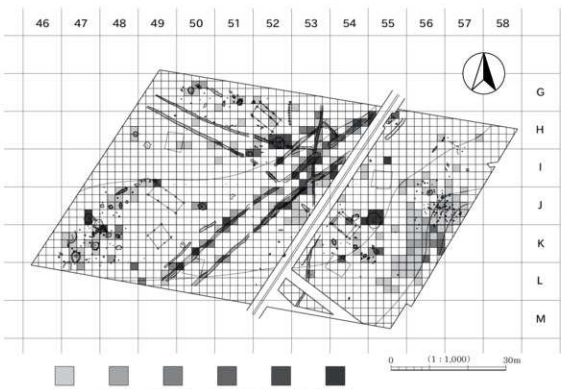
本遺跡については、今回報告の A・B 区の住居が散在する様子と住居が近接し、井戸も密集する C 区とはまったく様相が異なることから、平成 21･22 年度の追加調査結果を合わせて再検討する必要がある。

2　中世の遺物

本遺跡では青磁・珠洲焼・瀬戸焼・美濃焼・北越窯瓷器系陶器が出土しているが、ここでは在地で生産された遺物である土師質土器について若干触れる。土師質土器は、共伴する陶磁器の年代から 13 世紀後半～ 14 世紀に属すると考えられる。成形を確認できる個体のほとんどがロクロ成形底部回転ヘラ切りで、ロクロ成形底部回転糸切りは 1 個体のみ（図版 35 － 9）であった。手づくねのものは確認できなかった。

このロクロ成形底部回転ヘラ切りは鶴巻康志の分類［鶴巻 2004］では、阿賀北南部の 13 世紀中頃～

15 世紀前半に属する土師質土器の主体を占める技法である。15 世紀前半以降では、本遺跡と同じく中世の白河荘の範囲内である堀越館跡出土の土師質土器は、ロクロ成形底部回転糸切りが主体になることから、本遺跡の土師質土器が 13 世紀中頃～ 14 世紀代に収まる可能性を示している。また器形や成形技法が新発田市二ツ割遺跡 SD1113［宮内 2004］や新発田市新発田城第 8 地点堀 2［鶴巻 1997］出土の土師質土器と本遺跡出土の土師質土器が類似することからも裏付けられる。本遺跡の土師質土器は、大型の溝や井戸から少数が出土する傾向がある。



第 16 図　中世土器・陶磁器出土分布図

遺物名	珠洲焼(g)	青磁・白磁(g)	土師質土器(g)	瀬戸・美濃焼(g)	北越窯陶器(g)
遺構内出土	7751.3	121.0	6120.7	43.0	3878.0
遺構外出土	2273.5	58.0	1694.6	98.0	242.0
合計	10024.8	179.0	7815.3	141.0	4120.0

第 7 表　中世土器・陶磁器重量表（A・B 区）

3　古代の遺構

A 上　　層

上層で出土した遺物は 8 世紀後半～ 9 世紀中葉に所属し、遺構も検出状況からおおむねこの時期の所産と推定される。遺構は A 区西側から B 区東側の狭い範囲に分布し、この東側には旧河道が存在する（第Ⅲ章 2 参照）。このような分布状況から、遺構はさらに調査区の南北に拡大するものと考えられ、この旧河道の自然堤防上に沿って構築されたことが窺える。上層では土坑、ピットなどを検出したが、明確な居住

域として捉えることはできなかった。このほか、同層では南北方向に延びる道を確認した。遺構の配置から、上層は交通に関連した場であったことが考えられる。以下では道について述べる。

1）道と微地形との関係

上層の遺構確認面であるⅥ層の堆積状況は次のとおりである。Ⅵ層はB区中央から北部にかけて平坦面を形成し、東・南側では上層の落込みが認められる。B区東側からA区にかけては、旧河道に向かうにつれ急斜面となるが、A・B区の南側は緩やかな斜面を形成する。波板状凹凸面は北部の平坦面で2条、このほかは東・南側の緩斜面に存在し、緩斜面部での検出が多い。波板状凹凸面と地形の関係については、「地盤が軟弱化する部分や傾斜が急な部分に凹面が顕著に現れ、平坦地では不明瞭となっていく」［近江2006］とされている。本遺跡で検出した波板状凹凸面も遺構の配置からこの傾向が認められる。

2）平面形・構造

道の構造は、いずれも波板状凹凸面のみで構成されるもので、側溝は確認されていない。長軸方向は南－北、北東－南西で、東－西方向に構築されるものは存在しない。

波板状凹凸面を構成する落込みの平面形は、円形・楕円形・不整形など多様である。これらは、①楕円形の落込みが一部途切れながらも、ある程度の規則性を持ちながら連続するもの（SF1101）、②円形・楕円形の落込みが一列、あるいは二列となり不規則に連続するもの（SF1102）、③不整形・楕円形・円形などの多様な落込みが不規則に連続するもの（SF1010・1030など）が認められる。①のようなある程度の規則性をもつ楕円形の落込みは、長径約0.9～1.5mを測り、③のような不整形の落込みは、長径約0.8～5m前後となる。したがって、この長軸の規模は列の幅にも反映し、①・②のようなものは約2～3.5mと狭く、③では約4.4～5mと広くなる。

3）断面形・覆土

個々の落ち込みの断面形は、台形状・弧状・半円状・不整形など多様である。確認面からの深さは、0.1～0.2mが最も多い。底面標高は最大で0.3～0.4mの差が認められる地点もあるが、斜面地形を考慮すると、ほぼ一定の深さで構築されていることが窺える。

覆土はほとんどが灰黄色粘土・灰白色シルトの単層である。これらは非常に堅く締っているが、底面・側壁の硬化は認められない。また、波板状凹凸面の周辺では硬化した面は確認されていない。

波板状凹凸面の機能については諸説が提示されている。近江俊秀氏は波板状凹凸面の多様なあり方から、その形成要因も一律ではないことを指摘している［近江2008］。本遺跡で確認した波板状凹凸面は、いずれも覆土が堅く締り、確認面が硬化することから、近江氏の分類2の「道路の基礎であると考えられるもの」［近江2006］が最も近いように思われる。本遺跡で確認した波板状凹凸面の覆土に見られる灰黄色粘土・灰白色シルトは、古代下層・中世面で確認した柱穴の覆土に類似する。これらは底面に充填されており、締りが強く、柱の沈下を防ぐためのものと考えられる。したがって、この灰黄色粘土・灰白色シルトには「強化」という使用目的が想定される。また、波板状凹凸面がやや地盤が不安定と思われる緩斜面に多く存在することからも、路盤強化の必要性が窺われ、道路構築の際の工法の可能性が推定される。

上層で確認した道は、調査区の南北約50～60mの範囲での調査であったため、全容は不明といわざるを得ない。しかし、遺構の配置から緩斜面のような場所に波板状凹凸面の痕跡を残し、旧河道に沿って

構築されたものと推定される。

B　下　　層

下層で出土した遺物は8世紀後半～9世紀初頭に所属し、確認した遺構も、出土状況からおおむねこの時期の所産であると推定される。遺構は上層に比べて多数検出しており、竪穴建物・掘立柱建物・井戸・土坑・ピット等のほか、炭窯と考えられるものも存在する。

1）遺構と微地形との関係

下層の遺構確認面であるⅦ層の堆積状況は、以下のとおりである。Ⅶ層は、上層の遺構確認面であるⅥ層とほぼ同様の堆積状況が認められる。B区中央から北部にかけては平坦面を形成し、A・B区南側は緩斜面となる。また、B区西側へ向かっても緩やかな上層の落込みが認められる。土層の観察から、B区中央から北部は微高地の南端にあたるものと考えられ、東・南・西側は緩やかな斜面を形成していたものと推定される。

この微高地上には、竪穴建物・掘立柱建物・土坑・ピットが構築され、最も遺構が集中する。遺構の配置から、分布域は北側へ広がることが予想される。また、西側には井戸3基がまとまりをもって存在し、A・B区中央から南側では、炭窯の可能性がある土坑が広範囲にわたって分布する。遺構の種別・分布状況から、それぞれを一つのまとまりとして捉えることが可能と思われる。このことから、微高地上は居住域、西側は水場、南側の広い緩斜面は作業場という集落の構造が想定される（第17図）。

以下では、調査区内を居住域（Ⅰ群）、水場（Ⅱ群）、生産の場（Ⅲ群）に分け、主な構成遺構について触れてみたい。

2）Ⅰ群の構成遺構

竪穴建物　遺構集中域の外縁で4軒確認した。規模・形状などは第Ⅳ章2でも触れているが、一辺5m前後のもの（SI2006・2088・2252）と3m程度の小型のもの（SI2110）の2種類がある。これらは規模だけでなく、カマド・柱穴といった構造の面においても相違が認められる。カマドは前者には存在するが、後者はもたない。また、柱穴は小型の建物では、床面から約0.4～0.5mの深さに掘り込まれているのに対し、5m前後の建物は約0.05～0.18mと浅く、その配置が不明瞭なものが多い。

柱穴が明確でない建物は、阿賀野川以北では山三賀Ⅱ遺跡［坂井ほか1989］に類例がある。山三賀Ⅱ遺跡は8世紀～9世紀にわたる集落で、竪穴建物はⅠ～Ⅳ期に変遷することが明らかになっている。このうち、Ⅲ期の段階が本遺跡とおおむね時期が一致する。竪穴建物の形状は方形、規模は4～4.5mが主体で、柱穴が認められないものが一般的である。柱穴が不明瞭となる傾向は、8世紀中葉以降から始まるとされ、これについては竪穴住居の構造の変化を想定している［坂井前掲］。

このほか阿賀野川以北において、平安時代の竪穴建物が確認された遺跡には、阿賀野市三辺稲荷遺跡［古澤2009］、横峰B遺跡［川上・石川ほか1993］、聖篭町二本松東山遺跡［伊藤ほか1993］、村上市田島遺跡［吉井2001］、村上市砂山Ⅱ遺跡［田辺2007］等がある。遺構の時期がわかるものは、9世紀末～10世紀前葉と年代が下るものが多い。建物には柱穴が明確に伴うものと、そうでないものの両方が認められる。したがって、竪穴建物は従来的な構造をとるものと、新たな建築構造をもつものの併存も想定される。これについては、今後の資料の増加を待って判断すべきであろう。

第 17 図　古代下層遺構分布模式図

掘立柱建物　3 棟を確認した。しかし、建物の構造については、遺構の重複が著しいこともあり、全容を把握できなかった。建物は遺構集中域の中央から北側に位置し、分布状況から、さらに北側へ広がることが予想される。

土坑　調査区の全域で確認したが、特に遺構集中域に多く分布する。検出状況は様々であるが、遺構の配置から、建物の付近に構築されていたことが窺える。このうち、SK2072・2106・2117・2164・2221・2281・2283・2315 は、長径が約 1.3 ～ 3m を測り、ほかの土坑に比べ規模がやや大きい。平面形は確認できるものについては円形・楕円形である。確認面からの深さは 0.2 ～ 0.3m が多く、断面形は皿状となるものが多い。遺物の出土がみられない土坑もあるが、基本的には土器片が多量に含まれる。これらの土坑は、建物との位置関係、遺物の出土状況などから、「ゴミを捨てた穴」の可能性が考えられる。ただし、この中には遺物の出土が無かった土坑や P2013 のように出土状況は類似するが、規模の小さいピットも存在することから、上記以外の性格も考慮する必要がある。

3）Ⅱ群の構成遺構

井戸　3 基確認した。中世面で検出した井戸は掘立柱建物に近接して存在するが、古代下層の井戸は B 区西側にまとまりをもって分布する。掘形の平面形は円形・楕円形で、断面形は袋状・階段状である。長径は約 1.5 ～ 3m 前後を測る。本遺跡ではⅦ層下位から湧水が認められる。このⅦ層は粘性の強い褐色シルトで、水の濁りが強い。湧水はⅧ層の褐色砂質シルトになると透明になり、飲水に適したことが窺える。井戸の深さもこれを反映して、崩落の危険性から底面まで調査できなかったものを除くと、Ⅷ層まで堀り込まれている。また、覆土の堆積状況から井戸側の存在が推定されるものもあるが、井戸側・水溜などの部材は出土しなかった。

4）Ⅲ群の構成遺構

炭窯　A・B区中央から南側の緩斜面に分布する。平面形は円形・楕円形・方形・不整形で、長径は約0.7～1.3m前後を測る。確認面からの深さは約0.12～0.3m前後、断面形は皿状・不整形のものが認められるが、台形状が多い。これらは覆土に炭化物・炭化粒を多量に含み、底面・側壁の被熱が認められることから、炭窯の可能性が考えられる。本遺跡で検出した炭窯は覆土の堆積状況、側壁・底面の状況から、土坑内に炭材と燃料になる小枝・枯葉を入れて焼いた後、土を被せて炭をつくる伏窯と推定される。これらは、規模が小さく、生産性も低かったことが想定される。したがって、集落内で消費された可能性が考えられる。

以上、検出遺構をⅠ～Ⅲ群に分け、それぞれの主な構成遺構について述べた。古代下層は伴出土器から8世紀末～9世紀初頭にかけて営まれた集落として捉えることができる。集落は、遺構の配置から居住域・水場・生産の場から構成されたことが推定される。

古代集落は律令国家との関連が求められ、個々の家の自立が弱かったことが指摘されている[坂井前掲]。下層で検出した井戸は、中世集落のように個々の建物に伴って存在するのではなく、居住域からやや離れて存在する。このことから集落内での水場の共有性が想定され、個々の家の自立が弱かったことが窺える。また、集落の構造も居住域・水場・生産の場と規格性をもち、単位集団としてのまとまりが考慮されることからも、古代集落の特徴を見出すことができよう。

4　古代の土器

古代の出土土器は須恵器と土師器である。時期は春日編年Ⅳ1期～Ⅴ期（8世紀後半～9世紀前葉）までのものであるが、中心はⅣ2・3期（8世紀後半～9世紀初頭）である。須恵器は地元笹神丘陵産のものと新津丘陵産が大半で、ほかに佐渡小泊窯産須恵器がわずか3点出土している。そのほか特徴的なものは西古志産の土師器長甕が出土していることである。したがって本遺跡では4地域の土器が出土していることになる。

A　産地比率と器種構成比率

古代下層であるⅥ層出土の須恵器・土師器について口縁部残存率（x／36）の集計を行い、結果を第8表に示す。遺跡全体の機能別の構成比は食膳具61.8%、煮炊具36.7%、貯蔵具1.5%であった。竪穴建物4棟では貯蔵具が出土しておらず、食膳具と煮炊具の割合は遺構によって大きくバラつきが見られる（第9表）。SI2006は須恵器が全く出土しておらず、土師器無台椀が主体を占めることから、4棟のうち最も新しい時期の様相を示すと見られる。SI2088は食膳具を欠き、土師器煮炊具のみの出土である。SI2110は須恵器有台杯が主体で、煮炊具がわずかに認められる。SI2258は須恵器食膳具が一定量あり、煮炊具は食膳具の1.6倍程度である。

次に須恵器の胎土別構成比を第11表に示す。胎土A群（笹神丘陵産）は51.7%、胎土B群（小泊産）は0.3%、胎土C群（新津丘陵産）は48.0%であった。同じ阿賀野市京ヶ瀬地区に所在する村下遺跡［古澤ほか2004］と比較する。遺跡の時期は春日編年Ⅱ2～Ⅳ3期に相当する。本遺跡より若干成立が古いが、中心は本遺跡とほぼ同時期と見られる。村下遺跡は掘立柱建物のみで竪穴建物は検出されていない。

掘立柱建物は方形区画内に15棟検出されている。全体の須恵器の胎土比率は、A群57%、B群7%、C群36%である。本遺跡の方がA･B群が少なくC群の割合がやや多い。地理的には村下遺跡が、新津丘陵、笹神丘陵窯跡群から約8km、本遺跡は約6kmとわずかな差である。阿賀北地域の8世紀～9世紀の拠点集落である聖籠町山三賀Ⅱ遺跡［坂井前掲］では、時期が古いほどA群の割合が高いので、村下遺跡と本遺跡の差も地理的な差より成立時期が早い村下遺跡のほうがA群の割合が高く出ているのであろう。器種別の割合は、村下遺跡では具体的な数値は示されていないが、須恵器の杯類が大半で貯蔵具が数点、土師器の甕類が多くそのほかの器種は皆無ということで、本遺跡と同様あるいは食膳具が更に高い数値である可能性がある。これは、村下遺跡が方形区画内に掘立柱建物のみで構成される、より公的な性格を持った遺跡であることと、本遺跡が竪穴建物と掘立柱建物で構成される一般集落であるということの差であろう。

B　西古志型煮炊具について

本遺跡では西古志型煮炊具といわれる長甕が5個体（35・50・57・68・74）出土している。ここでは西古志型煮炊具の特徴と流通について確認しておきたい。古志郡・蒲原郡・沼垂郡周辺で西古志型煮炊具が出土している主な遺跡は第13表の通りである。

西古志型煮炊具の特徴は、器種は小甕、長甕、鍋があり、非ロクロ成形と見られる。胎土は西古志窯跡群の須恵器とほぼ同じで比較的精良で砂質が強い。小甕は丸底のものと平底のものがあり、体部外面の縦方向のハケメ後、体部下半にヘラケズリを行う。内面は横方向にハケメを行なう。口縁部は「く」の字に短く外反し、端部は丸く収めるもの、面を作るものなどがある。長甕は丸底のものが多い。体部外面は縦方向のハケメ後、縦方向のヘラケズリを行うものもある。内面は横方向のハケメを行う。口縁部の形態は小甕と同じである。鍋は資料が少なく不明瞭の部分もあるが、口縁部は強く「く」の字に屈曲し、端部は上に摘ままれる。底部は丸底と見られ、体部外面は横方向のハケメ後、ヘラケズリされる。ほかの産地の煮炊具との識別は容易であろう。

西古志型煮炊具は中越地域の島崎川流域（三島郡出雲崎町・長岡市和島地区等）で多く確認でき、西川流域（燕市・新潟市西蒲区・南区等）でも一定量存在する［春日2000］。阿賀北地域では、聖籠町山三賀Ⅱ遺跡で出土しており現時点では最北と見られる。須恵器の生産は律令期には一郡一窯（的）体制といわれているが、消費地は同一郡内を超え、隣接する郡に及ぶことが明らかになっており、地理的距離が影響しているも

器種名	残存率	(%)	破片数	(%)
無台杯	1039	(37.8)	296	(35.1)
有台杯	226	(8.2)	24	(2.8)
杯　蓋	170	(6.2)	45	(5.3)
盤	8	(0.3)	2	(0.2)
壺・瓶類	25	(0.9)	3	(0.4)
横　瓶	13	(0.5)	2	(0.2)
甕	3	(0.1)	1	(0.1)
無台椀	254	(9.2)	74	(8.8)
小　甕	612	(22.3)	247	(29.3)
長　甕	353	(12.9)	141	(16.7)
鍋	36	(1.3)	8	(1.0)
鉢	7	(0.3)	1	(0.1)
合　計	2746	100	844	100

第8表　Ⅵ層口縁部残存率集計（x／36）

遺構名	無台杯	有台杯	杯蓋	無台椀	小甕	長甕	鍋
SI2006				36	22	22	4
SI2088					11	27	8
SI2110		36			2	1	
SI2258	2	25	2		16	32	

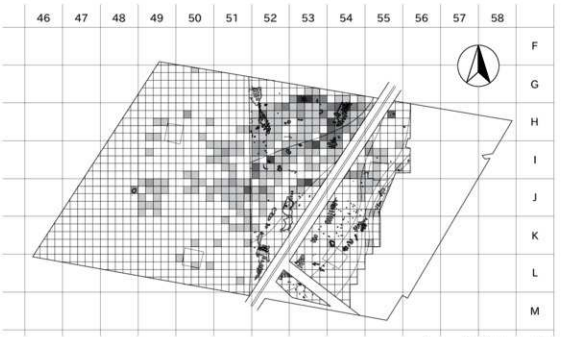
第9表　竪穴建物器種構成（x／36）

遺構名	食膳具	煮炊具	貯蔵具
SI2006	36	48	0
SI2088	0	46	0
SI2110	36	3	0
SI2258	29	48	0

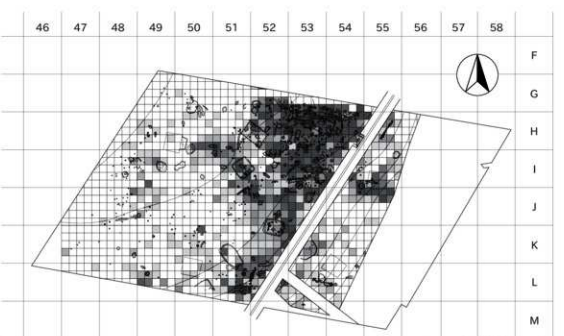
第10表　竪穴建物機能別構成比（%）

遺跡名（春日編年）	胎土A群	胎土B群	胎土C群	その他
村下遺跡（Ⅱ2～Ⅳ3期）	57.0	7.0	36.0	
納目木遺跡（Ⅳ1～Ⅴ期）	51.7	0.3	48.0	

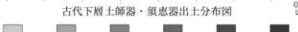
第11表　須恵器の産地割合（%）



古代上層土師器・須恵器出土分布図



古代下層土師器・須恵器出土分布図



第 18 図　古代土師器・須恵器出土分布図

遺物名	古代上層土師器(g)	古代上層須恵器(g)	古代下層土師器(g)	古代下層須恵器(g)
遺構内出土	4949.0	217.0	9622.8	6389.4
遺構外出土	6985.3	1448.5	74483.5	11058.5
合計	11934.3	1665.5	84106.3	17447.9

第 12 表　古代土師器・須恵器重量表

のと考えられる［春日前掲 2000］。土師器についても同様と見られ、山三賀Ⅱ遺跡出土資料については、島崎川流域で生産されたものが、西川・信濃川・阿賀野川河口付近を経て、もたらされた可能性が指摘されている［春日 2004］。本遺跡例も同様と考えられ、阿賀野川の河口付近からは約 18km 上流に位置する。西古志地域からは約 50km の距離である。阿賀野市内からは本遺跡の出土例のみで近接する村下遺跡では出土していない。本遺跡の出土例は古代の内水面交通の実態を知る手掛かりとなろう。

これまで阿賀野市内の古代の遺跡は笹神地区を除くと調査例が少なく、笹神丘陵の一大窯跡群を擁する沼垂郡内とは言え、様相が不明の地域であった。しかし、今回の阿賀野バイパス関係の発掘調査で本遺跡や山口遺跡［荒谷ほか 2010］、市で調査を行った村下遺跡、三辺稲荷遺跡［古澤 2008］などの発掘調査から、徐々に明らかになってくるものと期待される。

番号	遺跡名	所在地	出典
1	八幡林遺跡	長岡市（旧和島村）	『和島村文化財調査報告書第 2 集八幡林遺跡』1993 和島村教育委員会
2	下ノ西遺跡	長岡市（旧和島村）	『和島村文化財調査報告書第 6 集下ノ西遺跡』1998 和島村教育委員会
3	屋田製鉄遺跡	長岡市（旧与板町）	『新潟考古』第 1 号 1990 新潟県考古学会
4	番場遺跡	出雲崎町	『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 48 集番場遺跡』1987 新潟県教育委員会
5	寺前遺跡	出雲崎町	『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 189 集寺前遺跡』2008 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
6	梯子谷窯跡	出雲崎町	『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 104 集梯子谷窯跡』2001 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
7	上田遺跡	見附市	『見附市埋蔵文化財調査報告第 20 上田遺跡』2005 見附市教育委員会
8	江添 C 遺跡	燕市（旧吉田町）	『江添 C 遺跡・江添 D 遺跡』2002 吉田町教育委員会・日本芸術文化文化財総合研究所
9	北小脇遺跡	燕市（旧吉田町）	『吉田町文化財調査第 9 集北小脇遺跡・天神堂城跡・館屋敷遺跡・大橋遺跡』2002 吉田町教育委員会
10	野沖遺跡	燕市（旧吉田町）	『吉田町史資料編 1 考古・古代・中世』2000 吉田町
11	中大溝遺跡	燕市（旧吉田町）	『吉田町史資料編 1 考古・古代・中世』2000 吉田町
12	馬越遺跡	加茂市	『加茂市文化財調査報告（14）馬越遺跡』2005 加茂市教育委員会
13	下稲場遺跡	新潟市（旧巻町）	『FIELD　NOTE』3・4・5・6・7、1984・1986・1988・1990・1995　新潟大学考古学研究部、『巻町史』資料編 1　1994 巻町
14	茶院遺跡	新潟市（旧中之口村）	『新潟県埋蔵文化財調査報告第 5 茶院遺跡』1976 新潟県教育委員会
15	的場遺跡	新潟市	『新潟市的場遺跡』1993 新潟市教育委員会
16	緒立遺跡 C	新潟市（旧黒埼町）	『緒立 C 遺跡発掘調査報告書』1994 黒埼町教育委員会
17	釈迦堂遺跡	新潟市（旧黒埼町）	『新潟県埋蔵文化財調査報告第 100 集釈迦堂遺跡』2000 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
18	山三賀Ⅱ遺跡	北蒲原郡聖籠町	『新潟県埋蔵文化財調査報告第 53 集山三賀Ⅱ遺跡』1989 新潟県教育委員会
19	柄目木遺跡	阿賀野市	本報告

第 13 表　西古志型煮炊具出土遺跡

要　約

1　柄目木遺跡は新潟県阿賀野市大字小里字柄目木 75 － 2 番地ほかに所在する。

2　遺跡は新潟平野の沖積地、阿賀野川右岸の自然堤防上に位置する。標高は約 6m である。調査区は中世の頃にはほぼ平坦になっているが、平安時代には調査区の東側に流れる旧小里川（ふるさとがわ）に向かって傾斜している。

3　発掘調査は、一般国道 49 号阿賀野バイパスの建設事業に伴うもので、試掘・確認調査は平成 19 年 9 月 1 日～ 12 月 6 日、平成 20 年 7 月 23 日～ 25 日、本発掘調査は平成 20 年 4 月 10 日～ 21 年 1 月 9 日にかけて実施した。調査面積は 13,000m^2 である。

4　調査によって、平安時代初期（8 世紀末～ 9 世紀初頭）を中心とする集落と、中世・鎌倉時代～室町時代（13 世紀中頃～ 14 世紀）の集落を検出した。

5　平安時代の集落は竪穴住居と掘立柱建物を中心とするもので、ほかに井戸や炭窯、南北方向に伸びる道を複数検出した。

6　平安時代の遺物は土師器・須恵器が出土している。須恵器は新津丘陵産と地元笹神丘陵産が多く、佐渡小泊産が 3 個体のみ出土している。西古志産の土師器長甕が複数出土しており、分布域を考える上で興味深い。

7　中世は掘立柱建物 5 棟を検出し、このうち片廂建物が 1 棟ある。掘立柱建物には、井戸が近接するが建物は広い範囲に散在している。並行に伸びる溝を検出しているが、何らかの区画するためのものと考えられる。

8　中世の集落はさらに西側に広がり、検出面も 2 面あることが確認されたことから、平成 21・22 年度に追加調査を行うため、今回の報告はＡ・Ｂ区に限定した。今後刊行する「柄目木遺跡Ⅱ」で集落の様子が明らかになると考えられる。

引用・参考文献

荒川隆史ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第153集 大坪遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒木繁雄 1970 「水原郷の地形・地質について」『新潟県文化財調査年報 第十 水原郷』新潟県教育委会

安藤正美 2005 『見附市発掘調査報告第20上田遺跡』 見附市教育委員会

伊藤康倫ほか 1993 『二本松東山遺跡発掘調査報告書』 新潟県聖篭町教育委員会

伊藤秀和 2005 『加茂市文化財調査報告(14)馬越遺跡』 加茂市教育委員会

伊藤啓雄 2006 「新潟県における中世土師器皿と輸入陶磁器・瀬戸美濃製品」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』 北陸中世考古学研究会

宇野隆夫 1982 「井戸考」『史林』65-5

江口友子 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第100集 釈迦堂遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

遠藤孝司 2003 「第一章考古 第一節原始・古代・中世の遺跡 第二項古代・中世」『笹神村史 資料編一 原始・古代・中世』 新潟県笹神村

近江俊秀 2006 『古代国家と道路』 青木書店

近江俊秀 2008 『道路誕生』 青木書店

小田由美子ほか 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第99集 堀越館跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

小田由美子ほか 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第117集 赤坂山中世窯跡・赤坂山B遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

小田由美子 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第169集 坂井遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実 1999 「第4章古代第2節土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編 高志書院

春日真実 2000 「考古編第5章2古代西蒲原地域における土器生産と流通」『吉田町史資料編古代・中世』 新潟県吉田町

春日真実 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第104集 梯子谷窯跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査団

春日真実 2004a 「第Ⅳ章2土師器」『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会

春日真実 2004b 「第Ⅲ章4海岸部(南部)」『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会

川上貞雄 1977 『水原城館址及水原代官所址発掘調査報告書』 水原町教育委員会

川上貞雄・石川日出志ほか 1981 『上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 横峰A遺跡・横峰B遺跡』 新潟県安田町教育委員会

川上貞夫 1999 『笹神村文化財調査報告9 前田遺跡・壱本杉遺跡』 新潟県笹神村教育委員会

川上貞雄 2003 「第七章 考古学から見た古代の笹神」『笹神村史 通史編』 新潟県笹神村

京ヶ瀬村 1969 『村誌』 新潟県京ヶ瀬村教育委員会

轡田克史 2004 「古代第三章 笹神の律令制」『笹神村史 通史編』新潟県笹神村

小池邦明・藤塚 明 1993 『新潟市的場遺跡』 新潟市教育委員会

坂井秀弥ほか 1987 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第48集 番場遺跡』 新潟県教育委員会

坂井秀弥 1988 「新潟県における中世考古学の現状と課題」『新潟考古学談話会会報』第1号新潟考古学談話会

坂井秀弥ほか 1989 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会

坂井秀弥 1990 「新潟県三島郡与板町の製鉄遺跡」『新潟考古』第1号 新潟県考古学会

坂井秀弥 1999 「中世越後の村・家・すまい」『中世の越後と佐渡』 高志書院

品田高志 1999 「第5章第3節第1項中世土師器」『新潟県の考古学』 高志書院

高桑 登 1998 「山形県平田町新留窯跡出土の須恵器系中世陶器」『山形考古第6巻2号』

高橋 保ほか 1993 『和島村文化財調査報告書第2集八幡林遺跡』 新潟県和島村教育委員

高橋 保 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第157集 住吉遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

高橋 保 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第189集 寺前遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化

財調査団
高橋保雄ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第172集 鴨深甲遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
田中 靖 1998 『和島村文化財調査報告書第6集 下ノ西遺跡』 新潟県和島村教育委員会
田中 靖 2003 『和島村埋蔵文化財調査報告書第14集 八幡林遺跡Ⅳ』 新潟県和島村教育委員会
田辺早苗ほか 2007 『神林村埋蔵文化財調査報告書 第24村内遺跡確認調査報告書』 新潟県神林村教育委員会
田村 裕 2004 「中世第三章 南北朝・室町前期の白河荘」『笹神村史 通史編』 新潟県笹神村
鶴巻康志・水澤幸一・八藤後順子 1990 「越後国阿賀北地方の中・近世土師器編年」『東北地方の在地土器・陶磁器Ⅱ』 東北中世考古学会
鶴巻康志 2004 「土師器からみた中世の小地域圏－新潟県北部阿賀北地方を中心に－」『中近世土器の基礎研究XVⅢ』 日本中世土器研究会
鶴巻康志 2005 「新潟県北部の中世陶器窯」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～発表要旨集』
鶴巻康志ほか 1997 『新発田市埋蔵文化財調査報告書第17 新発田城跡発掘調査報告書Ⅱ (第7～10地点)』 新潟県新発田市教育委員会
中川成夫・倉田芳郎 1962 『新潟県北蒲原郡における二窯址の調査』 立教大学文学部史学研究室
中川成夫・川上貞夫・土井義夫 1973 『狼沢窯址群の調査』 笹神村教育委員会
新潟大学考古学研究部 1984・1986・1988・1990・1995 『FIELD NOTE』3・4・5・6・7
新潟県農地部農地建設課 1973 『下越開発地域土地分類基本調査 新発田』
新潟県農地部農地建設課 1973 『下越開発地域土地分類基本調査 新潟』
新潟県農地部農地建設課 1975 『下越開発地域土地分類基本調査 新津』
新潟県農地部農地建設課 1986 『下越開発地域土地分類基本調査 津川』
新潟県巻町 1994 『巻町史』 資料編1
橋本久和 2000 「紀年銘資料を中心とした貿易陶磁器の年代観」『貿易陶磁の研究』20
樋口真己 2004 「中世第一章 白河荘の成立と城氏の展開」「中世第二章 鎌倉期の白河荘」『笹神村史通史編』 新潟県笹神村
藤澤良祐 2005 「施釉陶器生産技術の伝播」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～発表要旨集』
布施智也・中川潤次 2002『江添C遺跡・江添D遺跡』 吉田町教育委員会・日本芸術文化文化財総合研究所
布施智也・中川潤次 2002『吉田町文化財調査第9集北小脇遺跡・天神堂城跡・館屋敷遺跡・大橋遺跡』 吉田町教育委員会・日本芸術文化文化財総合研究所
古澤妥史 2004 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 町道上遺跡発掘調査報告書』 新潟県京ヶ瀬村教育委員会
古澤妥史 2004 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集大割遺跡・猫山遺跡・大曲川端遺跡発掘調査報告書』 新潟県京ヶ瀬村教育委員会
古澤妥史 2004 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書 第3集 村下遺跡発掘調査報告書』 新潟県京ヶ瀬村教育委員会
古澤妥史 2005 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 土居内西遺跡』 阿賀野市教育委員会
古澤妥史ほか 2008 『阿賀野市 文化財年報3』 阿賀野市教育委員会
本間信昭ほか 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第5 茶院遺跡』 新潟県教育委員会
水澤幸一 2005 「越後の中世土器」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
水澤幸一 2001 「食膳具の変遷」『埋蔵文化財調査報告 第21集 下町・坊城遺跡V—C地点・総論編』 新潟県中条町教育委員会
水澤幸一 2007 「中世越後の土器と陶磁器—11～14c. 前半」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』 北陸中世考古学研究会
宮内信雄ほか 2004 『二ツ屋遺跡・中住古遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新潟県紫雲寺町教育委員会
吉井雅勇 2001 『荒川町埋蔵文化財発掘調査報告書第7集 田島遺跡』 新潟県荒川町教育委員会
吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
『吉田町史資料編1 考古・古代・中世』 2000 新潟県吉田町
波邊ますみほか 1994 『緒立C遺跡』 新潟県黒埼町教育委員会

別表１　遺構観察表

遺構観察表（A・B 区中世）　掘立柱建物

遺構番号	位置	方位	間数	面積（m^2）	桁行（m）	梁行（m）
SB8	54J・K	N － 49 － W	2 間× 1 間	23.44	5.92	3.88 ～ 4.04
pit 番号	柱痕	平面形	断面形	規模（m）	深さ（m）	柱穴間偏（m）
P1	有	不整円形	台形状	0.32 × 0.28	0.18	P1 － P2 － 2.84
P2	有	円形	箱状	0.24 × 0.24	0.36	P2 － P3 － 3.12
P3	有	楕円形	台形状	0.32 × 0.24	0.31	P3 － P6 － 4.08
P4	無	円形	台形状	0.36 × 0.32	0.32	P1 － P4 － 3.84
P5	有	円形	箱状	0.32 × 0.28	0.22	P4 － P5 － 2.84
P6	有	円形	台形状	0.32 × 0.28	0.32	P5 － P6 － 3.08

遺構番号	位置	方位	間数	面積（m^2）	桁行（m）	梁行（m）
SB50	51H，52G・H	N － 49° － W	3 間× 1 間	26.8	6.96 ～ 7.00	3.76 ～ 3.92
pit 番号（身舎）	柱痕	平面形	断面形	規模（m）	深さ（m）	柱穴間偏（m）
P5	有	楕円形	階段状	0.40 × 0.28	0.40	P5 － P6 － 2.20
P6	有	円形	階段状	0.24 × 0.24	0.28	P6 － P7 － 2.40
P7	有	円形	階段状	0.32 × 0.28	0.29	P7 － P8 － 2.32
P8	有	円形	階段状	0.36 × 0.32	0.31	P8 － P11 － 2.32
P9	有	楕円形	箱状	0.32 × 0.28	0.30	P9 － P10 － 2.24
P10	有	円形	漏斗状	0.28 × 0.28	0.36	P10 － P11 － 2.28
P11	有	円形	漏斗状	0.32 × 0.32	0.38	
P12	有	円形	漏斗状	0.32 × 0.32	0.24	P9 － P12 － 200,P12 － P121 － 0.48
P121	無	円形		0.24 × 0.20	0.17	P5 － P121 － 2.40
pit 番号（廂）	柱痕	平面形	断面形	規模（m）	深さ（m）	柱穴間偏（m）
P1	有	円形	台形状	0.24 × 0.28	0.20	P1 － P2 － 216,P1 － P5 － 152
P2	有	円形	箱状	0.24 × 0.20	0.16	P2 － P3 － 2.36
P3	有	楕円形	階段状	0.32 × 0.24	0.25	P3 － P4 － 2.48
P4	有	円形	箱状	0.36 × 0.28	0.40	P4 － P8 － 1.44

遺構番号	位置	方位	間数	面積（m^2）	桁行（m）	梁行（m）
SB87	49J・K	N － 37° － W	2 間× 1 間	19.73	4.52 ～ 4.66	4.30
pit 番号	柱痕	平面形	断面形	規模（m）	深さ（m）	柱穴間偏（m）
P1	有	円形	箱状	0.28 × 0.24	0.33	P1 － P2 － 2.50
P2	有	円形	台形状	0.32 × 0.30	0.34	P2 － P3 － 2.20
P3	有	楕円形	台形状	0.30 × 0.21	0.16	P3 － P6 － 4.30
P4	有	円形	台形状	0.38 × 0.31	0.29	P1 － P4 － 4.30
P5	有	楕円形	箱状	0.30 × 0.24	0.23	P4 － P5 － 2.24
P6	有	長楕円形	箱状	0.22 × 0.14	0.22	P5 － P6 － 2.30

遺構番号	位置	方位	間数	面積（m^2）	桁行（m）	梁行（m）
SB97	49I・J，50J	N － 52° － W	3 間× 1 間	30.31	8.58 ～ 8.64	3.40 ～ 3.64
pit 番号	柱痕	平面形	断面形	規模（m）	深さ（m）	柱穴間偏（m）
P1	有	楕円形	半円状	0.24 × 0.18	0.18	P1 － P2 － 2.60
P2	有	楕円形	漏斗状	0.35 × 0.26	0.25	P2 － P3 － 3.00
P3	有	楕円形	弧状	0.24 × 0.20	0.10	
P4	無	円形	漏斗状	0.30 × 0.28	0.24	P1 － P4 － 3.40
P5	有	不整円形	半円状	0.30 × 0.24	0.17	P5 － P6 － 3.10
P6	有	円形	U 字状	0.28 × 0.26	0.18	P6 － P7 － 3.00
P7	有	円形	U 字状	0.32 × 0.28	0.19	

遺構番号	位置	方位	間数	面積（m^2）	桁行（m）	梁行（m）
SB98	54J・K	N － 51° － W	2 間× 1 間	20.27	5.48	3.60 ～ 3.80
pit 番号	柱痕	平面形	断面形	規模（m）	深さ（m）	柱穴間偏（m）
P127	有	方形	台形状	0.24 × 0.24	0.12	P127 － P128 － 2.70
P128	有	不整方形	漏斗状	0.24 × 0.24	0.9	P128 － P129 － 2.80
P129	有	不整長方形	箱状	0.44 × 0.24	0.17	P129 － P132 － 3.60
P130	有	方形	台形状	0.28 × 0.24	0.20	P127 － P130 － 3.80
P131	有	不整方形	漏斗状	0.28 × 0.28	0.37	P130 － P131 － 2.60
P132	有	方形	箱状	0.32 × 0.30	0.22	P131 － P132 － 2.90

遺構観察表（A・B区中世） 井戸

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
SE13	55K16・17	円形	弧状	1.23	1.21	0.55	
SE41	51I5	楕円形		1.79	1.26	(1.27)	
SE84	52H18・19・23～25	円形		3.20	2.90	(1.83)	
SE88	49H21・22	円形	不整形	1.65	1.58	2.30	
SE89	48H15・20	円形	箱状	1.34	1.24	1.72	
SE90	56E3・4・8・9	楕円形	台形状	1.46	1.30	1.36	
SE99	54J20・25,55J16・17・21・22,55K1・2	円形	(漏斗状)	413	3.76	(1.49)	
SE139	49I16・17・21・22		不整形	(2.25)	(1.10)	(1.86)	
SE141	50K11・12	円形	漏斗状	1.32	1.26	1.42	SX141から変更
SE143	47K21・22,47L1・2	(楕円形)		(2.05)	(1.98)	(1.02)	
SE144	47K2・6・7・11・12			(3.57)	(1.78)	(1.56)	井戸枠有り
SE145	47J19・20・24・25	円形	階段状	2.45	2.37	1.51	
SE152	47K17・18・22・23、47L2	楕円形	(漏斗状)	3.20	2.29	(1.68)	
SE155	47K14・15・19・20	楕円形	不整形	2.05	1.77	1.98	
SE159	48K6・7	円形	U字状	1.40	1.32	1.60	
SE161	47J25,47K5,48J21,48K1	不整形	箱状	2.60	2.30	1.68	
SE182	50J13・14・19	楕円形	不整形	2.08	1.70	1.52	SE2355から変更

遺構観察表（A・B区中世） 土坑

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	方位	備考
SK6	54K22	円形	(弧状)	(0.99)	(0.92)	(0.30)	N－31°－E	
SK42	51G18・19・23・24	楕円形	弧状	1.71	1.27	0.42	N－31°－E	
SK44	51G13・18	楕円形	弧状	0.85	0.64	0.15	N－17°－W	
SK115	50G8・9・13・14		不整形	(1.38)	(0.61)	(0.42)	N－49°－W	
SK116	50G7・8・12・13	楕円形	弧状	1.90	1.54	0.28	N－0°－W	
SK160	48J12	円形	不整形	0.96	0.95	0.46	N－5°－W	
SK166	48K8	不整楕円形	箱状	0.96	0.94	0.74	N－88°－E	

遺構観察表（A・B区中世） ピット

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
P172	47K11	円形	U字状	0.34	0.31	0.38	

遺構観察表（A・B区中世） 性格不明遺構

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	方位	備考
SX1	54L23	隅丸長方形	弧状	0.50	0.32	0.10	N－13°－E	
SX28	53J12・13・17・18	隅丸長方形	不整形	(2.70)	(0.92)	(0.41)	N－48°－W	
SX96	52K19・20・24・25		弧状	(0.77)	(0.47)	(0.14)	N－42°－E	
SX180	48J11	楕円形	箱状	0.99	0.78	0.7	N－30°－E	

遺構観察表（A・B区中世） 溝

遺構番号	位置	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	方位	備考
SD113	50・51L,51・52K,52・53J,53・54I,55H	(51.20)	0.58～1.59	0.22～0.46	N－50°－E	SD80から変更
SD114	53～55H,52・53I、51・52J,50・51K、49・50L	(64.20)	0.44～1.80	0.58～1.23	N－51°－E	
SD117	53G・H・I・J・K・L	(38.40)	0.36～0.86	0.59～0.62	N－5°－E	SX5から変更
SD118	49・50G,50～53H,53I	(37.40)	0.23～0.79	0.10～0.15	N－68°－W～N－84°－W	
SD119	49G・H,50・51H,51I	(28.30)	0.46～0.74	0.17～0.28	N－62°－W	
SD126	52・53I,52・53H,54H	(2.19)	0.35～1.36	0.10～0.36	N－33°－E	
SD134	52I	(4.60)	0.60～0.70	0.20	N－48°－W	

遺構観察表（A・B区古代上層） 土坑

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方向	備考
SK1066	54K16	不整形	漏斗状	1.70	1.30	0.24	N－27°－W	SG1066から変更

遺構観察表（A・B区古代上層） ピット

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
P1049	52I13	長楕円形	弧状	0.70	0.42	0.14	

遺構観察表（A・B区古代上層）道

遺構番号	位置	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SF1010	51G, 52G・H	(13.13)	(3.96)	0.04～0.41	N－20°－W	
落込み	位置	長径	短径	深さ	備考	
①	52G11・16	(1.52)	(0.38)	(0.16)		
②	51G20・25, 52G11・12・16・17・21・22	(4.76)	(3.54)	(0.11～0.31)		
②－1	52G16	1.40	0.61	0.30		
②－2	52G16	1.53	0.80	0.20		
②－3	52G16・21	1.40	0.53	0.19		
②－4	52G21	0.78	0.61	0.13		
③	52H1・2	0.78	0.40	0.07		
④	52H1・2	0.54	0.28	0.06		
⑤	52H1・2	(0.45)	(0.45)	(0.14)		
⑥	52H1・2・7	0.67	0.52	0.41		
⑦	52H7・11～13・17・18	4.30	2.30	0.31		
⑧	52H17・18	1.87	0.56	0.12		
⑨	52H17・18	1.24	0.53	0.04		
⑩	52H17・18・23	0.87	0.73	0.11		

遺構番号	位置	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SF1030	54G・H・I	(12.80)	(3.58)	0.08～0.20	N－17°－E	
落込み	位置	長径	短径	深さ	備考	
①	54H3・4	(1.09)	(0.68)	(0.20)		
②	54G21・22, 54H2・3・6～8・12・13	(5.15)	(3.46)	(0.20)		
③	54H12	1.29	0.47	0.09		
④	54H12・17	(1.15)	(0.44)	(0.08)		
⑤	54H21・22	(0.70)	(0.48)	(0.08)		
⑥	54H21・22, 54I1・2	1.58	0.52	0.19		
⑦	54I1・2	2.47	0.82	0.15		
⑧	54I1・2	1.92	0.46	0.09		

遺構番号	位置	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SF1043	52K・L	7.52	3.87	8～20	N－16°－W	
落込み	位置	長径	短径	深さ	備考	
①	52K17・18・22・23	1.95	0.76	0.19		
②	52K22・23	2.42	0.64	0.20		
③	52K21～23, 52L1～3・8	4.05	2.55	0.15		
④	52L2	0.78	0.48	0.13		
⑤	52L2・7	0.86	0.50	0.14		
⑥	52L7	1.39	0.68	0.19		
⑦	52L6・7・12	1.42	0.60	0.13		
⑧	52L6・7・11・12	1.16	0.47	0.08		
⑨	52L11	0.68	0.60	0.15		

遺構番号	位置	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SF1044	52L	2.67	0.64	7～20	N－38°－E	
落込み	位置	長径	短径	深さ	備考	
①	52L12	0.61	0.52	0.07		
②	52L11・12	(0.78)	(0.60)	0.18		
③	52L11・16	1.17	0.66	0.20		

遺構番号	位置	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SF1064	52K・L	6.68	1.24	0.14～0.20	N－16°－E	
落込	位置	長径	短径	深さ	備考	
①	52K12	0.82	0.54	0.15		
②	52K11・12・16・17	3.11	1.35	0.20		
③	52K16・17・21・22	0.66	0.46	0.14		
④	52K21, 52L1	0.92	0.52	0.14		

遺構番号	位置	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SF1065	52J・K	5.81	1.40	5～24	N－27°－E	
落込み	位置	長径	短径	深さ	備考	
①	52J18・19・23・24	1.66	1.12	0.14		
②	52J23，52K3	2.20	1.00	0.24		
③	52K2・3・7・8	0.56	0.52	0.05		
④	52K8	0.48	0.28	0.11		
⑤	52K7・8	0.70	0.60	0.05		

遺構番号	位置	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SF1068	52・53J，52・53K	11.06	3.20	0.04～0.15	N－9°－E	
落込み	位置	長径	短径	深さ	備考	
①	53J6	0.51	0.22	0.04		
②	53J6・11	0.54	0.29	0.13		
③	53J11	0.64	0.40	0.15		
④	52J15，53J11	(0.94)	(0.62)	(0.08)		
⑤	52J15・20・25，53J11・16・21，53K5・9・10，53K1・6	9.35	3.36	0.12		

遺構番号	位置	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SF1101	54J，53・54K，52・53L	(25.70)	(3.70)	(0.03)～0.20	N－34°－E	
落込み	位置	長径	短径	深さ	備考	
①	54J11・12・16・17	(0.95)	(0.46)	(0.15)		
②	54J16・17	(1.34)	(0.74)	(0.16)		
③	54J16・17	(1.44)	(0.52)	(0.17)		
④	54J16・21	0.90	0.45	0.08		
⑤	54J21	1.53	0.38	0.13		
⑥	54J21・22	1.95	0.56	0.18		
⑦	54J21，54K1	1.54	0.56	0.18		
⑧	53K5，54K1	1.53	0.60	0.20		
⑨	53K5，54K1	1.68	0.57	0.20		
⑩	53K14	1.00	0.67	0.16		
⑪	53K14・19	1.29	0.58	0.11		
⑫	53K18・19	1.16	0.61	0.14		
⑬	53L2	1.46	1.01	0.23		
⑭	53L2	0.82	0.62	0.14		
⑮	53L2・7	0.68	0.53	0.18		
⑯	53L6	0.50	0.34	0.18		
⑰	53L7	(1.97)	(1.10)	(0.31)		
⑱	53L7	(0.54)	(0.27)	(0.17)		
⑲	52L15，53L11	(1.28)	(0.48)	(0.08)		
⑳	52L15	(1.70)	(0.58)	(0.17)		
㉑	52L15・20	(1.30)	(0.48)	(0.04)		
㉒	52L14・15・20	(0.87)	(0.38)	(0.04)		
㉓	52L14・19	(0.86)	(0.73)	(0.03)		

遺構番号	位置	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SF1102	53L・54K・55J・K	18.40	3.90	0.02～0.20	N－46°－E	
落込み	位置	長径	短径	深さ	備考	
①	54K9・10	0.88	0.66	0.26		
②	54K9	0.68	0.32	0.05		
③	54K9	0.48	0.30	0.04		
④	54K9・10	0.83	0.38	0.10		
⑤	54K5・10	1.18	0.60	0.13		
⑥	54K5	0.62	0.52	0.08		
⑦	54K7，55K1	0.61	0.34	0.20		
⑧	55K1	0.77	0.22	0.12		
⑨	55J17・22	(0.93)	(0.52)	(0.11)		
⑩	55J17	0.62	0.28	0.05		
⑪	55J17・18	0.48	0.40	0.09		
⑫	55J17	0.44	0.30	0.10		

15	54K13	0.20	0.29	0.15	
16	54K10	0.29	0.28	0.16	
17	54K5・10、55K6	1.26	0.30	0.02	
18	54K10・55K6	1.26	0.36	0.01	
19	54K10・55K6	1.50	0.42	0.04	
20	54K10	0.80	030	0.08	
21	54K10	1.04	0.28	0.10	
22	54K10・15	0.64	0.31	0.10	
23	54K14	0.53	0.52	0.14	
24	54K14	0.70	0.31	0.13	
25	54K14・19・20	0.56	0.46	0.14	
26	54K19	062	0.25	0.09	
27	54K19	0.58	0.32	0.11	
28	54K18・19	1.00	0.40	0.05	
29	54K18	0.69	0.60	0.09	
30	54K18	0.64	0.26	0.04	
31	54K18・23	1.10	0.37	0.02	
32	54K23	0.52	0.38	0.06	
33	54K23	0.54	0.27	0.10	
34	54K23	1.20	0.32	0.10	
35	54K23	0.72	0.32	0.09	
36	53L15	0.61	0.26	0.06	
37	53L9・10・15	1.16	0.70	0.06	
38	53L9	(1.13)	(0.34)	(0.11)	
39	53L9	0.86	0.28	0.07	

遺構観察表（A・B 区古代上層）土器集中

遺構番号	位置	長径(m)	短径(m)	備考
土器集中 1009	53G22・23	2.24	1.67	

遺構観察表（A・B 区古代下層） 竪穴建物

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SI2006	51・52I	方形	皿状	4.81	4.67	0.22	N－144°－E	SX2006 から変更
pit 番号	平面形	断面形	規模（m）	深さ（m）	備考			
P1	円形	弧状	0.32 × 0.29	0.06				

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SI2088	52J・K	長方形	皿状	5.24	4.34	0.33	N－103°－E	
pit 番号	平面形	断面形	規模（m）	深さ（m）	備考			
周仕切り溝		弧状	2.24 × 22	0.07				
P1	長楕円形	台形状	0.75 × 0.49	0.23				
P2	楕円形	弧状	0.44 × 0.30	0.05				
P3	楕円形	弧状	0.29 × 0.24	0.05				
P4	長楕円形	弧状	0.28 × 0.18	0.05				
P5	長楕円形	台形状	0.52 × 0.37	0.20				
P6	長楕円形	弧状	0.43 × 0.27	0.12				
P7	円形		0.14 × 0.12	0.16				
P8	不整円形		0.15 × 0.12	0.18				
P9	楕円形		0.20 × 0.16	0.16				

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SI2110	53I	不整方形	皿状	3.06	2.78	0.31	N－1°－E	SK2110 から変更
pit 番号	平面形	断面形	規模（m）	深さ（m）	備考			
P1	不整円形	箱状	0.62 × 0.53	0.46				
P2	楕円形	漏斗状	0.46 × 0.34	0.56				
P3	楕円形	U 字状	0.16 × 0.13	0.30				
P4	円形	箱状	0.27 × 0.24	0.42				
P5	円形	箱状	0.27 × 0.23	0.22				
P6		箱状	(0.33 × 0.21)	(0.61)				

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	長軸方向	備考
SI2258	52・53H	方形	皿状	4.61	4.34		N－13°－E	

遺構観察表（A・B 区古代下層） 掘立柱建物

遺構番号	位置	長軸方向	間数	面積（nf）	桁行（m）	梁行（m）	備考
SB2367	51・52H	N－52°－W	4 間×1 間	24.26	5.94	4.07～4.10	
pit 番号	柱痕	平面形	断面形	規模（m）	深さ（m）	柱穴間隔（m）	
P2376	不明	円形	台形状	0.27×0.24	0.20	P2376-P2377—1.44	
P2377	不明	楕円形	箱状	0.30×0.22	0.27	P2377-P2390—1.67	
P2390	不明	円形	台形状	0.24×0.22	0.15	P2390-P2378—1.14	
P2378	不明	円形	台形状	0.24×0.22	0.18	P2378-P2379—1.66	
P2379	不明	円形	台形状	0.24×0.22	0.22	P2379-P2380—4.10	
P2382	不明	円形	U 字状	0.24×0.21	0.35	P2382-P2376—4.07	
P2381	不明	楕円形	台形状	0.26×0.21	0.46	P2381-P2382—3.12	
P2399	不明	円形	箱状	0.54×0.52	0.70	P2399-P2381—2.20	
P2380	不明	円形	箱状	0.22×0.20	0.36	P2380-P2399—0.60	

遺構番号	位置	長軸方向	間数	面積（nf）	桁行（m）	梁行（m）	備考
SB2369	53・54H	N－64°－W	3 間×2 間	20.05	5.46～5.72	3.41～3.76	
pit 番号	柱痕	平面形	断面形	規模（m）	深さ（m）	柱穴間隔（m）	
P2261	不明	楕円形	U 字状	0.52×0.47	0.57	P2261-P2241—2.97	
P2241	不明	（不整楕円形）	箱状	(0.43×0.29)	(0.47)	P2241-P2031—1.46	
P2031	不明	円形	台形状	0.22×0.20	0.19	P2031-P2064—1.30	
P2064	不明	楕円形	箱状	0.29×0.24	0.40	P2064-P2041—0.25	SD2064 から変更
P2041	不明	長楕円形	台形状	0.24×0.17	0.15	P2041-P2045—0.40	
P2045	不明	円形	台形状	0.20×0.16	0.16	P2045-P2240—1.44	
P2240	不明		箱状	(0.40×0.38)	(0.51)	P2240-P2058—1.34	
P2208	不明	（円形）	台形状	(0.50×0.43)	(0.50)	P2208-P2261—2.05	
P2018	不明	楕円形	台形状	0.45×0.38	0.35	P2018-P2208—1.72	
P2373	不明	不整円形	台形状	0.24×0.21	0.20	P2373-P2018—2.34	
P2363	不明	円形	台形状	0.42×0.40	0.26	P2363-P2373—0.87	
P2069	不明	円形	箱状	0.26×0.26	0.48	P2069-P2363—1.18	
P2056	不明	不整楕円形	箱状	0.47×0.38	0.46	P2056-2069—1.10	

遺構番号	位置	長軸方向	間数	面積（nf）	桁行（m）	梁行（m）	備考
SB2370	53G・H	（N－76°－E）		(21.36)			
pit 番号	柱痕	平面形	断面形	規模（m）	深さ（m）	柱穴間隔（m）	
P2383	不明	不整形	台形状	0.36×0.33	0.31	P2383-P2384—1.72	
P2384	不明	円形	箱状	0.29×0.27	0.49	P2384-P2253—1.25	
P2253	不明	円形	台形状	0.22×0.20	0.25	P2253-P2385—1.40	
P2385	不明	（円形）	台形状	(0.46×0.42)	(0.44)	P2358-P2386—1.65	
P2386	不明	円形	U 字状	0.28×0.27	0.52	P2386-P2387—1.52	
P2387	不明	長楕円形	台形状	0.24×0.16	0.12	P2387-P2388—1.48	
P2388	不明	不整円形	U 字状	0.32×0.28	0.42		

遺構観察表（A・B 区古代下層） 井戸

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
SE2152	50H22・23,50I2・3	不整円形	階段状	2.51	2.17	(1.65)	
SE2347	49H14・19	不整円形	袋状	1.55	1.39	1.29	
SE2343	49I8・9・13・14	楕円形	階段状	3.20	2.41	1.64	

遺構観察表（A・B 区古代下層） 土坑

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方向	備考
SK2202	51I15		皿状	(0.84)	(0.53)	(0.06)	N－1°－W	
SK2217	51I9・14・15	不整長楕円形	皿状	(1.40)	(0.93)	(0.10)	N－70°－W	
SK2012	53G21・22		弧状	(1.63)	(1.21)	(0.18)	N－72°－W	
SK2026	52G16・17・21・22	隅丸長方形	弧状	2.03	1.54	0.22	N－89°－E	
SK2051	53H10			(1.00)	(0.61)	(0.30)	N－27°－W	
SK2057	54H11・12	不整円形	弧状	1.40	1.33	0.23	N－1°－E	
SK2072	54H11	（楕円形）		(2.00)	(1.88)	(0.20)	N－52°－W	
SK2087	52J19	不整長楕円形	不整形	0.78	0.64	0.26	N－77°－W	P2087 から変更
SK2094	53I22	不整形	弧状	1.08	0.96	0.37	N－79°－W	
SK2104	53I5・10	円形	台形状	1.18	1.18	0.18	N－84°－W	
SK2105	53I4・9		台形状	(0.88)	(0.83)	(0.62)	N－37°－W	
SK2106	53I8・13・14	不整円形	台形状	(1.98)	(1.96)	(0.48)	N－6°－E	
SK2117	54H19・20・24・25		漏斗状	(2.80)	(1.30)	(0.43)	N－32°－E	
SK2144	53H11・12	不整長楕円形		(0.86)	(0.59)	(0.18)	N－89°－W	

SK2150	50I19	不整円形	台形状	1.12	1.02	0.16	N－30°－W	
SK2157	51L9・10	不整隅丸方形	階段状	1.00	0.90	0.42	N－50°－E	
SK2160	51L2・3・8	不整隅丸方形	弧状	1.71	1.61	0.48	N－41°－E	
SK2164	53I3・4・8・9	不整形	弧状	2.60	2.50	0.31	N－1°－E	
SK2216	52G35	不整円形	台形状	0.90	0.80	0.20	N－88°－W	
SK2219	54H1・2・6・7	不整隅丸長方形	台形状	(1.35)	(0.88)	(0.28)	N－73°－W	
SK2239	53H8・9		階段状	(1.40)	(0.62)	(0.26)	N－70°－W	SK2029から変更
SK2221	54G23・24,54H3・4	（長楕円形）	皿状	(3.14)	(1.86)	(0.31)	N－78°－W	SK2078から変更
SK2233	54L11	不整楕円形	台形状	1.09	0.78	0.14	N－59°－W	SX2233から変更
SK2242	54L12	長楕円形	台形状	0.86	0.52	0.14	N－90°－W	SX2242から変更
SK2223	53H13・14・18・19	（長楕円形）	弧状	(1.27)	(0.57)	(0.14)	N－35°－E	
SK2228	53L9・14	不整円形	台形状	0.71	0.66	0.20	N－88°－W	SX2228から変更
SK2264	54L4・5	不整形	箱状	0.88	0.84	0.30	N－37°－W	SX2264から変更
SK2281	52I3・4	（円形）	台形状	(1.92)	(1.40)	(0.24)	N－64°－E	
SK2283	52I8・9・13・14		皿状	1.60	1.50	0.12	N－2°－E	
SK2300	52H9,10・14・15		台形状	(1.28)	(1.30)	(0.25)	N－34°－E	
SK2326	52H25		台形状	(0.70)	(0.32)	(0.44)	N－18°－E	
SK2337	51G22	不整円形	台形状	1.30	1.11	0.18	N－20°－E	
SK2342	54K20，55K16	円形	台形状	0.68	0.60	0.10	N－0°－W	SX2342から変更
SK2315	52H24・25，52I4,5	楕円形	台形状	(2.52)	(1.91)	(0.46)	N－27°－E	
SK2345	49H7・12	不整楕円形	弧状	0.71	0.90	0.13	N－54°－W	
SK2348	48I9・10	楕円形	皿状	1.38	1.06	0.08	N－79°－W	
SK2346	48I10，49I6		皿状	(2.56)	(1.11)	(0.12)	N－81°－E	
SK2351	53L10・15	不整形	皿状	2.81	1.72	0.10	N－1°－E	
SK2356	48J20，49J16	不整形	弧状	1.12	1.07	0.23	N－79°－E	SX2356から変更
SK2361	49L7	不整楕円形	台形状	1.28	0.98	0.30	N－48°－E	

遺構観察表（A・B 区古代下層） ピット

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方向	備考
P2086	52J19	不整円形	台形状	0.74	0.67	0.14	N－40°－W	
P2149	53I6・11	楕円形	U字状	(0.75)	(0.60)	(0.69)	N－90°－E	
P2245	54G23		不整形	(0.14)	(0.10)	(0.34)	N－77°－W	SG2245から変更
P2316	52I4・5			(1.03)	(0.48)	(0.23)	N－82°－W	
P2009	53G21	不整円形	弧状	0.56	0.54	0.18		
P2013	53G17・18・22・23	円形	台形状	0.74	0.68	0.32		
P2073	53G23	不整円形	箱状	0.36	0.31	0.30		
P2084	52K1・6	楕円形	弧状	0.80	0.60	0.16	N－90°－E	
P2085	53J21	楕円形	弧状	0.70	0.56	0.18	N－47°－E	
P2246	53I5		U字状	(0.49)	(0.24)	(0.47)	N－85°－W	SK2246から変更
P2265	55I16・17・21・22	不整楕円形	台形状	0.61	0.45	0.17	N－6°－W	

遺構観察表（A・B 区古代下層） 焼土

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方向	備考
SG2016	53H3・4,53G23・24	不整楕円形	弧状	1.19	0.91	0.21	N－90°－W	SK2016から変更
SG2096	53I24・25		弧状	(0.80)	(0.48)	0.13	N－70°－W	
SG2100	53I23		弧状	(0.98)	(0.56)	0.17	N－88°－W	
SG2103	53I22・23	（長楕円形）	階段状	(1.90)	(0.68)	(0.18)	N－89°－W	
SG2156	48K20・25	不整形	階段状	1.25	1.05	0.17	N－22°－E	
SG2249	53H17	円形	弧状	0.61	0.58	0.09	N－77°－W	P2249から変更
SG2325	51I12	円形	皿状	1.60	0.94	0.15	N－71°－W	
SG2344	50I5,51I1	楕円形	台形状	(1.26)	(0.98)	0.16	N－69°－E	

遺構観察表（A・B 区古代下層） 性格不明遺構

遺構番号	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方向	備考
SX2083	52K23，52L2・3	不整形	階段状	(3.81)	(1.30)	(0.23)	N－82°－W	
SX2153	50H16・17・21・22	（方形）	皿状	(3.54)	(1.59)	(0.09)	N－14°－E	
SX2163	51K12・13・16～19・22～25，51L3～5	不整隅丸長方形	弧状	6.94	3.93	0.08	N－27°－W	
SX2256	55I21・22	不整楕円形	階段状	(3.35)	(0.78)	(0.16)	N－79°－W	
SX2327	51G18・19・24	不整楕円形	箱状	0.81	0.75	1.00	N－33°－E	
SX2334	53K13・14・18・19・22～24	（方形）		(5.64)	(2.51)	(0.12)	N－33°－E	
SX2358	50L13～15・18～20，51L16	（方形）		(5.36)	(2.42)	(0.09)	N－81°－W	SD2358から変更

遺構観察表（A・B 区古代下層） 溝

遺構番号	位置	長さ(m)	幅 (m)	深さ(m)	長軸方向	備考
SD2046	53H22・23・25	(3.96)	0.40 ～ 0.52	0.14	N － 86° － W	P2046 から変更
SD2074	54H8・13・18・23	3.04	0.24 ～ 0.32	0.10	N － 4° － W	
SD2089	51L19・20,52L16	(4.72)	0.80 ～ 0.97	0.38	N － 63° － E	
SD2090	52L2・3,6 ～ 8	(3.48)	0.39 ～ 0.66	0.08	N － 79° － E	
SD2116	54H22・23	3.20	0.28 ～ 0.44	0.14	N － 90° － W	
SD2123	53H16 ～ 18,23	4.36	0.19 ～ 0.29	0.09	N － 86° － E ～ N － 43° － W	
SD2127	53H14・15,54H11	4.24	0.34 ～ 0.67	0.36	N － 88° － W	
SD2214	54H2	(1.40)	0.42 ～ 0.44	0.21	N － 76° － W	
SD2218	53H6 ～ 9	(5.90)	0.54 ～ 0.78	0.51	N － 78° － W	
SD2235	52G19・20・24・25	(3.20)	0.74 ～ 1.06	0.41	N － 37° － W	
SD2237	53H1 ～ 5・7・8,54H1	(7.40)	0.56 ～ 1.10	0.56	N － 89° － E	
SD2284	53H22・23	(2.94)	0.12 ～ 0.30	0.17	N － 76° － W	
SD2294	54L8・9	(2.04)	0.29 ～ 0.48	0.07	N － 84° － E	
SD2335	51H14・19・24	4.40	0.31 ～ 0.56	0.12	N － 5° － E	
SD2352	50G24,50H4	3.52	0.50 ～ 0.80	0.47	N － 25° － W	
SD2389	54G23,54H2・3	(2.88)	0.52 ～ 0.81	0.22	N － 20° － W	

遺構観察表（A・B 区古代下層）道

遺構番号	位置	長径(m)	短径(m)	深さ (m)	方位	備考
SF2080	51・52L	(6.62)	(1.45)	(0.02) ～ 0.18	N － 13° － E	
掘込み	位置	長径	短径	深さ (m)		
①	51L20, 52L16	(0.85)	(0.20)	(0.02)		
②	51L20, 52L16	(0.78)	(0.36)	(0.08)		
③	51L20, 52L11・16	1.00	0.36	0.09		
④	51L15・52L11	0.64	0.30	0.05		
⑤	51L15・52L11	0.68	0.34	0.07		
⑥	51L15・52L11	0.60	0.33	0.08		
⑦	51L10・15, 52L6・11	0.98	0.34	0.12		
⑧	51L10, 52L6	0.98	0.40	0.06		
⑨	51L10, 52L6	0.83	0.34	0.18		
⑩	51L10, 52L6	0.72	0.34	0.10		
⑪	51L10, 52L6	0.84	0.34	0.11		
⑫	51L10, 52L6	0.96	0.42	0.05		
⑬	52L1・6	0.62	0.27	0.09		
⑭	52L1	0.52	0.34	0.10		
⑮	52L1	(0.50)	(0.20)	(0.04)		

遺構番号	位置	長径(m)	短径(m)	深さ (m)	方位	備考
SF2200	55H	(5.84)	(0.74)	(0.05 ～ 0.20)	N － 33° － E	
掘込み	位置	長径	短径	深さ		
①	55H9	(0.41)	(0.34)	(0.10)		
②	55H9	(0.66)	(0.66)	(0.11)		
③	55H9	(0.50)	(0.24)	(0.07)		
④	55H9	(0.44)	(0.29)	(0.06)		
⑤	55H9・14	(0.58)	(0.37)	(0.07)		
⑥	55H13・14	(0.32)	(0.32)	(0.08)		
⑦	55H13・14	(0.38)	(0.31)	(0.14)		
⑧	55H13	(0.40)	(0.36)	(0.09)		
⑨	55H13	(0.40)	(0.32)	(0.06)		
⑩	55H13	(0.46)	(0.36)	(0.07)		
⑪	55H13・18	(0.53)	(0.32)	(0.07)		
⑫	55H18	(0.60)	(0.36)	(0.08)		
⑬	55H18	(0.75)	(0.52)	(0.10)		
⑭	55H18	(0.42)	(0.27)	(0.05)		
⑮	55H18	(0.78)	(0.22)	(0.05)		

遺構観察表（A・B 区古代下層）土器集中

遺構番号	位置	長径(m)	短径(m)	備考
土器集中 2227	52H10	1.09	0.36	

別表２　中世土器・陶磁器観察表

報告番号	地区	出土地点	群位	種類	器種	分類	時期	法量（cm）	手法	胎土	施釉	備考
1	A	SE13	4	瀬戸焼	片口鉢		旧期		内外面ロクロナデ	海綿状骨針		
2	B	SE41		瀬戸焼	皿		旧期		外面平行叩き，内面ナデ	長石、海綿状骨針		
3	B	SE84	上	土師質土器	皿	A2	13c 後半～14c 初	口15.0：底9.5：高3.0	内外面ナデ			
4	A	SE99	1	土師質土器	皿	A2	14c	口12.8：底8.2：高3.3	内外面ロクロナデ，底部ヘラ切り	長石、金雲母		
5	A	SE99	上	土師質土器	皿	A1	14c	口12.0：底9.0：高3.7	内外面ロクロナデ，底部ヘラ切り			
6	A	SE99	3	青磁	椀		13c 後半～14c 初	底5.0	ロクロ成形	高白内無釉		
7	A	SE99	上	瀬戸焼	片口鉢		Ⅳ期		内外面ロクロナデ，回目９条	長石		
8	B	SE145	1	北越須	甕		13c 後半	口44.0	内外面ヨコナデ	長石		
9	B	SE182		土師質土器	皿	B	13c 後半～14c 初	口12.0：底7.3：高3.5	ロクロ成形，底部回転糸切り・板状圧痕			スス・煤下多量に付着
10	A	SK6	4	土師質土器	皿	A2	14c 前半	口12.4：底7.0：高3.3	ロクロ成形，底部ヘラ切り			内面スス付着
11	A	SK6	6	土師質土器	皿	A1	14c 前半	口12.6：底8.8：高3.8	ロクロ成形，底部ヘラ切り	砂粒		内面スス付着
12	A	SK6	2	瀬戸焼	片口鉢		Ⅳ期前	口26.6：底12.0：高13.3	内外面ロクロナデ，底部静止糸切り，回目７条	長石		内外面スス付着
13	B	SK42	5	瀬戸焼	片口鉢		旧期	口26.4	内外面ロクロナデ，回目 13 条	長石、海綿状骨針		
14	B	SD113（5481i）	2	土師質土器	皿	A1	13c 後葉～14c 初	口13.0：底9.0：高3.5	内外面ロクロナデ，底部ヘラ切り	長石、砂粒		
15	B	SD113（5481i）	底	土師質土器	皿	A3	13c 後葉～14c 初	口12.0：底8.8：高2.9	内外面ロクロナデ，底部ヘラ切り	長石、砂粒		
16	B	SD113（5481i）		瀬戸焼	片口鉢		Ⅳ期後半		内外面ロクロナデ，回目 10 条	長石		
17	B	SD113（53i2）	1	瀬戸焼	片口鉢		Ⅲ期末～Ⅳ期初	底12.6	内外面ロクロナデ，底部静止糸切り，回目９条以上	砂粒		
18	A	SD113（52i）	1	瀬戸焼	片口鉢		Ⅲ期末～Ⅳ期初	底12.2	内外面ロクロナデ，底部静止糸切り，回目 14 条	長石、海綿状骨針		
19	B	SD113（53i22）		瀬戸焼	片口鉢		Ⅲ期末～Ⅳ期初	底12.0	内外面ロクロナデ，底部静止糸切り，回目７条	長石、海綿状骨針		
20	B	SD113	底	北越須	甕		13c 後葉～14c 初		内外面ナデ，菊花 16 弁・蘭状押印	長石		
21	B	SD114（5481i3）	1	土師質土器	皿	A2	14c	口11.0	ロクロ成形	長石		内面墨書
22	B	SD114（5481i1）	4	土師質土器	皿	A3	14c	口11.6：底7.6：高2.9	ロクロ成形，底部ヘラ切り・板状圧痕			内外スス・炭化物付着
23	B	SD114	1	瀬戸焼・美濃焼	椀		古瀬戸中立期	底4.8	ロクロ成形，貼り付け高台		内外灰釉	
24	B	SD114（5581i）		瀬戸焼	片口鉢		Ⅳ期末		内外面ロクロナデ，回目 11 条以上	長石		
25	B	SD114（5i213）	1	瀬戸焼	片口鉢		Ⅳ期		内外面ロクロナデ，回目 11 条	砂粒		
26	B	SD114	複土	瀬戸焼	片口鉢		Ⅳ期	底13.2	内外面ロクロナデ，底部静止糸切り	長石		
27	B	SD114（51i22）	1	瀬戸焼	壺		Ⅳ期以前	底9.7	内外面ロクロナデ，底部静止糸切り	長石		
28	B	SD114（53i8）	1	瀬戸焼	甕		Ⅱ期末～Ⅲ期		外面平行叩き，内面ナデ	長石、海綿状骨針		
29	B	SD114		北越須	甕		14c	口30.0	内外面ヨコナデ	長石、石英		
30	A	56K23	Ⅱ	青磁	碗		13c 後葉～14c 前	底11.2			骨付け無釉	
31	B	53J6	Ⅳ	青磁	椀		13c 後葉～14c 前	底5.6	ロクロ成形		高白内無釉	
32	A	56I2	Ⅱ	瀬戸焼・美濃焼	皿		古瀬戸前期期	口17.4	内外面ロクロナデ			
33	A	55K17	Ⅱ	瀬戸焼・美濃焼	折皿		古瀬戸前期	底7.8	外面ロクロナデ，底部回転糸切り		内外面薄い灰釉	

別表３　古代土器観察表

口縁部残存率：X／36　器高指数：器高／口径×100　胎土　A：笹神丘陵産，B：佐渡小泊産，C：新津丘陵産，D：そのほか

報告番号	出土地点	層位	取上げ番号	種類	器種	分類	編年 時期	法量（cm） 口径	高さ	底径	口縁部残存率	器高指数	焼成	胎土	色調 内／外	調整 内／外	ロクロ回転	同一個体	備考
1	SF1030②（54H3）	Ⅰ		須恵器	有台杯	－	Ⅳ2・3期	－	－	8.0	0	－	良	C	灰 N6/ 灰 N6/	／貼付け高台	右		
2	SF1030②（54H3）	Ⅰ		須恵器	有台杯	Ⅰ2	Ⅳ2・3期	12.8	3.8	8.3	4	30	良	A	灰 N5Y4/1 灰 N5Y4/1	／底部ヘラ切り，貼付け高台	左	53G25 Ⅵ，54H1・6～8 Ⅵ，	見込み摩耗
3	SF1030②（54H2）	Ⅰ		須恵器	有台杯	Ⅱ1	Ⅴ期	9.8	4.4	6.2	4	45	不良	C	褐灰 7.5YR4/1 灰 N6/	／貼付け高台	右	SD114（55H6），53H18 Ⅵ，55I22 Ⅵ	
4	土器集中1009（53G23）	Ⅳ		須恵器	有台杯	Ⅰ1	Ⅳ2・3期	10.6	3.6	6.7	16	34	良	C	灰 N5/ 灰 N6/	／ヘラケズリ		P2013（53G22）No.26 Ⅵ	自然釉付着
5	土器集中1009	Ⅳ	92・94・100・102・104	土師器	長甕	BⅠ	Ⅳ2・3期	19.8	－	－	11	－	並	A	浅黄橙 7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR8/4	／平行線文タタキ		52G25 Ⅵ	炭化物／スス付着
6	土器集中1009	Ⅳ	22・40	土師器	長甕	BⅠ	Ⅳ2・3期	24.2	－	－	6	－	並	A	浅黄橙 7.5YR8/3 浅黄橙 7.5YR8/6	／平行線文タタキ		SD114・5（53H22・25），SD115・5（53H25）53H5・25 Ⅳ	摩耗・炭化物付着
7	土器集中1009	Ⅳ	6・9・10・13・15・21・24・47～50・52・59・61～63・71・72・74・75・89・96・105・108・覆土1・2	土師器	長甕	BⅠ	Ⅳ2・3期	29.0	40.2	－	22	139	並	C	浅黄橙 7.5YR8/6 浅黄橙 7.5YR8/6	／平行線文タタキ		SD177・1（53H9），53I2 Ⅵ，53I03	炭化物／スス付着
8	土器集中1009	Ⅳ	97・99	土師器	鍋	B	Ⅳ2・3期	（46.0）	－	－	3	－	良	C	にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4	ハケメ／平行線文タタキ			
9	52I13	Ⅳ		須恵器	無台杯	BⅠ3	Ⅳ1期	14.8	3.5	10.0	2	24	不良	C	灰白 2.5Y8/2 灰白 2.5Y8/2	／底部ヘラ切り	－		
10	55I11	Ⅳ		須恵器	無台杯	－	Ⅳ2・3期	－	－	10.0	0	－	良	A	灰 N6/ 灰 N6/	／底部ヘラ切り	－		
11	50I 東西T	Ⅳ		須恵器	無台杯	BⅠ1	Ⅳ2・3期	12.0	3.3	8.4	6	28	並	C	灰白 10YR8/1 灰白 10YR8/1	／底部ヘラ切り	－		
12	50H07	Ⅳ		須恵器	無台杯	BⅡ1	Ⅳ2・3期	12.4	3.8	8.0	2	31	良	C	明オリーブ灰 2.5GY7/1 明オリーブ灰 2.5GY7/1	／底部ヘラ切り	－		／体部ヘラ書き有
13	47L5	Ⅳ		須恵器	無台杯	－	Ⅴ期～	－	－	8.2	0	－	良	B	灰 N5/ 灰 N5/	／底部ヘラ切り	左		
14	54H2	Ⅳ		須恵器	有台杯	Ⅱ3	Ⅳ1期	14.8	－	10.0	5	48	並	A	オリーブ灰 5GY6/1 オリーブ灰 5GY6/1	／底部ヘラ切り	左	52I15 Ⅵ	自然釉／自然釉付着，剥落
15	54J15	Ⅳ		須恵器	杯蓋	AⅠ2	Ⅳ2・3期	16.5	2.6	ツマミ径3.1	5	16	並	C	青灰 5B5/1 青灰 5B5/1	／ヘラケズリ		52I2 Ⅵ，54J Ⅵ	
16	52I13	Ⅳ		須恵器	杯蓋	AⅡ2	Ⅳ2・3期	16.2	3.2	ツマミ径2.7	16	20	並	C	灰 N6/ 灰 N6/	／ヘラケズリ		52I21～25 東西T一括Ⅳ，52H25 Ⅵ，52I10 Ⅵ，53I15 Ⅵ	
17	53J3	Ⅳ		土師器	無台椀	BⅠ	Ⅴ期	－	－	6.0	0	－	良	C	浅黄橙 7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR9/4	／底部回転糸切り			／底部ヘラ書き「×」
18	53G21	Ⅳ		土師器	無台椀	BⅠ	Ⅴ期	12.0	4.3	5.2	7	36	並	C	浅黄橙 7.5YR8/6 浅黄橙 7.5YR8/6	／底部回転糸切り			
19	SI2006	②	28	土師器	無台椀	A	Ⅳ2・3期	8.7	3.9	4.0	36	45	良	A	橙 5YR6/6 橙 5YR7/6	／ヘラケズリ			非ロクロ
20	SI2006		20・28・29	土師器	小甕	A	Ⅳ2・3期	－	－	6.8	0	－	並	A	浅橙 5YR8/4 にぶい橙 5YR7/4	／ハケケズリ			炭化物／スス付着
21	SI2006	7		土師器	小甕	BⅠ1	Ⅳ2・3期	13.0	－	－	12	－	並	A	にぶい橙 7.5YR7/6 にぶい橙 7.5YR7/6	／カキメ			炭化物付着
22	SI2006	③		土師器	小甕	CⅠ2	Ⅳ2・3期	16.6	－	－	5	－	並	A	黄橙 7.5YR8/8 黄橙 7.5YR8/8	ハケメ			
23	SI2006	③	1	土師器	小甕	CⅠ3	Ⅳ2・3期	17.2	－	－	5	－	並	A	橙 7.5YR7/6 橙 7.5YR7/6	カキメ・ハケメ		51I13・14 Ⅵ	／スス付着
24	SI2006	①③	16・20	土師器	長甕	BⅠ	Ⅳ2・3期	20.2	－	－	22	－	不良	A	浅黄橙 7.5YR8/6 浅黄橙 7.5YR8/6	カキメカキメ		51I Ⅴ	／スス付着
25	SI2006		24・25・27	土師器	鍋	A2	Ⅳ2・3期	42.8	－	－	4	－	良	A	にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/4	ハケメハケメ		51I9・Ⅵ	ゆがみ大

報告番号	出土地点	層位	取上げ番号	種類	器種	分類	編年 時期	法量（cm） 口径	高さ	底径	口縁部残存率	器高指数	焼成	胎土	色調 内/外	調整 内/外	ロクロ回転	同一個体	備考
26	SI2088	2	72・73・85	土師器	小甕	—	Ⅳ2・3期	—	—	8.0	0	—	並	A	にぶい橙 5YR7/4 にぶい橙 5YR6/4	／カキメ			／剥落・スス付着
27	SI2088	上層①④	8	土師器	小甕	BⅡ1	Ⅳ2・3期	12.7	11.1	9.2	7	87	並	A	浅黄橙 7.5YR8/6 にぶい橙 7.5YR7/4			SI2088 西ベルト中、52J22・23・Ⅵ	炭化物／スス付着
28	SI2088	カマド	94・96・101・102	土師器	長甕	B1	Ⅳ2・3期	23.6	—	—	15	—	不良	C	灰白 2.5Y8/2 灰白 2.5Y8/2	カキメ／カキメ、ハケメ			29 と同一個体か
29	SI2088	覆土上①④		土師器	長甕	B1	Ⅳ2・3期	23.6	—	—	7	—	不良	C	灰白 2.5Y8/2 灰白 2.5Y8/2	カキメ／カキメ		SI2088・P4・2、P3・2	／スス付着 28 と同一個体か
30	SI2088	2	4・17・20・21・23・26・28〜30・33・34・35・37・39〜44・46・49〜51・55・57・60〜66・76	土師器	鍋	B2	Ⅳ2・3期	43.0	17.0	—	8	40	並	A	浅黄橙 7.5YR8/6 浅黄橙 7.5YR8/6	カキメ、ハケメ／カキメ、ハケメ、タタキ			炭化物／スス付着
31	SI2110	1		須恵器	無台杯	A12	Ⅳ2・3期	13.2	3.8	10.0	20	26	不良	A	浅黄 2.5Y7/3 浅黄 2.5Y7/3	／底部ヘラ切り	右		スス／スス付着
32	SI2110	1		須恵器	無台杯	B11	Ⅳ2・3期	11.8	3.0	8.0	16	25	並	C	灰白 5Y7/1 灰白 5Y7/1	／底部ヘラ切り	—	53I13・14・19Ⅵ	
33	SI2258			須恵器	有台杯	12	Ⅳ2・3期	13.6	4.0	7.3	25	29	並	A	灰白 5Y7/1 灰白 5Y7/1	／ヘラケズリ、底部ヘラ切り	右	52H15・Ⅵ	
34	SI2258	カマド		土師器	小甕	A12	Ⅳ2・3期	15.3	16.8	8.0	13	52	並	A	にぶい橙 5YR7/4 にぶい橙 5YR7/4			52H15・Ⅵ	炭化物付着／剥落
35	SI2258	3	土器集中 2227・No.2・3〜20・22〜27・29〜32・35・37〜41・45・46 Ⅵ	土師器	長甕	D1	Ⅳ2・3期	20.8	36.0	—	27	173	並	D	浅黄橙 7.5YR8/6 浅黄橙 7.5YR8/6	ハケメ／ハケメ		P2013No.19・21・24・25、51H15・Ⅵ、52H5・Ⅵ、53H1・6・Ⅵ	西古志型甕
36	SK2026	4		土師器	長甕	D1	Ⅳ2・3期	23.2	—	—	6	—	不良	A	橙 7.5YR7/6 浅黄橙 7.5YR8/6				
37	SK2026	1		土師器	鍋	B	Ⅳ2・3期	32.0	—	—	4	—	並	A	橙 2.5YR7/8 橙 2.5YR7/8				炭化物付着
38	SK2051	10		須恵器	壺	—	Ⅳ2・3期	—	—	11.0	—	—	並	A	灰 5Y6/1 灰 N7/	／ヘラケズリ、貼付高台		P1029・1、52I19 Ⅳ、52I24、52I21〜25 東西T一括Ⅵ、53I21・22 Ⅵ、54H2 Ⅵ	／高台自然釉付着
39	SK2105			土師器	小甕	B11	Ⅳ2・3期	13.6	—	—	10	—	良	A	橙 5YR7/6 橙 5YR7/6	ハケメ		53I19 Ⅵ	／剥落
40	SK2105	3		土師器	小甕	B13	Ⅳ2・3期	17.2	—	—	4	—	不良	A	浅黄橙 7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR8/4				
41	SK2106	3		須恵器	無台杯	—	Ⅳ2・3期	13.4	—	—	10	—	並	A	灰 5Y6/1 灰 5Y6/1		—	SD2090・2	
42	SK2106	1		須恵器	杯蓋	A11	Ⅳ2・3期	13.4	2.5	ツマミ径 2.2	6	19	良	C	青灰 5B6/1 青灰 5B6/1	／ヘラケズリ	右		／自然釉付着
43	SK2117	1		須恵器	無台杯	B11	Ⅳ2・3期	13.0	3.2	9.0	17	25	並	A	灰黄 2.5Y7/2 灰黄 2.5Y7/2	／底部ヘラ切り	右		底部外面左下墨書「上」か
44	SK2117	1		須恵器	無台杯	B12	Ⅳ2・3期	13.6	3.5	10.7	13	26	不良	A	灰白 5Y8/1 灰白 5Y8/1	／底部ヘラ切り	右		
45	SK2117	1		須恵器	無台杯	B12	Ⅳ2・3期	13.8	3.4	8.2	12	25	不良	A	灰白 10YR7/1 灰白 10YR7/1	／底部ヘラ切り	左		
46	SK2117	1		土師器	小甕	B12	Ⅳ2・3期	16.0	—	—	4	—	並	C	にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/4	カキメ			／スス付着
47	SK2117	1		土師器	小甕	CⅡ2	Ⅳ2・3期	15.6	—	—	10	—	並	A	にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR6/4				炭化物／スス付着
48	SK2117	1		土師器	長甕	B1	Ⅳ2・3期	21.4	—	—	4	—	並	C	にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/4	／カキメ			
49	SK2164	1		須恵器	無台杯	B11	Ⅳ2・3期	12.4	3.3	8.8	8	27	不良	A	浅黄 2.5Y7/4 浅黄 2.5Y7/4	／底部ヘラ切り	—		

報告番号	出土地点	層位	取上げ番号	種類	器種	分類	編年 時期	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 器高	法量 (cm) 底径	口縁部残存率	器高指数	焼成	胎土	色調 内／外	質感 内／外	ロクロ回転	同一個体	備考
50	SK2164			土師器	長甕	D1	Ⅳ2・3期	20.0	－	－	17	－	良	D	橙 5YR6/8 橙 5YR6/8	カキメ／ハケメ			西古志型甕、最化物／スス付着
51	SK2216	1		須恵器	有台杯	Ⅱ2	Ⅳ2・3期	12.4	5.2	8.6	11	42	良	C	灰 N6/ 灰 N4/	／ヘラケズリ・底部ヘラ切り	左	52G16 ～ 20・23・24 Ⅵ、52H7 Ⅵ、54H1 Ⅵ	
52	SK2221	1		須恵器	無台杯	A11	Ⅳ2・3期	12.6	3.6	9.0	11	29	良	A	灰 N6/ 灰 N6/	／底部ヘラ切り		52H6 Ⅵ、53H11 Ⅵ、53G21 Ⅵ、54I6 Ⅵ	／火だすき、重ね焼痕
53	SK2221	1～3		須恵器	無台杯	B13	Ⅳ1期	15.9	3.9	13.0	13	25	不良	A	灰白 5Y8/1 灰白 5Y8/1		－		スス／スス付着
54	SK2221	3		土師器	鉢	A	Ⅳ2・3期	11.6	－	－	7	－	並	A	浅黄橙 7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR8/4	／ハケメ			／スス付着
55	SK2221	1		土師器	小甕	B12	Ⅳ2・3期	14.6	－	－	6	－	不良	A	橙 7.5YR7/8 橙 5YR7/6				最化物付着
56	SK2221	1		土師器	長甕	B1	Ⅳ2・3期	20.8	－	－	7	－	並	A	浅黄橙 7.5YR8/6 黄橙 7.5YR8/6	カキメ／カキメ			
57	SK2221	2		土師器	長甕	D1	Ⅳ2・3期	22.2	－	－	6	－	良	D ラ	橙 5YR6/8 橙 5YR6/8	ハケメ／ハケメ			西古志型甕、最化物／斜落痕著
58	SK2223	1		土師器	小甕	B12	Ⅳ2・3期	16.6	－	－	7	－	良	A	黄橙 7.5YR8/8 にぶい橙 7.5YR7/4	カキメ			最化物／スス付着、斜落痕著
59	SK2281	1	1	須恵器	無台杯	A12	Ⅳ2・3期	13.5	3.5	10.0	32	26	不良	C	灰白 5Y7/1 灰白 5Y7/1	／底部ヘラ切り	左		
60	SK2283	1		須恵器	無台杯	B11	Ⅳ2・3期	12.8	3.3	9.0	9	26	良	C	灰 N6/ 灰 N6/	／底部ヘラ切り	右	SG2132・1、52I4 Ⅵ	
61	SK2315	1		土師器	鍋	B1	Ⅳ2・3期	31.4	－	－	6	－	良	C	浅黄橙 7.5YR8/6 浅黄橙 7.5YR8/6				
62	SK2351 (53L10)	1	3～5	須恵器	杯蓋	A12	Ⅳ1期	15.4	1.6	ツマミ径 2.5	31	10	良	C	褐灰 7.5YR6/1 灰褐 7.5YR5/2	／ヘラケズリ	右	52L19 Ⅵ	
63	SK2351 (53L15)	1	1・2	須恵器	短頸壺	A	Ⅳ2・3期	9.3	－	－	18	－	良	A	灰白 N7/ 灰白 N7/	／ヘラケズリ、貼付け高台			／回部自然釉付着
64	SK2361	1		須恵器	無台杯	B11	Ⅳ2・3期	12.4	2.6	8.6	14	21	並	A	灰 7.5Y6/1 灰 7.5Y6/1	／底部ヘラ切り	右		
65	P2009	1		須恵器	有台杯	Ⅱ1	Ⅳ2・3期	10.4	4.3	6.0	9	41	良	C	黄灰 2.5Y5/1 灰 N6/	／ヘラケズリ、底部ヘラ切り	－	52H5 Ⅵ、53G21 Ⅵ、	全体に自然釉／重ね焼き痕
66	P2013		3・4・31・32	土師器	小甕	－	Ⅳ2・3期	－	－	6.8	0	－	並	A	橙 5YR7/8 橙 5YR7/6	カキメ／カキメ			／スス付着
67	P2013		16	土師器	長甕	B1	Ⅳ2・3期	20.8	－	－	4	－	並	A	浅黄橙 7.5YR8/6 浅黄橙 7.5YR8/6	カキメ／カキメ		P2016No.29・30	
68	P2013		5・18・27	土師器	長甕	D1	Ⅳ2・3期	23.6	－	－	4	－	並	D	橙 7.5YR7/6 橙 7.5YR7/6	ハケメ／ハケメ			西古志型甕
69	P2073	1		須恵器	無台杯	B11	Ⅳ2・3期	13.0	3.2	8.0	13	25	良	C	灰 N5/ 灰 N5/	／底部ヘラ切り	－		
70	P2120	1		土師器	鍋	B1	Ⅳ2・3期	32.0	－	－	5	－	不良	A	浅黄橙 7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR8/4				
71	P2204	1		須恵器	無台杯	B12	Ⅳ2・3期	13.8	3.4	9.7	14	25	並	A	灰 N6/ 灰 N6/	／底部ヘラ切り	－	53H18 Ⅵ	／底部ヘラ書き「一」、重ね焼痕、自然釉
72	SG2103	2		須恵器	有台杯	Ⅲ3	Ⅳ2・3期	14.4	9.6	8.9	6	67	並	C	灰 N6/ 灰 N4/	／ヘラケズリ、沈線1条、底部ヘラ切り	右	53I18・22・東西T Ⅵ、55H9T、55J8 Ⅵ	
73	SG2166			土師器	小甕	B12	Ⅳ2・3期	15.2	－	－	7	－	不良	A	橙 2.5YR7/8 にぶい黄橙 10YR7/4	カキメ			
74	SG2166			土師器	長甕	D1	Ⅳ2・3期	24.4	－	－	3	－	良	D ラ	橙 5YR7/8 橙 5YR7/8	ハケメ／ハケメ			西古志型甕？
75	SC2099	1		土師器	小甕	B12	Ⅳ2・3期	16.2	－	－	4	－	良	A	橙 7.5YR7/6 橙 7.5YR7/6				
76	SK2083	1		須恵器	有台杯	Ⅱ1	V期	9.0	4.7	5.3	32	52	良	A	灰 N6/ 灰 N5/	／ヘラケズリ、底部ヘラ切り			

報告番号	出土地点	層位	取上げ番号	種類	器種	分類	編年	法量(cm)			口縁部残存率	器高指数	焼成	胎土	色調	調整	ロクロ回転	同一個体	備考
							時期	口径	高さ	底径					内/外	内/外			
77	SX2256			須恵器	盤	A	Ⅳ2・3期	17.0	2.0	14.0	5	12	良	C	灰N5/ 灰N6/		—	55I21 Ⅵ	/底部摩耗
78	SX2353 (49I10)	1	1・2	須恵器	有台杯	Ⅱ2	Ⅳ2・3期	13.3	6.3	9.3	27	47	良	C	灰N6/ 灰N5/	/ヘラケズリ、底部ヘラ切り、貼付け高台	左	SF2200 − 3	見込み自然釉、ゆがみ大
79	SX2353 (49I10)	1	2	土師器	小甕	CⅠ1	Ⅳ2・3期	14.0	—	—	9	—	並	C	浅黄橙7.5YR8/6 橙7.5YR7/6				炭化物付着
80	SX2353 (49I10)	1	2	土師器	長甕	BⅠ	Ⅳ2・3期	20.0	—	—	5	—	並	A	浅黄橙7.5YR8/6 にぶい褐7.5YR6/3	カキメ			炭化物付着
81	SD2235	4		須恵器	無台杯	BⅠ2	Ⅳ2・3期	13.2	3.4	7.0	8	26	良	C	灰7.5Y6/1 灰7.5Y6/1	/底部ヘラ切り	右	52H10 Ⅵ	口唇部使用による摩耗顕著、体部打ち欠き有
82	SD2235	4		須恵器	無台杯	BⅠ2	Ⅳ2・3期	13.3	3.5	9.8	11	26	良	C	灰7.5Y6/1 灰7.5Y6/1	/底部ヘラ切り	—		
83	SD2237	1		須恵器	無台杯	BⅠ2	Ⅳ2・3期	13.1	3.3	10.2	19	25	不良	A	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい橙7.5YR6/4	/底部ヘラ切り後ナデ消し	—	SD2218・1No.2,53H5 Ⅵ	見込みヘラ書き「×」重ね焼痕
84	SD2237	1		須恵器	無台杯	BⅠ2	Ⅳ2・3期	13.6	3.6	11.0	13	26	並	A	灰N6/ 灰N6/	/底部ヘラ切り	—		
85	SD2237	1・2	2～4	須恵器	無台杯	BⅡ1	Ⅳ2・3期	12.2	3.9	7.0	30	32	不良	A	浅黄橙2.5Y7/4 浅黄橙2.5Y7/4	/底部ヘラ切り	—		
86	SD2237	2		須恵器	有台杯	Ⅱ2	Ⅳ2・3期	13.7	6.5	9.3	8	47	並	A	灰5Y5/1 灰5Y5/1	/ヘラケズリ、底部ヘラ切り	右	SD113 (541)・2、SD117・2、SD2210・1No.5、53H1 Ⅵ、	見込み自然釉
87	SD2237	2		須恵器	杯蓋	AⅡ2	Ⅳ2・3期	15.8	3.6	ツマミ径2.6	15	23	不良	A	にぶい橙5YR6/4 にぶい赤褐7.5R4/3	/ヘラケズリ		52H5 Ⅳ、53H1・5・6・9 Ⅵ、54H1・6 Ⅵ、55I21 Ⅵ	/火だすき
88	SD2284	1		須恵器	無台杯	—	Ⅳ2・3期	—	—	7.7	0	—	並	A	灰白2.5Y7/1 灰白2.5Y7/1	/底部ヘラ切り	右	53I10・20・Ⅵ、54H12 Ⅵ	/底部ヘラ書き「又」か
89	48K20	Ⅵ		須恵器	無台杯	AⅠ1	Ⅳ2・3期	12.2	2.9	9.4	9	24	不良	A	にぶい黄橙10YR6/3 にぶい黄橙10YR6/3	/底部ヘラ切り	右	49K16 Ⅵ	/重ね焼痕
90	52K23	Ⅵ		須恵器	無台杯	AⅠ1	Ⅳ2・3期	12.5	3.3	10.0	11	26	良	C	灰N5/ 灰N5/		右	52K18・22 Ⅵ	
91	53K1	Ⅵ		須恵器	無台杯	AⅠ2	Ⅳ2・3期	13.4	3.6	10.0	7	27	並	C	灰7.5Y6/1 灰7.5Y6/1	/底部ヘラ切り	右		
92	53H4	Ⅵ		須恵器	無台杯	AⅠ2	Ⅳ2・3期	13.8	3.4	11.0	8	25	並	A	オリーブ灰2.5GY6/1 オリーブ灰2.5GY6/1	/底部ヘラ切り	右		
93	51L12	Ⅵ		須恵器	無台杯	AⅡ3	Ⅳ1期	14.0	4.3	10.9	26	31	不良	A	橙7.5YR7/6 橙7.5YR7/6	/底部ヘラ切り	右		
94	53I13	Ⅵ		須恵器	無台杯	BⅠ1	Ⅳ2・3期	11.8	2.9	8.0	3	25	並	A	灰5Y6/1 灰5Y6/1		—		見込み摩耗
95	51L9	Ⅵ		須恵器	無台杯	BⅠ1	Ⅳ2・3期	12.8	3.2	8.0	12	25	不良	A	浅黄2.5Y7/3 浅黄2.5Y7/3	/底部ヘラ切り	右		/底部右墨書「上」か
96	54H14	Ⅵ		須恵器	無台杯	BⅠ1	Ⅳ2・3期	13.0	2.9	9.0	6	22	不良	C	浅黄2.5Y7/4 浅黄2.5Y7/4	/底部ヘラ切り	—		
97	50I13	Ⅵ		須恵器	無台杯	BⅠ2	Ⅳ2・3期	13.1	3.3	9.8	2	25	不良	A	灰白2.5Y7/1 灰白2.5Y7/1	/底部ヘラ切り	—		
98	55I22	Ⅵ		須恵器	無台杯	BⅠ2	Ⅳ2・3期	13.2	3.4	10.0	8	26	並	C	灰N6/ 灰N6/		右	55I22 Ⅳ、SD114	見込み摩耗、タール?漆?付着
99	52J13	Ⅵ		須恵器	無台杯	BⅠ3	Ⅳ1期	15.2	4.0	10.8	19	26	不良	C	灰白2.5Y8/2 灰白2.5Y8/2	/底部ヘラ切り	右		
100	53I19	Ⅵ		須恵器	無台杯	BⅡ1	Ⅳ2・3期	12.3	3.7	9.3	18	30	不良	A	灰黄2.5Y7/2 灰黄2.5Y7/2		右	54H 南北T Ⅵ	
101	51K17	Ⅵ		須恵器	無台杯	BⅡ3	Ⅳ1期	14.0	4.4	10.2	7	31	不良	C	灰白10YR8/2 灰白10YR8/2	/底部ヘラ切り	右		
102	49L12T	Ⅵ		須恵器	有台杯	Ⅰ2	Ⅳ2・3期	12.4	3.5	7.0	8	28	並	A	灰白N7/1 灰白N7/1	/底部ヘラ切り、貼付け高台	—		
103	49L14	Ⅵ		須恵器	有台杯	Ⅰ2	Ⅳ2・3期	12.4	3.9	7.4	3	31	並	A	灰N7/ 灰N7/	/底部ヘラ切り	右		

報告番号	出土地点	層位	取上げ番号	種類	器種	分類	編年 時期	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 器高	法量 (cm) 底径	口縁部残存率	器高指数	焼成	胎土	色調 内／外	調整 内／外	ロクロ回転	同一個体	備考
104	52323	Ⅵ		須恵器	有台杯	Ⅰ2	Ⅳ2・3期	13.0	4.0	9.0	16	31	良	A	灰N6/ 灰N6/	／底部ヘラ切り、貼付け高台	－		／重ね焼痕
105	50L16T	Ⅵ		須恵器	有台杯	Ⅰ2	Ⅳ2・3期	13.2	4.0	8.1	7	30	並	A	灰N6/ 灰N6/	／ヘラケズリ、底部ヘラ切り	右		
106	53H1	Ⅵ		須恵器	有台杯	Ⅰ2	Ⅳ2・3期	13.5	3.9	10.0	12	29	並	A	灰N6/ 灰N6/	／貼付け高台	－		
107	55I14	Ⅵ		須恵器	有台杯	Ⅰ2	Ⅳ2・3期	13.6	3.9	7.6	10	29	並	A	灰7.5Y5/ 灰7.5Y5/	／貼付け高台	－	55I13 Ⅵ、接土	
108	51L14	Ⅵ		須恵器	有台杯	Ⅰ2	Ⅳ2・3期	13.9	4.3	8.3	18	31	良	A	灰N6/ 灰N4/	／ヘラケズリ、底部ヘラ切り	右		見込み摩耗／自然釉付着
109	53H1	Ⅵ		須恵器	有台杯	Ⅰ3	Ⅳ1期	14.2	3.7	10.0	7	26	並	A	灰N6/ 灰N6/	／貼付け高台	－		
110	52H21	Ⅵ		須恵器	有台杯	Ⅰ3	Ⅳ1期	15.4	3.9	8.4	3	25	良	C	灰N6/ 灰N4/	／底部ヘラ切り、貼付け高台	－	試掘 66T	摩耗／自然釉付着
111	53H7	Ⅵ		須恵器	杯蓋	A11	Ⅳ2・3期	14.1	2.5	ツマミ径3.0	14	18	良	C	黄灰2.5Y6/1 灰黄2.5Y6/2	／ヘラケズリ		53H8・12・13 Ⅵ	／有台杯の蓋台消滅、自然釉付着
112	54I	Ⅵ		須恵器	杯蓋	A11	Ⅳ2・3期	14.6	－	－	4	－	良	C	青灰5B5/1 青灰5B5/1	／ヘラケズリ			
113	52K15	Ⅵ		須恵器	杯蓋	A12	Ⅳ2・3期	15.5	2.8	ツマミ径2.8	3	18	良	C	青灰5B5/1 青灰5B6/1	／ヘラケズリ	右		摩耗、墨痕有、転用硯か
114	55J1	Ⅵ		須恵器	杯蓋	B	Ⅳ2・3期	－	－	ツマミ径2.2	0	－	並	A	灰白5Y7/1 灰白5Y7/1	／ヘラケズリ			
115	54I25	Ⅵ		須恵器	壺	A	Ⅳ2・3期	17.8	2.1	15.3	3	12	良	C	灰N5/ 灰N5/		－	55I10 Ⅵ	／底部摩耗
116	48J3	Ⅵ		須恵器	壺	－	Ⅳ2・3期	－	－	－	0	－	良	D	青灰5B5/1 青灰5B5/1	／ヘラケズリ			壺Gか、スス付着
117	48J15	Ⅵ		須恵器	壺	－	Ⅳ2・3期	－	－	11.0	0	－	良	A	灰N4/ 灰N4/				／自然釉付着
118	52L1	Ⅵ		須恵器	甕	－	Ⅳ2・3期	－	－	－	3	－	良	A	オリーブ灰2.5GY6/1 灰N4/				／自然釉付着
119	55I08	Ⅵ		須恵器	甕	A	Ⅳ2・3期	－	－	－	0	－	良	B	灰N5/ 灰N6/	平行線文当て具痕、カキメ平行線文タタキ			底部自然釉付着
120	55H1	Ⅵ		須恵器	横瓶	A	Ⅳ2・3期	10.8	－	－	7	－	良	A	灰N4/ 灰白N7/	カキメ、同心円文当て具痕、平行線文タタキ、カキメ	左	55H9下 N、54H10下 Ⅵ、55H4・13・19 Ⅵ、表採	片面閉塞を確認、もう一方は不明
121	53H1	Ⅵ		須恵器	横瓶	A	Ⅳ2・3期	12.8	－	－	6	－	並	A	灰N5/ オリーブ灰5GY6/1				／自然釉付着
122	53H7	Ⅵ		土師器	無台椀	B1	V期	11.5	4.4	4.5	36	38	良	C	浅黄橙7.5YR8/6 浅黄橙7.5YR8/6	／底部回転糸切り後ナデ消し		53H8 Ⅵ	
123	48J5	Ⅵ		土師器	無台椀	B1	V期	11.6	4.2	4.0	10	36	並	A	橙5YR7/6 橙5YR7/6				
124	49J6	Ⅵ		土師器	無台椀	B1	V期	12.0	4.7	4.6	8	39	並	A	橙5YR7/6 橙5YR7/6				
125	49I21	Ⅵ		土師器	無台椀	B2	V期	15.4	4.9	－	8	－	良	C	黄橙10YR8/6 黄橙10YR8/6				
126	53H1	Ⅵ		土師器	無台椀	B2	V期？	14.2	－	－	12	－	良		黒10YR2/1 浅黄橙10YR8/3	内面黒色処理		53H5 Ⅵ	
127	52K15	Ⅵ		土師器	小皿	B12	Ⅳ2・3期	15.4	－	－	6	－	不良	A	浅黄橙7.5YR8/3 浅黄橙7.5YR8/3	カキメ			スス／スス付着
128	52J04	Ⅵ		土師器	小皿	B32	Ⅳ2・3期	15.6	－	－	5	－	並	A	黄橙7.5YR8/8 黄橙7.5YR8/8				／スス付着
129	49L11T	Ⅵ		土師器	小皿	B32	Ⅳ2・3期	16.0	－	－	14	－	並	C	浅黄橙7.5YR8/4 浅黄橙7.5YR8/4				スス／スス付着
130	51I20	Ⅵ		土師器	小皿	C13	Ⅳ2・3期	17.4	－	－	4	－	良	A	橙7.5YR6/8 橙7.5YR6/8				

報告番号	出土地点	層位	取上げ番号	種類	器種	分類	編年 時期	法量（cm） 口径	高さ	底径	口縁部 残存率	器高 指数	焼成	胎土	色調 内／外	調整 内／外	ロクロ 回転	同一個体	備考
131	54H8	VI		土師器	鍋	B2	Ⅴ2・3期	36.0	－	－	3	－	並	A	橙 7.5YR7/6 橙 7.5YR7/6	カキメ／カキメ			
132	52L15	VI		土師器	鍋	B2	Ⅴ2・3期	40.0	－	－	4	－	並	A	浅黄橙 7.5YR8/6 浅黄橙 7.5YR8/6				

別表 4　土製品観察表

番号	地区	出土地点	層位	種類	法量（cm・g）	胎土	調整	備考
1	B	SI2088	覆土上	紡口	厚 1.6	石英・長石		
2	B	SK2144	紡口		厚 2.6	小礫・黒雲母	ハケ？	表面に擦痕
3	B	SI3025	VI	紡口	厚 1.7	長石		
4	B	SK2110	1	土錘	長 4.9：径 1.1：重 4.0		手づくね	
5	A	53K18	VI	土錘	長 4.0：径 1.0：重 4.0	長石	手づくね	
6	A	53K9	VI	土錘	長 3.2：径 1.1：重 3.0	長石	手づくね	
7	B	54H12	VI	土錘	長 5.0：径 1.4：重 9.0	長石・黒雲母	手づくね	
8	B	55J9	VI	支脚	長 7.8：上径 8.0：底径 7.0	黒雲母・金雲母・長石	ケズリ，ナデ	円柱状

別表 5　石製品観察表

番号	地区	出土地点	層位	種類	法量（cm・g）	石材	備考
9	B	SK166	床面	磨石	長（24.0）幅 24 厚 15.8 重 12,200	花崗岩	使用面に光沢
10	B	P2143		磨石	長 10.2 幅 8.4 厚 20.4 重 110	凝灰岩	
11	A	SX2334	1	磨石	長 25.6 幅 15.2 厚 6.5 重 4,000	砂岩	
12	B	53G25	VI	磨石	長 5.7 幅 5.8 厚 3.2 重 197	花崗岩	
13	B	53I9	VI	石錘	長 2.1：幅 1.4：厚 0.45	玄武	頁岩

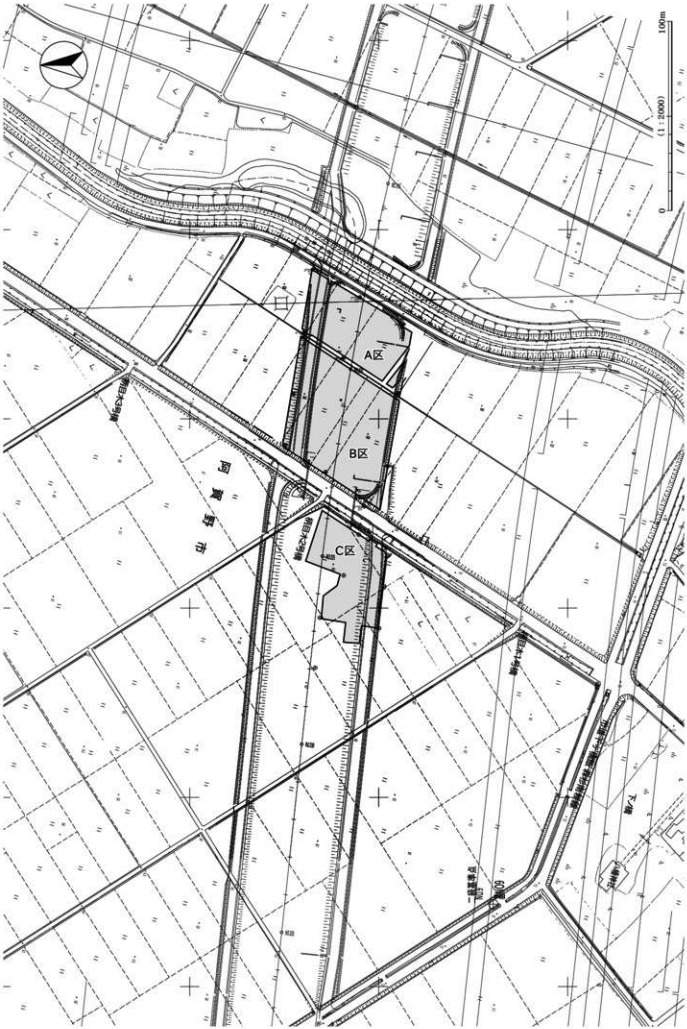
別表 6　金属製品観察表

番号	地区	出土地点	層位	種類	法量（cm・g）	素材	備考
14	B	SK115	3	かんざし状銅製品	長 13.0：幅 0.5：厚 0.5：重 18.0	銅	
15	B	SX2153	1	鎌	長 16.1：幅 1.8：厚 0.2：重 76.0	鉄	
16	B	SK42		銭貨	幅：2.4：厚 1.2		熙寧元寶（北宋，初鋳 1068 年）

別表 7　木製品観察表

番号	地区	出土地点	層位	器種	法量（cm）	木取り	樹種同定資料 No.	樹種	備考
17	B	SE144 井戸枠内		曲物底板	長 7.5　　厚 0.9	柾目			

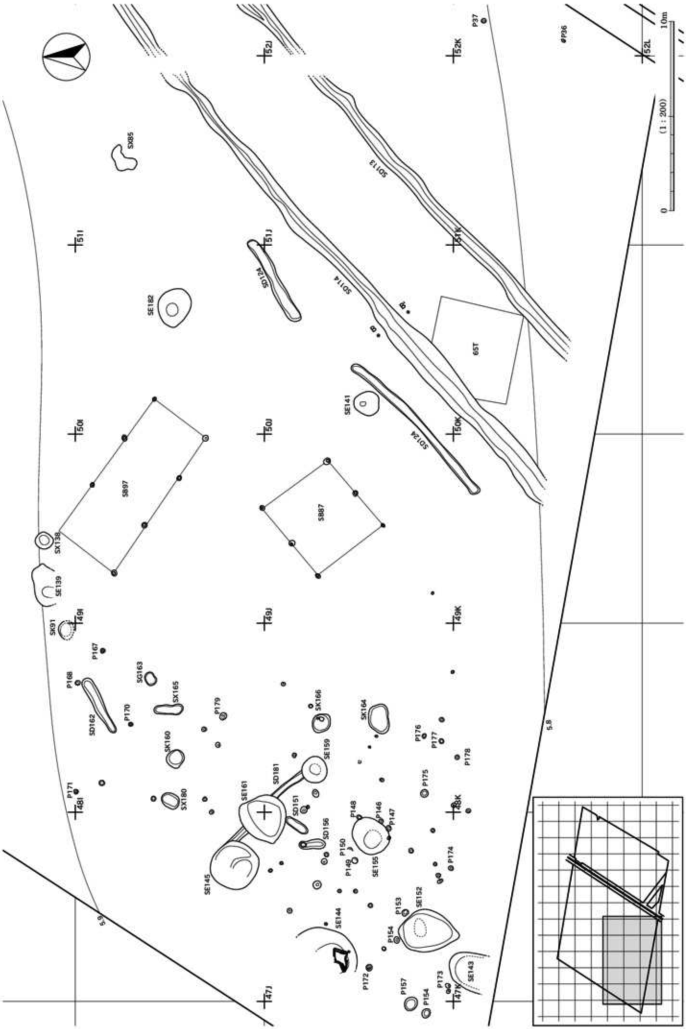
図　　版

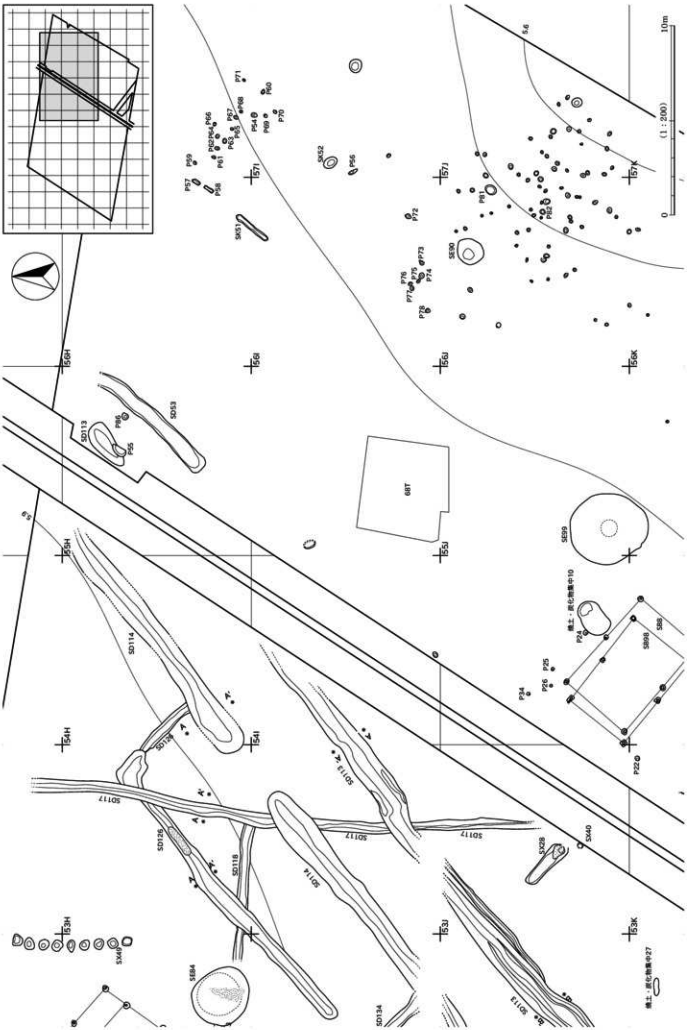

A区
B区
C区
100m
(1:2000)
0

遺構配置図１　中世（A・B区）

F
G
H
I
J
K
L
M
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
A区
B区
0
(1：500)
20m

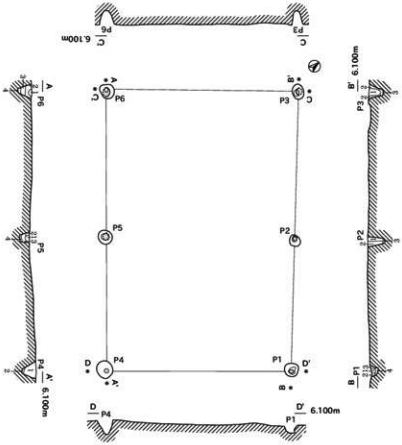
53H
SX49
SE84
53I
53J
10m
0
（1：200）
SD134
P102
SB50
P108
P43
P100
P109
P103
P107
P112
P111
P110
P106
P104
52H
P101
P122
P120
P105
52I
SD123
P136
52J
SE41
SK42
SD123
P92
P95
SX85
SK44
SK45
SK46
SK47
51H
51I
51J
P48
P93
P94
SK115
SX79
SD118
SD119
SK116
50G
50H
63T
50I
50J
SB97
SX138
SE88
SE139
49H
49I
49J
SE89
SK91
P167
SG163
P168
P170
SD162
P171
48J


52J
52K
P37
P36
52L
10m
(1：200)
0
SX85
51I
51J
51K
SD113
SD114
SD124
SE182
65T
SE141
50I
50J
50K
SB97
SB87
SX138
SE139
49I
49J
49K
SK91
P167
P168
SG163
SX165
SD162
P170
P179
SK166
SK164
SK160
P176
P177
P178
SE159
SD181
P171
48I
SX180
SE161
SD151
P175
48K
SD156
P148
P146
P147
P150
P149
SE155
SE145
P174
SE144
P153
SE152
P154
P172
P157
P173
SE143
47J
47K
5.9
5.8


0
10m
(1:200)
5.6
5.3
56H
56I
56J
56K
55H
55J
54H
54I
53H
53J
53K
57I
57J
57K
SD53
SD113
SD114
SD117
SD126
SD118
SD134
SX40
SX28
SX52
SX51
SE99
SE98
SE84
SE90
SB8
68T
P71
P60
P70
P68
P67
P66
P65
P64
P63
P62
P61
P59
P58
P57
P56
P72
P73
P74
P75
P76
P77
P78
P81
P82
P24
P25
P26
P34
P22
P55
P86

(1:200)
10m
0
SB90
SB89
SB13
SB96
SK2
SK3
SK9
SK28
SK40
SX1
SD117
SD125
SD96
SD124
677
68T
SP2
SP3
SP4
SP5
SP6
SP7
SP8
SP9
SP10
SP11
SP12
SP13
SP14
SP15
SP16
SP17
SP18
SP19
SP20
SP21
SP22
SP23
SP24
SP25
SP26
SP29
SP30
SP32
SP35
SP36
SP37
SP38
SP39
SP40
SP41
SP42
SP43
SP44
SP45
SP46
SP47
SP48
SP49
SP50
SP51
SP52
SP53
SP54
SP55
SP56
SP57
SP58
SP59
SP60
SP61
SP62
SP63
SP64
SP65
SP66
SP67
SP68
SP69
SP70
SP71
SP72
SP73
SP74
SP75
SP76
SP77
SP78
SP79
SP80
SP81
SP82
SP83
SP84
SP85
SP86
SP87
SP88
SP89
SP90
SP91
SP92
SP93
SP94
SP95
SP96
SP97
SP98
SP99
SP100
SP101
SP102
SP103
SP104
SP105
SP106
SP107
SP108
SP109
SP110
SP111
SP112
SP113
SP114
SP115
SP116
SP117
SP118
SP119
SP120
SP121
SP122
SP123
SP124
SP125
SP126
SP127
SP128
SP129
SP130
SP131
SP132
SP133
SP134
SP135
SP136
SP137
SP138
SP139
SP140
SP141
SP142
SP143
SP144
SP145
SP146
SP147
SP148
SP149
SP150
SP151
SP152
SP153
SP154
SP155
SP156
SP157
SP158
SP159
SP160
SP161
SP162
SP163
SP164
SP165
SP166
SP167
SP168
SP169
SP170
SP171
SP172
SP173
SP174
SP175
SP176
SP177
SP178
SP179
SP180
SP181
SP182
SP183
SP184
SP185
SP186
SP187
SP188
SP189
SP190
SP191
SP192
SP193
SP194
SP195
SP196
SP197
SP198
SP199
SP200
SP201
SP202
SP203
SP204
SP205
SP206
SP207
SP208
SP209
SP210
SP211
SP212
SP213
SP214
SP215
SP216
SP217
SP218
SP219
SP220
SP221
SP222
SP223
SP224
SP225
SP226
SP227
SP228
SP229
SP230
SP231
SP232
SP233
SP234
SP235
SP236
SP237
SP238
SP239
SP240
SP241
SP242
SP243
SP244
SP245
SP246
SP247
SP248
SP249
SP250
SP251
SP252
SP253
SP254
SP255
SP256
SP257
SP258
SP259
SP260
SP261
SP262
SP263
SP264
SP265
SP266
SP267
SP268
SP269
SP270
SP271
SP272
SP273
SP274
SP275
SP276
SP277
SP278
SP279
SP280
SP281
SP282
SP283
SP284
SP285
SP286
SP287
SP288
SP289
SP290
SP291
SP292
SP293
SP294
SP295
SP296
SP297
SP298
SP299
SP300
SP301
SP302
SP303
SP304
SP305
SP306
SP307
SP308
SP309
SP310
SP311
SP312
SP313
SP314
SP315
SP316
SP317
SP318
SP319
SP320
SP321
SP322
SP323
SP324
SP325
SP326
SP327
SP328
SP329
SP330
SP331
SP332
SP333
SP334
SP335
SP336
SP337
SP338
SP339
SP340
SP341
SP342
SP343
SP344
SP345
SP346
SP347
SP348
SP349
SP350
SP351
SP352
SP353
SP354
SP355
SP356
SP357
SP358
SP359
SP360
SP361
SP362
SP363
SP364
SP365
SP366
SP367
SP368
SP369
SP370
SP371
SP372
SP373
SP374
SP375
SP376
SP377
SP378
SP379
SP380
SP381
SP382
SP383
SP384
SP385
SP386
SP387
SP388
SP389
SP390
SP391
SP392
SP393
SP394
SP395
SP396
SP397
SP398
SP399
SP400
SP401
SP402
SP403
SP404
SP405
SP406
SP407
SP408
SP409
SP410
SP411
SP412
SP413
SP414
SP415
SP416
SP417
SP418
SP419
SP420
SP421
SP422
SP423
SP424
SP425
SP426
SP427
SP428
SP429
SP430
SP431
SP432
SP433
SP434
SP435
SP436
SP437
SP438
SP439
SP440
SP441
SP442
SP443
SP444
SP445
SP446
SP447
SP448
SP449
SP450
SP451
SP452
SP453
SP454
SP455
SP456
SP457
SP458
SP459
SP460
SP461
SP462
SP463
SP464
SP465
SP466
SP467
SP468
SP469
SP470
SP471
SP472
SP473
SP474
SP475
SP476
SP477
SP478
SP479
SP480
SP481
SP482
SP483
SP484
SP485
SP486
SP487
SP488
SP489
SP490
SP491
SP492
SP493
SP494
SP495
SP496
SP497
SP498
SP499
SP500
SP501
SP502
SP503
SP504
SP505
SP506
SP507
SP508
SP509
SP510
SP511
SP512
SP513
SP514
SP515
SP516
SP517
SP518
SP519
SP520
SP521
SP522
SP523
SP524
SP525
SP526
SP527
SP528
SP529
SP530
SP531
SP532
SP533
SP534
SP535
SP536
SP537
SP538
SP539
SP540
SP541
SP542
SP543
SP544
SP545
SP546
SP547
SP548
SP549
SP550
SP551
SP552
SP553
SP554
SP555
SP556
SP557
SP558
SP559
SP560
SP561
SP562
SP563
SP564
SP565
SP566
SP567
SP568
SP569
SP570
SP571
SP572
SP573
SP574
SP575
SP576
SP577
SP578
SP579
SP580
SP581
SP582
SP583
SP584
SP585
SP586
SP587
SP588
SP589
SP590
SP591
SP592
SP593
SP594
SP595
SP596
SP597
SP598
SP599
SP600
SP601
SP602
SP603
SP604
SP605
SP606
SP607
SP608
SP609
SP610
SP611
SP612
SP613
SP614
SP615
SP616
SP617
SP618
SP619
SP620
SP621
SP622
SP623
SP624
SP625
SP626
SP627
SP628
SP629
SP630
SP631
SP632
SP633
SP634
SP635
SP636
SP637
SP638
SP639
SP640
SP641
SP642
SP643
SP644
SP645
SP646
SP647
SP648
SP649
SP650
SP651
SP652
SP653
SP654
SP655
SP656
SP657
SP658
SP659
SP660
SP661
SP662
SP663
SP664
SP665
SP666
SP667
SP668
SP669
SP670
SP671
SP672
SP673
SP674
SP675
SP676
SP677
SP678
SP679
SP680
SP681
SP682
SP683
SP684
SP685
SP686
SP687
SP688
SP689
SP690
SP691
SP692
SP693
SP694
SP695
SP696
SP697
SP698
SP699
SP700
SP701
SP702
SP703
SP704
SP705
SP706
SP707
SP708
SP709
SP710
SP711
SP712
SP713
SP714
SP715
SP716
SP717
SP718
SP719
SP720
SP721
SP722
SP723
SP724
SP725
SP726
SP727
SP728
SP729
SP730
SP731
SP732
SP733
SP734
SP735
SP736
SP737
SP738
SP739
SP740
SP741
SP742
SP743
SP744
SP745
SP746
SP747
SP748
SP749
SP750
SP751
SP752
SP753
SP754
SP755
SP756
SP757
SP758
SP759
SP760
SP761
SP762
SP763
SP764
SP765
SP766
SP767
SP768
SP769
SP770
SP771
SP772
SP773
SP774
SP775
SP776
SP777
SP778
SP779
SP780
SP781
SP782
SP783
SP784
SP785
SP786
SP787
SP788
SP789
SP790
SP791
SP792
SP793
SP794
SP795
SP796
SP797
SP798
SP799
SP800
SP801
SP802
SP803
SP804
SP805
SP806
SP807
SP808
SP809
SP810
SP811
SP812
SP813
SP814
SP815
SP816
SP817
SP818
SP819
SP820
SP821
SP822
SP823
SP824
SP825
SP826
SP827
SP828
SP829
SP830
SP831
SP832
SP833
SP834
SP835
SP836
SP837
SP838
SP839
SP840
SP841
SP842
SP843
SP844
SP845
SP846
SP847
SP848
SP849
SP850
SP851
SP852
SP853
SP854
SP855
SP856
SP857
SP858
SP859
SP860
SP861
SP862
SP863
SP864
SP865
SP866
SP867
SP868
SP869
SP870
SP871
SP872
SP873
SP874
SP875
SP876
SP877
SP878
SP879
SP880
SP881
SP882
SP883
SP884
SP885
SP886
SP887
SP888
SP889
SP890
SP891
SP892
SP893
SP894
SP895
SP896
SP897
SP898
SP899
SP900
SP901
SP902
SP903
SP904
SP905
SP906
SP907
SP908
SP909
SP910
SP911
SP912
SP913
SP914
SP915
SP916
SP917
SP918
SP919
SP920
SP921
SP922
SP923
SP924
SP925
SP926
SP927
SP928
SP929
SP930
SP931
SP932
SP933
SP934
SP935
SP936
SP937
SP938
SP939
SP940
SP941
SP942
SP943
SP944
SP945
SP946
SP947
SP948
SP949
SP950
SP951
SP952
SP953
SP954
SP955
SP956
SP957
SP958
SP959
SP960
SP961
SP962
SP963
SP964
SP965
SP966
SP967
SP968
SP969
SP970
SP971
SP972
SP973
SP974
SP975
SP976
SP977
SP978
SP979
SP980
SP981
SP982
SP983
SP984
SP985
SP986
SP987
SP988
SP989
SP990
SP991
SP992
SP993
SP994
SP995
SP996
SP997
SP998
SP999
SP1000

SB8



SB8 P1　1 オリーブ褐色シルトと黄褐色シルトの混合土　柱痕。
炭化粒多量含む。粘性なし。しまりあり。
2 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性・
しまりややあり。
3 黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・
しまりややあり。
4 灰黄色シルト　粘性ややあり。しまりあり。

SB8 P2　1 オリーブ褐色シルトと黄褐色シルトの混合土　柱痕。
粘性・しまりややあり。
2 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまり
ややあり。
3 オリーブ褐色シルト　灰黄色シルトをブロック状に
多量含む。粘性ややあり。しまりあり。

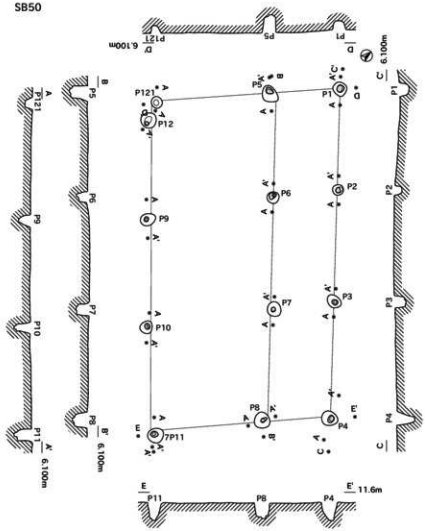
SB8 P3　1 オリーブ褐色シルトと黄褐色シルトの混合土　柱痕。
炭化物・炭化粒多量含む。粘性ややあり。しまりなし。
2 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性ややあり。
しまりあり。
3 オリーブ褐色シルト　灰黄色シルトをブロック状に含む。
粘性ややあり。しまりあり。

SB8 P4　1 オリーブ褐色シルトとにぶい黄色シルトの混合土
炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 暗灰黄色シルト　粘性ややあり。しまりあり。

SB8 P5　1 黒褐色シルトと黄褐色シルトの混合土　柱痕。炭化物・
炭化粒多量含む。粘性ややあり。しまりなし。
2 オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性・
しまりあり。
3 黒褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性ややあり。
しまりなし。
4 灰黄色シルト　粘性ややあり。しまりあり。

SB8 P6　1 オリーブ褐色シルトと黒褐色シルトの混合土
柱痕。炭化粒多量含む。粘性なし。しまりあり。
2 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性ややあり。
しまりあり。
3 オリーブ褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・
しまりややあり。
4 黄褐色シルト　粘性ややあり。しまりあり。

SB50



SB50 P1

1 褐色シルト　柱痕。炭化粒少量含む。粘性あり。
しまりなし。
2 にぶい黄褐色シルト　炭化粒少量含む。焼土粒微量含む。
粘性あり。しまりなし。
3 オリーブ褐色シルト　粘性・しまりあり。
4 灰黄色シルト　粘性・しまりあり。

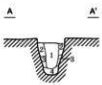
SB50 P2

1 褐色シルト　柱痕。炭化粒微量含む。粘性あり。しまりなし。
2 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。
3 灰黄色粘土　炭化粒微量含む。粘性あり。しまりなし。

SB50 P3

1 褐色シルト　柱痕。焼土粒・炭化粒微量含む。粘性あり。
しまりなし。
2 暗褐色シルト　炭化粒少量含む。焼土粒微量含む。粘性・
しまりあり。
3 褐色シルト　粘性・しまりあり。

SB50 P4



1　褐色シルト　柱痕。焼土粒・炭化粒微量含む。
　粘性あり、しまりなし。
2　褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまりあり。
3　オリーブ褐色シルト　粘性あり、しまりなし。
4　灰黄色粘土　粘性・しまりあり。

SB50 P5

1　褐色シルト　柱痕。粘性あり、しまりなし。
2　黄褐色シルト　粘性あり、しまりなし。
3　褐色シルト　粘性・しまりあり。

SB50 P6

1　褐色シルト
　柱痕。炭化粒少量含む。粘性あり、しまりなし。
2　にぶい黄褐色シルト
　白色粘土ブロック少量含む。粘性・しまりあり。
3　オリーブ褐色シルト　粘性・しまりあり。

SB50 P7

1　褐色シルト　柱痕。粘性あり、しまりなし。
2　褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。
3　にぶい黄褐色シルト　粘性あり、しまりなし。

SB50 P8

1　褐色シルト　柱痕。粘性あり、しまりなし。
2　オリーブ褐色シルト
　炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。

SB50 P9

1　褐色シルト　柱痕。粘性あり、しまりなし。
2　にぶい黄褐色シルト
　炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。

SB50 P10

1　褐色シルト　柱痕。粘性あり、しまりなし。
2　褐色シルト　灰白色粘土ブロック少量含む。
　粘性・しまりあり。
3　オリーブ褐色シルト　粘性あり、しまりなし。

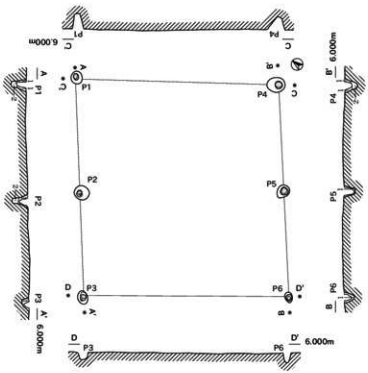
SB50 P11

1　褐色シルト　柱痕。粘性あり、しまりなし。
2　オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。
　粘性あり、しまりなし。
3　オリーブ褐色シルト　粘性あり、しまりなし。

SB50 P12

1　褐色シルト　柱痕。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性・しまりあり。

SB87



SB87 P1　1　にぶい黄橙色シルト
　粘性・しまりなし。
　2　灰黄褐色シルト　粘性なし、しまりあり。

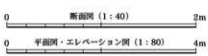
SB87 P2　1　灰黄褐色シルト　1～2mm程度の炭化粒
　少量含む。粘性・しまりなし。
　2　灰黄褐色シルト　粘性なし、しまりあり。

SB87 P3　1　にぶい黄橙色シルト　粘性・しまりなし。

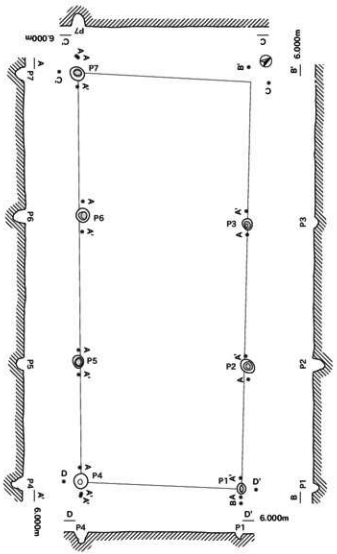
SB87 P4　1　にぶい黄橙色シルト　粘性・しまりなし。
　2　灰黄褐色シルト　1～2mm程度の炭化粒
　微量含む。粘性・しまりあり。

SB87 P5　1　にぶい黄橙色シルト　粘性・しまりなし。

SB87 P6　1　にぶい黄橙色シルト　粘性・しまりなし。



SB97



SB97 P1

1 褐灰色シルト
粘性・しまりなし。
2 にぶい黄橙色シルト
粘性・しまりあり。
3 にぶい黄橙色シルト
粘性ややあり、しまりなし。

SB97 P2

1 褐灰色シルト
粘性・しまりなし。
2 にぶい黄橙色シルト
粘性ややあり、しまりなし。
3 にぶい黄橙色シルト
粘性・しまりあり。

SB97 P3

1 褐灰色シルト
粘性・しまりなし。
2 にぶい黄橙色シルト
粘性・しまりなし。

SB97 P4

SB97 P5

1 褐灰色シルト
粘性・しまりなし。
2 にぶい黄橙色シルト
粘性・しまりなし。

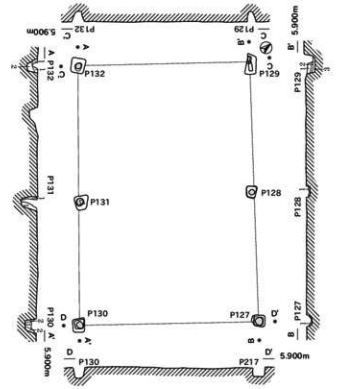
SB97 P6

1 褐灰色シルト　粘性・しまりなし。
2 にぶい黄橙色シルト　粘性・しまりなし。
3 灰白色シルト　粘性なし、しまりあり。

SB97 P7

1 灰黄褐色シルト　粘性・しまりなし。
2 にぶい黄橙色シルト　灰黄褐色シルト多量含む。粘性・しまりなし。
3 にぶい黄橙色シルト　粘性・しまりなし。

SB98



SB98 P127
1 オリーブ褐色シルト　黄褐色シルト多量含む。粘性なし、しまりあり。

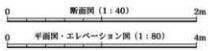
SB98 P128
1 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性あり、しまりなし。

SB98 P129
1 オリーブ褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
2 黄褐色シルト　粘性・しまりあり。
3 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりあり。

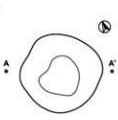
SB98 P130
1 明黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
2 黄褐色シルト　炭化物・炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。

SB98 P131
1オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。

SB98 P132
1 黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。

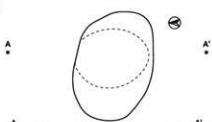


SE13



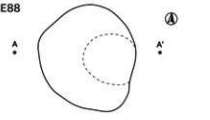
1　オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
2　暗オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒少量含む。粘性・しまりあり。
3　オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
4　暗灰黄色シルト　炭化粒・黄褐色シルトブロック多量含む。焼土粒極微量含む。粘性・しまりやや弱い。
5　暗オリーブ褐色シルト　炭化粒・黄褐色シルトブロック多量含む。焼土粒少量含む。粘性・しまりやや弱い。
6　オリーブ褐色シルトと黄褐色シルトの混合土　炭化粒極微量含む。粘性・しまりやや弱い。
7　オリーブ褐色シルト　黄褐色シルト粒多量含む。炭化粒極微量含む。粘性・しまりやや弱い。

SE41



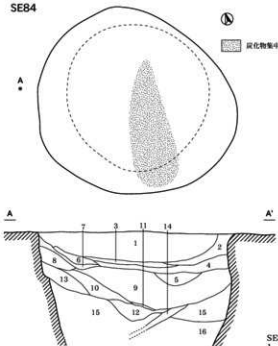
1　暗オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒少量含む。焼け礫・焼土粒微量含む。粘性あり、しまりなし。
2　オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性あり、しまりなし。
3　黄褐色シルト　粘性あり、しまりなし。
4　黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒極微量含む。粘性あり、しまりなし。
5　オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性あり、しまりなし。
6　黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。焼け礫極微量含む。粘性あり、しまりなし。
7　オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒多量含む。焼け礫微量含む。粘性あり、しまりなし。
8　黄褐色シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。炭化粒極微量含む。粘性あり、しまりなし。

SE88



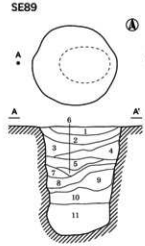
1　にぶい黄褐色シルト　灰白色シルト中量含む。しまりなし。
2　にぶい黄褐色シルト　炭化物多量含む。しまりなし。
3　にぶい黄褐色シルト　しまりなし。
4　にぶい黄褐色シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。しまりなし。
5　にぶい黄褐色シルト　黄褐色シルト中量含む。しまりなし。
6　にぶい黄褐色シルト　1cm程の炭化物微量含む。しまりなし。
7　にぶい黄褐色シルト　灰白色シルト含む。しまりなし。
8　にぶい黄褐色シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。しまりなし。
9　にぶい黄橙色シルト　灰白色シルト・5mm程の炭化物少量含む。しまりなし。
10　にぶい黄褐色シルト　灰白色シルト少量含む。しまりなし。
11　にぶい黄褐色シルト　灰白色シルト中量含む。
12　灰黄褐色シルト　灰白色シルト中量含む。
13　にぶい黄橙色シルト　灰白色シルトブロック多量含む。
14　灰黄褐色シルト　黄褐色シルトブロック中量含む。1～5mm程の炭化物少量含む。
15　にぶい黄橙色シルト　白色シルト多量含む。
16　灰黄褐色粘土　黄褐色シルトブロック少量含む。
17　褐灰色シルト　黄褐色シルトブロック含む。
18　褐灰色シルト

SE84



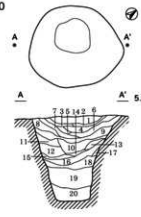
1　灰黄褐色シルト　炭化物少量含む。粘性なし。しまりあり。
2　褐灰色シルト　炭化物少量含む。粘性なし。しまりあり。
3　灰白色シルト　粘性なし。しまりあり。
4　褐灰色シルト　炭化物少量含む。粘性なし。しまりあり。
5　褐灰色粘土　白色粘土含む。粘性なし。しまりあり。
6　明黄褐色シルト　炭化物少量含む。粘性なし。しまりあり。
7　灰黄褐色シルト　明黄褐色シルトブロック多量含む。粘性なし。
8　褐灰色シルト　明黄褐色シルトブロック微量含む。粘性なし。
9　明黄褐色粘土　白色粘土含む。粘性なし。しまりあり。
10　黄灰色シルト　白色粘土含む。粘性・しまりあり。
11　灰黄色シルト　炭化物微量含む。粘性なし。しまりあり。
12　灰黄色シルト　炭化物・白色粘土含む。粘性・しまりあり。
13　灰黄色シルト　粘性・しまりあり。
14　黄灰色シルト　粘性・しまりあり。
15　灰黄色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
16　黄灰色シルト　粘性・しまりあり。

SE89



1　にぶい黄褐色シルト　灰白色シルト中量含む。しまりなし。
2　にぶい黄褐色シルト　1mm程の炭化粒少量含む。しまりなし。
3　にぶい黄褐色シルト　灰白色シルト・黄褐色シルトブロック状に少量含む。
4　にぶい黄褐色シルト　黄褐色シルト中量含む。
5　にぶい黄褐色シルト　灰白色シルト中量含む。1mm程の炭化物微量含む。
6　にぶい黄橙色シルト　灰白色シルト多量含む。
7　灰黄褐色シルト　灰白色シルト少量含む。
8　灰黄褐色シルト　灰白色シルトブロック多量含む。
9　灰黄褐色シルト　白色シルトブロック多量含む。2～3mm程の炭化物少量含む。
10　灰黄褐色シルト　灰白色シルトブロック多量含む。
11　灰黄褐色シルト　灰白色シルトブロック少量含む。10層より暗い色調。

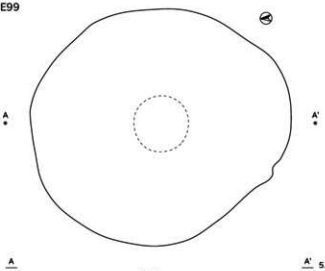
SE90

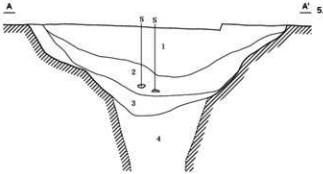


1　灰黄褐色シルト　5mm程の炭化粒少量含む。粘性・しまりなし。
2　灰黄褐色シルト　2mm程の炭化粒少量含む。粘性・しまりなし。
3　灰黄褐色シルト　黄橙色シルト中量含む。粘性・しまりなし。
4　灰黄褐色シルト　黄橙色シルト少量含む。粘性・しまりなし。
5　褐灰色シルト　粘性・しまりなし。
6　灰黄褐色シルト　粘性・しまりなし。
7　灰黄褐色シルト　黄褐色シルト少量含む。粘性・しまりなし。
8　にぶい黄橙色シルト　褐灰色シルト少量含む。粘性・しまりなし。
9　にぶい黄褐色シルト　粘性・しまりなし。
10　灰黄褐色シルト　粘性・しまりなし。
11　灰黄褐色シルト　粘性やや弱い。しまりなし。
12　にぶい黄褐色シルト　粘性やや弱い。しまりなし。
13　灰黄褐色シルト　粘性やや弱い。しまりなし。
14　にぶい黄褐色シルト　粘性やや弱い。しまりなし。
15　灰黄褐色シルト　粘性あり。しまりなし。
16　灰黄褐色シルト　粘性あり。しまりなし。
17　にぶい黄褐色シルト　粘性あり。しまりなし。
18　灰黄褐色シルト　粘性あり。しまりなし。
19　にぶい黄褐色シルト　粘性あり。しまりなし。
20　にぶい黄橙色シルト　粘性あり。しまりなし。

0　(1：60)　3m

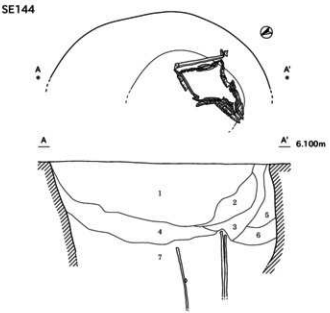
SE99





SE99
1 黄褐色粘土　炭化物多量含む。焼土粒微量含む。しまりあり。
2 灰黄褐色粘土　炭化物・礫多量含む。しまりなし。
3 黄褐色粘土　下部にワラ灰層が堆積する。しまりなし。
4 青灰粘土　しまりあり。

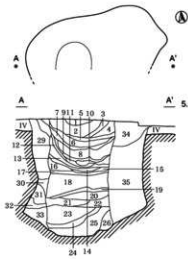
SE144



SE143
1 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
3 暗灰黄色シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
4 黒色シルト　炭化物多量含む。粘性あり、しまりややあり。
5 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性あり、しまりややあり。

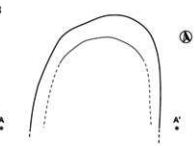
SE144
1 オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
2 黄褐色シルトと灰白色シルトの混合土　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
3 黄灰色シルトと灰白色シルトの混合土　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
4 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
5 黄褐色シルト　灰白色シルト微量含む。粘性・しまりややあり。
6 黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
7 灰白色シルト　粘性ややあり、しまりなし。

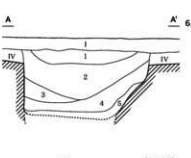
SE139



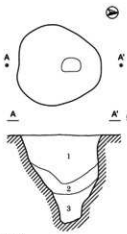
SE139
1 灰白色シルト　2mm程の炭化粒微量含む。粘性なし、しまりあり。
2 にぶい黄橙色シルト　2mm程の炭化粒微量含む。粘性・しまりなし。
3 にぶい黄橙色シルト　黄白色シルトブロック少量含む。粘性ややあり、しまりなし。
4 にぶい黄橙色シルト　粘性・しまりなし。
5 灰黄褐色シルト　2mm程の炭化粒微量含む。粘性・しまりなし。
6 灰黄褐色シルト　白色シルトブロック多量含む。粘性ややあり、しまりなし。
7 褐灰色シルト　2mm程の炭化粒中量含む。粘性あり、しまりなし。
8 灰白色シルト　粘性あり、しまりなし。
9 褐灰色シルト　5mm程の炭化粒多量含む。粘性あり、しまりなし。
10 浅黄橙色シルト　粘性あり、しまりなし。
11 にぶい黄橙色シルト　5mm程の炭化粒中量含む。焼土粒少量含む。粘性あり、しまりなし。
12 灰白色シルト　粘性・しまりなし。
13 にぶい黄橙色シルト　2mm程の炭化粒中量含む。粘性あり、しまりなし。
14 灰白色シルト　5mm程の炭化粒多量・焼土粒少量含む。粘性あり、しまりなし。
15 灰白色シルト　5mm程の炭化粒中量・焼土粒少量含む。粘性あり、しまりなし。
16 灰白色シルト　粘性ややあり、しまりなし。
17 灰白色シルト　2mm程の炭化粒少量含む。粘性あり、しまりなし。
18 褐灰色シルト　黄白色シルトブロック多量含む。粘性ややあり、しまりなし。
19 褐灰色シルト　黄白色シルトブロック中量含む。粘性あり、しまりなし。
20 褐灰色シルト　黄白色シルトブロック中量・2mm程の炭化粒少量含む。粘性・しまりなし。
21 褐灰色シルト　粘性・しまりなし。
22 にぶい黄橙色シルト　黄白色シルトブロック多量含む。粘性ややあり、しまりなし。
23 にぶい黄橙色シルト　茶褐色シルトブロック多量含む。粘性あり、しまりなし。
24 灰黄褐色シルト　白色シルトブロック少量含む。粘性あり、しまりなし。
25 にぶい黄橙色シルト　茶褐色シルトブロック少量含む。粘性あり、しまりなし。
26 にぶい黄橙色シルト　粘性あり、しまりなし。
27 にぶい黄橙色シルト　粘性なし、しまりあり。
28 にぶい黄橙色シルト　粘性・しまりなし。
29 灰白色シルト　2mm程の炭化粒微量含む。粘性・しまりなし。
30 にぶい黄橙色シルト　白色シルト多量含む。粘性あり、しまりなし。
31 にぶい黄橙色シルト　粘性あり、しまりなし。
32 灰白色シルト　黄色シルト少量含む。粘性あり、しまりなし。
33 灰白色シルト　粘性あり、しまりなし。
34 灰白色シルト　粘性・しまりややあり。
35 灰白色シルト　黄色シルトブロック多量含む。粘性あり、しまりなし。

SE143



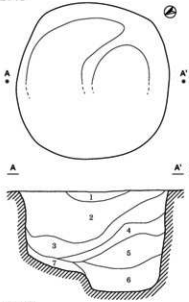


SE141



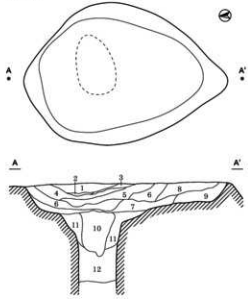
SE141
1 灰黄色シルト　炭化粒極微量含む。
　粘性・しまりややあり。
2 暗灰黄色シルト 粘性なし。しまりあり。
3 黄灰色シルト　粘性なし。しまりあり。

SE145



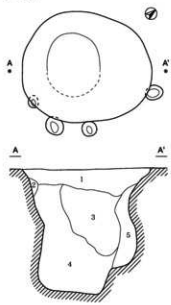
SE145
1 黒色シルト　焼土粒・炭化物・炭化粒多量含む。
　粘性・しまりやあり。
2 暗灰黄色シルト 炭化物・炭化粒多量含む。焼土粒微量含む。
　粘性・しまりややあり。
3 黄灰色シルトと黄褐色シルトの混合土　焼土粒・炭化粒多量含む。
　粘性・しまりややあり。
4 淡黄色シルト　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
5 淡黄色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
6 灰黄色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
7 オリーブ褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。

SE152



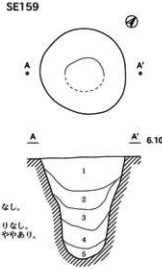
SE152
1 褐灰色シルト　灰白色シルト・炭化物微量含む。
　粘性・しまりあり。
2 褐灰色シルト　灰白色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
3 炭化物層　褐灰色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
4 褐灰色シルト　炭化物・灰白色シルト少量含む。
　粘性・しまりあり。
5 灰白色シルト　褐灰色シルト中量含む。炭化物少量含む。
　粘性・しまりあり。
6 褐灰色シルト　炭化物・灰白色シルト少量含む。
　粘性・しまりあり。
7 灰白色シルト　粘性・しまりあり。
8 灰褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
9 灰褐色シルト　粘性・しまりあり。
10 黄褐色シルト　灰白色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
11 黄褐色シルト　灰白色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
12 黄褐色シルト　灰白色シルトをブロック状に含む。
　粘性・しまりあり。

SE155



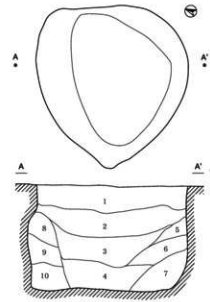
SE155
1 灰白色シルト　炭化物・褐色シルト少量含む。粘性・しまりあり。
2 褐色シルト　灰白色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
3 褐色シルト　灰白色シルト少量含む。粘性・しまりあり。
4 灰白色シルト　褐色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
5 黄褐色シルト　灰白色シルト微量含む。粘性・しまりあり。

SE159



SE159
1 暗オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。
　粘性あり、しまりなし。
2 暗オリーブ褐色シルトと黄褐色シルトの混合土
　炭化粒多量含む。粘性あり、しまりなし。
3 暗オリーブ褐色シルトと灰白色シルトの混合土
　炭化粒極微量含む。粘性あり、しまりなし。
4 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性あり、しまりやあり。
5 灰白色シルト　粘性あり、しまりなし。

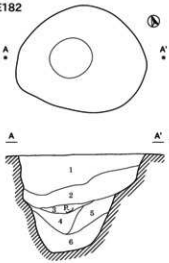
SE161



SE161
1 黄褐色シルト　粘性・しまりあり
2 灰白色シルトと灰褐色シルトブロック状に混入。　炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
3 2層に黄褐色シルトブ　ロック状に混入。炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
4 灰白色シルト　粘性・しまりあり
5 黄褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
6 黄褐色シルト　炭化物・灰白色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
7 黄褐色シルト　粘性・しまりあり
8 黄褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
9 黄褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
10 黄褐色シルト　灰白色シルト微量含む。粘性・しまりあり。

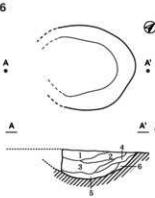
0　(1：60)　3m

SE182



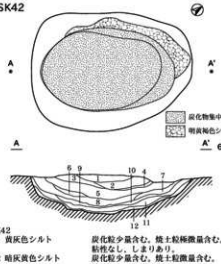
SE182
1 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 黄褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
3 灰白色シルトとオリーブ褐色シルトの混合土　粘性・しまりややあり。
4 灰白色シルト　粘性あり、しまりややあり。
5 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
6 灰白色シルトとオリーブ褐色シルトの混合土　粘性あり、しまりややあり。

SK6



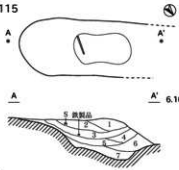
SK6
1 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性なし、しまりあり。
2 暗オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒多量含む。焼土粒・焼土ブロック少量含む。粘性・しまりなし。
3 オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒多量含む。焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。
4 オリーブ褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
5 暗オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
6 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。

SK42



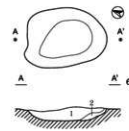
SK42
1 黄灰色シルト　炭化粒少量含む。焼土粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。
2 暗灰黄色シルト　炭化粒少量含む。焼土粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。
3 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。焼土粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。
4 オリーブ褐色シルト　炭化物多量含む。焼土粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。
5 黒色シルト　炭化物多量含む。焼土粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
6 黒褐色シルト　炭化物・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
7 明黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。
8 黄灰色シルト　炭化粒・オリーブ褐色シルト多量含む。焼土粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
9 黒色シルト　炭化物多量含む。焼土粒極微量含む。粘性・しまりなし。
10 オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性なし、しまりあり。
11 黄褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性なし、しまりあり。
12 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。

SK115



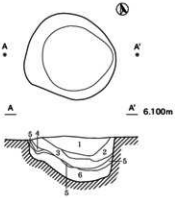
SK115
1 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。焼土粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。
2 暗オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化物・炭化粒多量含む。粘性なし、しまりあり。
3 黒褐色シルト　焼土粒・炭化物・炭化粒多量含む。粘性なし、しまりあり。
4 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性なし、しまりあり。
5 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性なし、しまりあり。
6 オリーブ褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。
7 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。

SK44



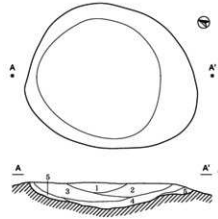
SK44
1 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。焼土粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。
2 黄褐色シルト　粘性・しまりあり。

SK160



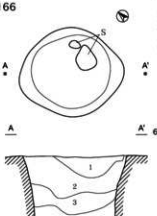
SK160
1 褐灰色シルト　焼土・炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
2 褐色シルト　炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
3 黒褐色シルト　焼土・炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
4 黒褐色シルト　焼土・炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
5 2層に類似
6 黒褐色灰層と黄褐色シルトがブロック状に含む。粘性・しまりあり。

SK116



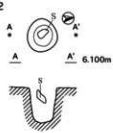
SK116
1 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。焼土粒微量含む。粘性なし、しまりあり。
2 オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒少量含む。焼土粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。
3 オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒多量含む。焼土粒微量含む。粘性なし、しまりあり。
4 オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒少量含む。焼土粒微量含む。粘性なし、しまりあり。
5 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。

SK166



SK166
1 褐色シルト　焼土・炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2 黄褐色シルト　褐色シルト少量含む。粘性・しまりあり。
3 暗褐色シルト　炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
4 黄褐色シルトに暗褐色シルト少量含む。粘性・しまりあり。

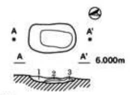
SK172



0　SE182（1：60）　3m

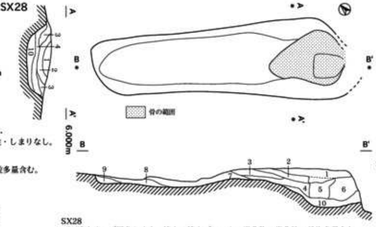
0　その他（1：40）　2m

SX1



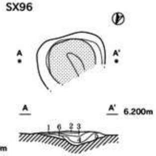
SX1
1 褐色シルト 1cm程の焼土粒・5mm程度の炭化粒・骨片多量含む。粘性・しまりなし。
2 炭化物層
3 にぶい黄褐色シルト 5～20mm程度の炭化物・炭化粒多量含む。粘性・しまりなし。

SX28



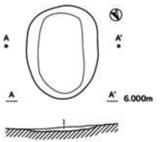
SX28
1 暗オリーブ褐色シルト 焼土・焼土ブロック・炭化物・炭化粒・骨片多量含む。性なし、しまりあり。
2 オリーブ褐色シルト 焼土粒・炭化粒・骨片微量含む。粘性あり、しまりなし。
3 オリーブ褐色シルト 炭化粒微量含む。粘性なし、しまりあり。
4 オリーブ褐色シルト 焼土ブロック・炭化粒極微量含む。粘性なし、しまりあり。
5 オリーブ褐色シルト 焼土粒・炭化粒・骨片多量含む。粘性なし、しまりあり。
6 オリーブ褐色シルト 焼土ブロック・炭化物・炭化粒・骨片多量含む。粘性なし、しまりあり。
7 オリーブ褐色シルト 炭化粒極微量含む。粘性あり、しまりなし。
8 オリーブ褐色シルト 炭化粒微量含む。粘性なし、しまりあり。
9 黄褐色シルト 炭化粒極微量含む。粘性・しまりあり。
10 オリーブ褐色シルト 炭化粒・骨片微量含む。粘性あり、しまりなし。

SX96



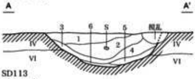
SX96
1 暗灰黄色シルト 粘性・しまりあり。
2 オリーブ褐色シルト 焼土ブロック少量含む。炭化粒微量含む。粘性あり、しまりなし。
3 オリーブ褐色シルト 骨片・焼土粒・炭化物・炭化粒少量含む。粘性あり、しまりなし。
4 黒色シルト 炭化物・骨片多量含む。焼土ブロック少量含む。粘性あり、しまりなし。
5 オリーブ褐色シルト 焼土粒・炭化粒・骨片微量含む。粘性あり、しまりなし。
6 オリーブ褐色シルト 炭化粒極微量含む。粘性あり、しまりなし。

SX180



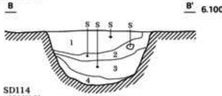
SX180
1 オリーブ褐色シルト 炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。

SD113
(54I11)



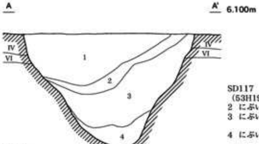
SD113
(54I11)
1 オリーブ褐色シルト 白色粘土粒多量含む。細かい礫を多量含む。粘性あり、しまりなし。
2 黄褐色シルト 白色粘土ブロック多量含む。大小の礫を多量含む。粘性あり、しまりなし。
3 黄褐色シルト 白色粘土粒少量含む。粘性・しまりあり。
4 オリーブ褐色シルト 白色粘土粒少量含む。炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。
5 褐色シルト 粘性あり、しまりなし。
6 褐色シルト 粘性あり、しまりなし。

SD114
(50K18)



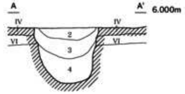
SD114
(50K18)
1 にぶい黄橙色シルト 2cm程の小礫・1mm程の炭化粒少量含む。粘性・しまりなし。
2 にぶい黄橙色シルト 拳大の礫・小砂利・2～3mm程の炭化粒少量含む。粘性・しまりなし。
3 にぶい黄橙色シルト 拳大の礫・2～3mm程の炭化粒少量含む。粘性・しまりなし。
4 にぶい黄橙色シルト 黄褐色シルトブロック中量含む。粘性・しまりなし。

SD114
(54H16)



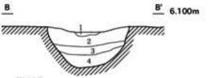
SD114
(54H16)
1 オリーブ褐色シルト 炭化物・炭化粒少量含む。2～8mm程度の礫少量含む。焼土粒少量含む。粘性・しまりややあり。
2 灰黄褐色シルト 焼土粒・炭化粒微量含む。粘性あり、しまりなし。
3 灰黄褐色シルト 炭化粒微量含む。粘性あり、しまりなし。
4 黄褐色シルトと褐灰色シルトの混合土 炭化粒極微量含む。粘性あり、しまりなし。

SD117
(53H19)



SD117
(53H19)
2 にぶい黄褐色シルト 炭化粒微量含む。粘性あり、しまりなし。
3 にぶい黄褐色シルト 暗灰黄色シルト多量含む。炭化粒極微量含む。粘性あり、しまりなし。
4 にぶい黄褐色シルト 炭化粒極微量含む。粘性あり、しまりなし。

SD117
(53L8)



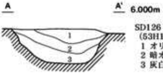
SD117
(53L8)
1 にぶい黄褐色シルト 灰白色シルト多量含む。粘性あり、しまりややあり。
2 にぶい黄褐色シルト 灰白色シルト少量含む。粘性あり、しまりややあり。
3 にぶい黄褐色シルト 灰白色シルト多量含む。粘性あり、しまりなし。
4 にぶい黄褐色シルト 灰白色シルト多量含む。粘性あり、しまりなし。

SD119 SD118
(51H)

SD118
(51H16・21)
1 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまりなし。
2 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまりなし。

SD119
(51H)
1 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまりなし。
2 にぶい黄褐色シルト 1mm程の炭化粒微量含む。粘性・しまりなし。
3 にぶい黄褐色シルト 炭化物多量含む。粘性・しまりなし。

SD126
(53H17)



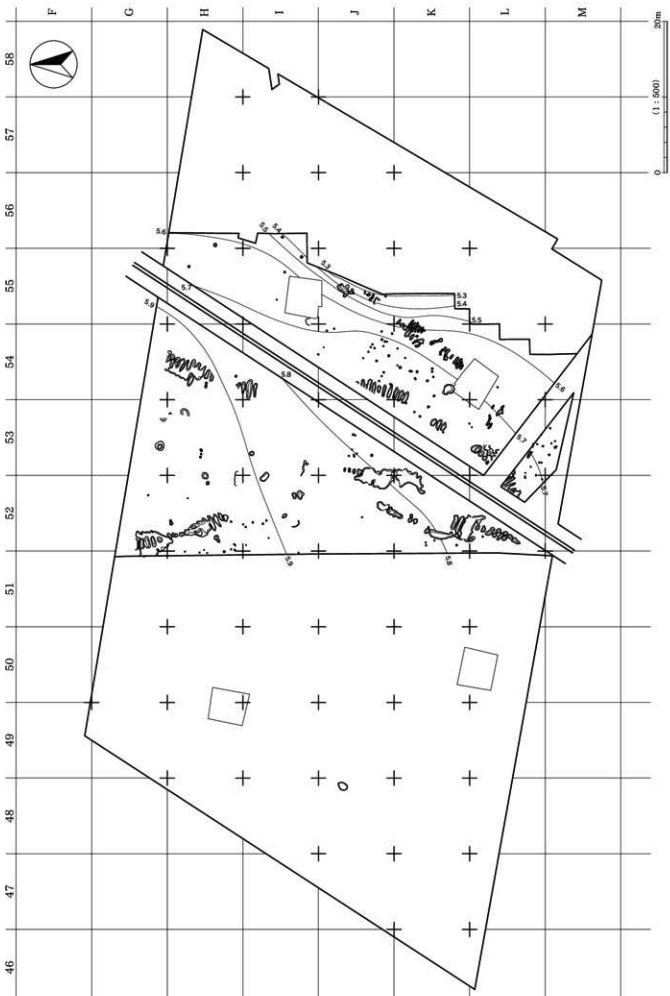
SD126
(53H17)
1 オリーブ褐色シルト 炭化粒微量含む。粘性なし、しまりあり。
2 暗オリーブ褐色シルト 炭化粒微量含む。粘性なし、しまりあり。
3 灰白色シルト 粘性あり、しまりややあり。

SD134
(52I18)

SD134
(52I18)
1 黄褐色シルト 炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。

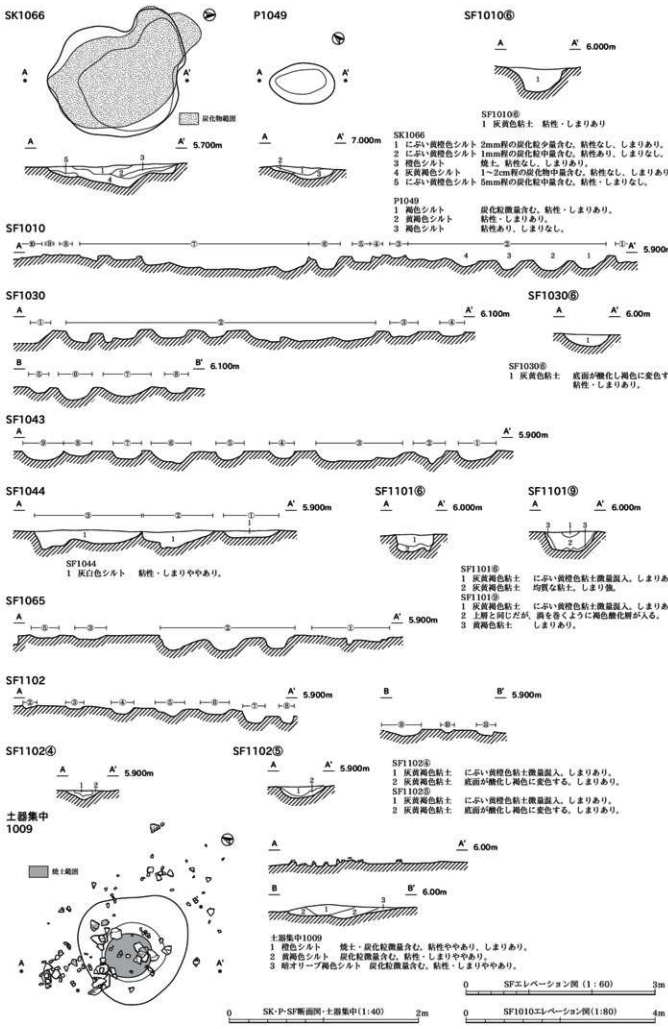
0　(1：40)　2m

遺構配置図３　古代上層（A・B区）



56H
56I
56J
55H
55I
55J
54H
54I
54J
53H
53I
53J
52H
52I
52J
51H
51I
51J
P1109
P1110
P1108
P1107
P1106
6BT
SC1069
(1 : 200)
0
10m
P1006
P1007
P1008
SF1030
P1034
P1033
P1032
SK1040
P1005
SK1003
土器集中
1009
P1051
P1052
P1025
P1037
P1023
P1020
P1024
SC1002
SK1036
SX1041
P1028
P1029
P1017
P1019
P1022
P1021
SF1010
P1011
SX1063
P1042
P1031
P1027
P1026
P1038
P1039
P1049
SK1048
P1016
P1054
P1060
P1055
P1056
P1059
P1070
P1014
P1013
P1058
P1015

遺構分割図 6　古代上層（A・B 区）


SK1066
炭化物範囲
A
A'
5.700m
7.000m
P1049
SF1010⑥
6.000m
SF1010⑥
1 灰黄色粘土　粘性・しまりあり
SK1066
1 にぶい黄橙色シルト 2mm程の炭化粒少量含む。粘性なし、しまりあり。
2 にぶい黄橙色シルト 1mm程の炭化粒中量含む。粘性あり、しまりなし。
3 橙色シルト 焼土。粘性なし、しまりあり。
4 灰黄褐色シルト 1~2cm程の炭化物中量含む。粘性なし、しまりあり。
5 にぶい黄橙色シルト 5mm程の炭化粒中量含む。粘性・しまりなし。
P1049
1 褐色シルト 炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。
2 黄褐色シルト 粘性・しまりあり。
3 褐色シルト 粘性あり、しまりなし。
SF1010
5.900m
SF1030
6.100m
B
B'
6.100m
SF1030⑤
6.00m
SF1030⑤
1 灰黄色粘土　底面が橙化し褐色に変色する。粘性・しまりあり。
SF1043
5.900m
SF1044
5.900m
SF1044
1 灰白色シルト　粘性・しまりややあり。
SF1101⑥
6.000m
SF1101⑨
6.000m
SF1101⑥
1 灰黄褐色粘土　にぶい黄橙色粘土微量混入。しまりあり。
2 灰黄褐色粘土　均質な粘土。しまり強。
SF1101⑨
1 灰黄褐色粘土　にぶい黄橙色粘土微量混入。しまりあり。
2 上層と同じだが、鉄を帯びるように褐色酸化層が入る。
3 黄褐色粘土　しまりあり。
SF1065
5.900m
SF1102
5.900m
B
B'
5.900m
SF1102④
5.900m
SF1102⑤
5.900m
SF1102④
1 灰黄褐色粘土　にぶい黄橙色粘土微量混入。しまりあり。
2 灰黄褐色粘土　底面が橙化し褐色に変色する。しまりあり。
SF1102⑤
1 灰黄褐色粘土　にぶい黄橙色粘土微量混入。しまりあり。
2 灰黄褐色粘土　底面が橙化し褐色に変色する。しまりあり。
土器集中
1009
焼土範囲
6.00m
6.00m
土器集中1009
1 橙色シルト　焼土・炭化粒微量含む。粘性ややあり。しまりあり。
2 黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
3 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
0　SF エレベーション図（1：60）　3m
0　SK・P・SF断面図・土器集中(1:40)　2m
0　SF1010エレベーション図(1:80)　4m

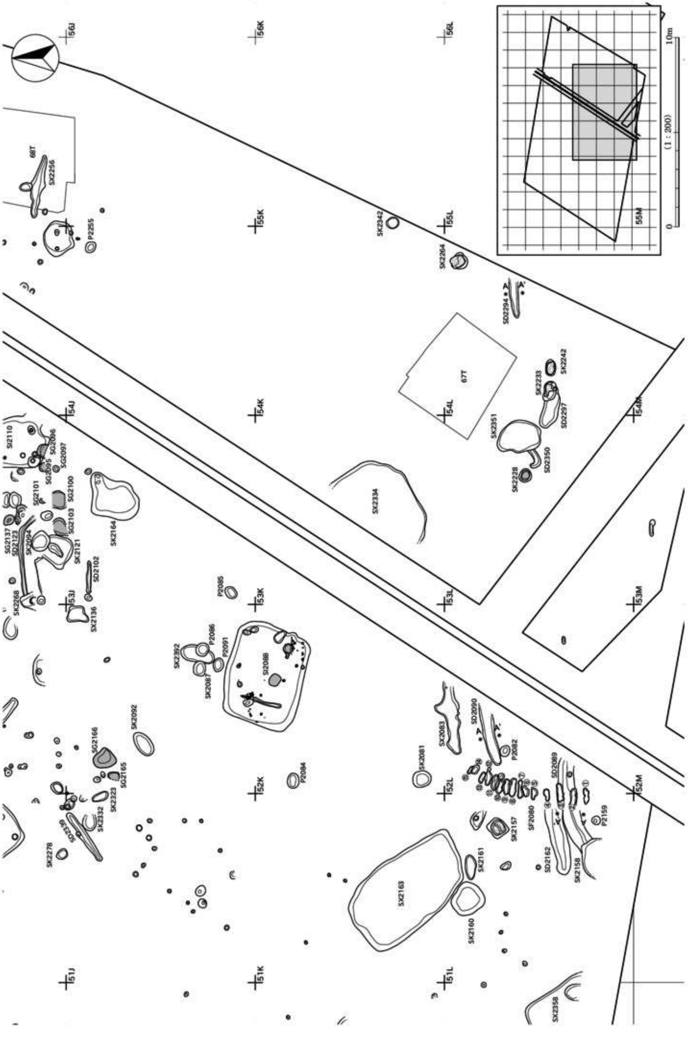
遺構配置図４　古代下層（A・B区）

10m
(1 : 200)
0
SX2336
SX2337
SX2338
SX2339
SX2340
SX2341
SX2342
SX2343
SX2344
SX2345
SX2346
SX2347
SX2348
SX2349
SX2350
SX2351
SX2352
SX2353
SX2354
SX2355
SX2356
SX2357
SX2358
SX2359
SX2360
SX2361
SX2362
SX2363
SX2364
SX2365
SX2366
SD2151
SD2152
SD2154
SD2325
SD2335
SK2190
SK2217
SK2231
SK2278
SK2279
SK2280
SK2281
SK2282
SK2283
SK2284
SK2285
SK2286
SK2287
SK2288
SK2289
SK2290
SK2291
SK2292
SK2293
SK2294
SK2295
SK2296
SK2297
SK2298
SK2299
SK2300
SK2301
SK2302
SK2303
SK2304
SK2305
SK2306
SK2307
SK2308
SK2309
SK2310
SK2311
SK2312
SK2313
SK2314
SK2315
SK2316
SK2317
SK2318
SK2319
SK2320
SK2321
SK2322
SK2323
SK2324
SK2325
SK2326
SK2327
SK2328
SK2329
SK2330
SK2331
SK2332
SK2333
SK2334
SK2335
SK2336
SK2337
SK2338
SK2339
SK2340
SK2341
SK2342
SK2343
SK2344
SK2345
SK2346
SK2347
SK2348
SK2349
SK2350
SK2351
SK2352
SK2353
SK2354
SK2355
SK2356
SK2357
SK2358
SK2359
SK2360
SK2361
SK2362
SK2363
SK2364
SK2365
SK2366
SD2151
SD2152
SD2154
SD2325
SD2335
SK2190
SK2217
SK2231
SK2278
SK2279
SK2280
SK2281
SK2282
SK2283
SK2284
SK2285
SK2286
SK2287
SK2288
SK2289
SK2290
SK2291
SK2292
SK2293
SK2294
SK2295
SK2296
SK2297
SK2298
SK2299
SK2300
SK2301
SK2302
SK2303
SK2304
SK2305
SK2306
SK2307
SK2308
SK2309
SK2310
SK2311
SK2312
SK2313
SK2314
SK2315
SK2316
SK2317
SK2318
SK2319
SK2320
SK2321
SK2322
SK2323
SK2324
SK2325
SK2326
SK2327
SK2328
SK2329
SK2330
SK2331
SK2332
SK2333
SK2334
SK2335
SK2336
SK2337
SK2338
SK2339
SK2340
SK2341
SK2342
SK2343
SK2344
SK2345
SK2346
SK2347
SK2348
SK2349
SK2350
SK2351
SK2352
SK2353
SK2354
SK2355
SK2356
SK2357
SK2358
SK2359
SK2360
SK2361
SK2362
SK2363
SK2364
SK2365
SK2366
50G
50H
50I
50J
51H
51I
51J
49H
49I
49J
52J
53J
521
GT

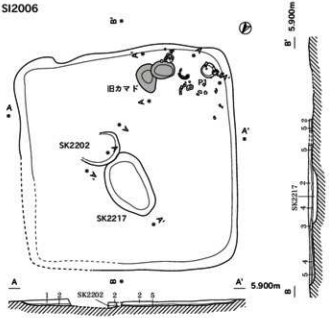
遺構分割図 8　古代下層（B 区）

0
(1:200)
10m

遺構分割図 10　古代下層（A・B 区）

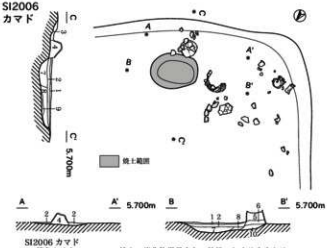


SI2006



SI2006
1 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。
3 赤褐色シルト　焼土・炭化粒少量含む。粘性・しまりあり。
4 明黄褐色シルト　炭化粒多量含む。焼土粒少量含む。粘性・しまりややあり。
5 黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。

SI2006 カマド



SI2006 カマド
1 橙色シルト　焼土・炭化物微量含む。粘性・しまりややあり。
2 浅黄色シルト　焼土多量含む。粘性・しまりやあり。
3 褐色シルト　焼土・炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
4 暗オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒多量含む。粘性・しまりなし。
5 黄褐色シルト　焼土粒少量含む。粘性・しまりややあり。
6 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
7 明黄褐色シルト　焼土、粘性なし。しまりあり。
8 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
9 黄褐色シルト　粘性・しまりややあり。
10 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。

SI2006 旧カマド

SI2006 旧カマド
1 橙色シルト　焼土。粘性なし。しまりあり。（火床面）
2 にぶい黄橙色シルト　焼土・炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。

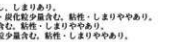
SI2006 P1

SI2006 P1
1 黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。

SK2002

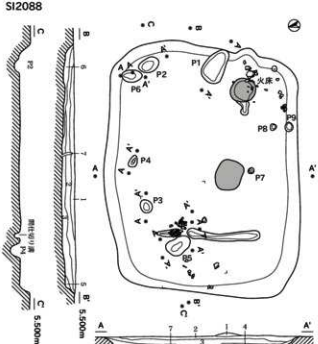
SK2002
1 明赤褐色シルト　焼土。粘性なし。しまりあり。
2 黄褐色シルト　焼土ブロック・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
3 灰黄色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
4 にぶい黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。

SK2217



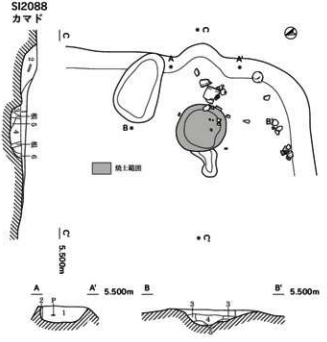
SK2217
1 にぶい黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 橙色シルト　焼土。粘性なし。しまりあり。
3 オリーブ褐色シルト　焼土・炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
4 浅黄色シルト　焼土微量含む。粘性・しまりややあり。

SI2088

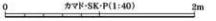


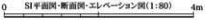
SI2088
1 極細赤褐色シルトと黄褐色シルトの混合土
2 黄褐色シルト
3 黄褐色砂　炭化粒少量混入。粘性なし。
4 褐色シルト　炭化粒中量混入。粘性なし。
5 にぶい黄褐色砂
6 にぶい黄褐色シルト　炭化粒少量混入。
7 にぶい黄橙色粘土

SI2088 カマド



SI2088 カマド
1 にぶい黄褐色シルト　焼土粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 にぶい赤褐色シルト　焼土粒・炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
3 暗赤褐色シルト　焼土粒・炭化粒多量含む。粘性なし。しまりあり。
4 明赤褐色シルト　焼土。粘性なし。硬くしまる。
5 にぶい黄褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
6 にぶい褐色シルトと褐色シルトの混合土　焼土粒あり。しまりなし。

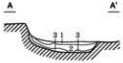




SI2088 間仕切り溝

SI2088 間仕切り溝
1 褐色シルト　炭化物・砂多量含む。粘性なし、しまりあり。

SI2088 P1



SI2088 P1
1 褐色シルト　焼土・炭化物微量含む。粘性あり、硬くしまる。
2 褐色シルト　炭化物多量含む。焼土微量含む。粘性・しまりあり。
3 黄褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

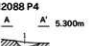
SI2088 P2

SI2088 P2
1 褐色シルト　焼土・炭化物中量含む。粘性あり、硬くしまる。

SI2088 P3

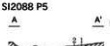
SI2088 P3
1 褐色シルト　炭化物多量含む。粘性あり、硬くしまる。

SI2088 P4



SI2088 P4
1 褐色シルト　炭化物多量含む。粘性あり、硬くしまる。

SI2088 P5



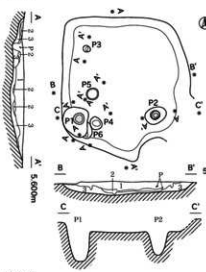
SI2088 P5
1 にぶい黄橙色砂　粘性なし、しまりあり。
2 にぶい黄橙色砂　炭化物微量含む。粘性なし、しまりあり。
3 にぶい黄褐色砂　粘性なし、しまりあり。

SI2088 P6

SI2088 P6
1 褐色シルト　炭化物多量含む。粘性・しまりあり。

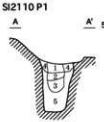
SI2088遺物出土状況

SI2110

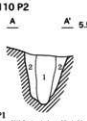


SI2110
1 褐色シルト　焼土・炭化物・土器多量含む。粘性・しまりあり。
2 白色粘土　しまりあり。
3 黄褐色シルト　粘性・しまりあり。

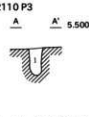
SI2110 P1



SI2110 P2



SI2110 P3

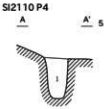


SI2110 P1
1 暗オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
2 灰黄色シルト　焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。
3 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
4 オリーブ褐色シルト　焼土粒多量含む。粘性・しまりややあり。
5 黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。

SI2110 P2
1 暗オリーブ褐色シルト　炭化物多量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　炭化物多量含む。粘性・しまりややあり。

SI2110 P3
1 暗オリーブ褐色シルト　炭化物多量含む。粘性・しまりややあり。

SI2110 P4



SI2110 P4
1 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。

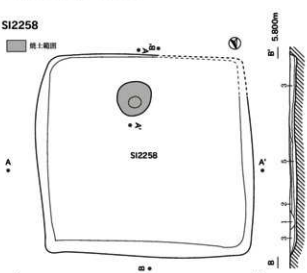
SI2110 P5

SI2110 P6

SI2110 P5
1 オリーブ褐色シルト　炭化物多量含む。焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。

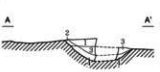
SI2110 P6
1 黄褐色シルト　焼土・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。

SI2258

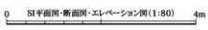


SI2258
1 オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。
2 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
3 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。灰白色シルト含む。粘性・しまりややあり。
4 オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
5 暗灰黄色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。

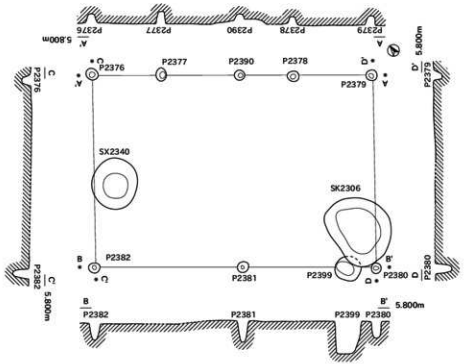
SI2258 カマド



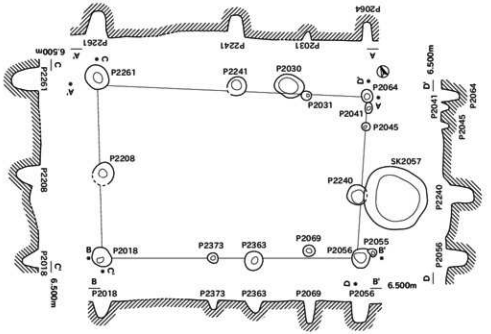
SI2258 カマド
1 明赤褐色シルト　焼土。粘性・しまりややあり。
2 褐色シルト　焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。
3 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
4 明赤褐色シルト　焼土。粘性なし、しまりあり。



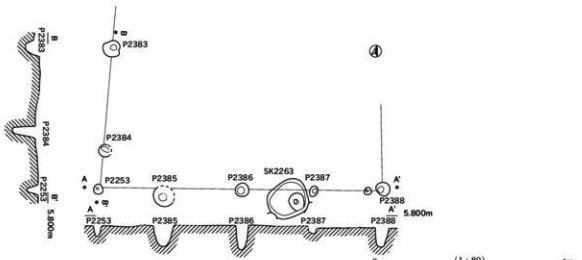
SB2367



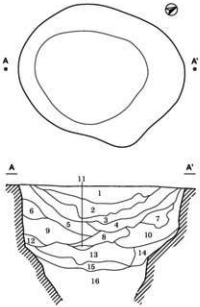
SB2369



SB2370

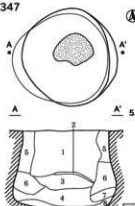


SE2152



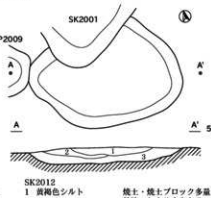
1 褐色シルト　炭化物・白色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
2 褐色シルト　白色シルト多量含む。炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
3 褐色シルト　炭化物・白色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
4 褐色シルト　白色シルト多量含む。
5 褐色シルト　1層に似る。
6 5層と似てやや暗い。
7 明黄褐色シルト　粘性・しまりあり。
8 褐色シルト　白色シルト多量含む。炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
9 褐色シルト　白色シルト・炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
10 褐色シルト　焼土・白色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
11 白色シルト　炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
12 褐色シルト　白色シルト・炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
13 白色シルト　撹乱し、部分的粉色に変色する。粘性・しまりあり。
14 褐色シルト
15 白色シルト　炭化物多量含む。粘性あり、しまりなし。
16 明褐灰色粘土　粘性・しまりあり。

SE2347



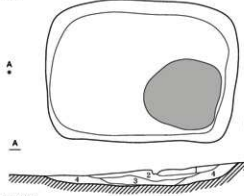
1 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
2 炭化物層
3 オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
4 黄灰色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
5 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
6 暗灰黄色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
7 黄褐色シルト　粘性・しまりややあり。
8 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。

SK2012



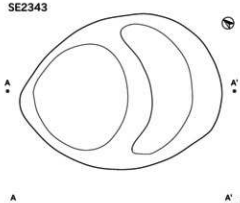
1 黄褐色シルト　焼土・焼土ブロック多量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりややあり。
3 暗オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。

SK2026



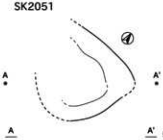
1 明赤褐色シルト　焼土。炭化物極微量含む。粘性・しまりややあり。
2 暗赤褐色シルト　焼土粒・炭化物・炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
3 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
4 オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。

SE2343



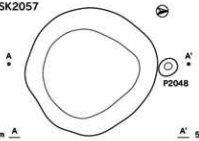
1 黄灰色シルト　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 黄灰色シルト黄褐色とシルトの混合土　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
3 暗灰黄色シルト　炭化物・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
4 黄灰色シルト　粘性あり、しまりなし。
5 黄褐色シルト　粘性あり、しまりなし。
6 オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性なし、しまりあり。
7 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性あり、しまりなし。
8 オリーブ褐色シルト　粘性あり、しまりなし。
9 暗灰黄褐色シルト　粘性あり、しまりなし。

SK2051



SK2051
1 褐色シルト　焼土粒中量含む。炭化粒少量含む。粘性・しまりあり。
2 褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。
3 にぶい黄褐色シルト　焼土粒少量含む。炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。
4 褐色シルト　焼土粒中量含む。炭化粒微量含む。粘性あり、しまりなし。
5 明赤褐色シルト　焼土。4の土が少し混じる。粘性・しまりあり。
6 暗褐色シルト　焼土粒・炭化粒多量含む。粘性あり、しまりなし。
7 黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。
8 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。
9 にぶい黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。
10 暗褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性あり、しまりなし。
11 黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性あり、しまりなし。

SK2057

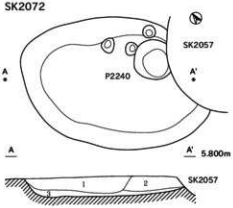


SK2057
1 暗褐色シルト　焼土。炭化粒少量含む。粘性なし、しまりあり。
2 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性・しまりあり。
3 黄褐色シルト　灰白色シルトブロックが多く混じる。炭化粒少量含む。粘性・しまりあり。
4 にぶい黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性・しまりあり。
5 褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。
6 黄褐色シルト　炭化粒中量含む。粘性・しまりあり。
7 にぶい黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒中量含む。粘性・しまりあり。
8 にぶい黄褐色シルト　焼土粒あり、しまりなし。
9 暗褐色シルト　焼土粒・炭化粒多量含む。粘性あり、しまりなし。
10 にぶい黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性あり、しまりなし。
11 黄褐色シルトと灰白色シルトの混合土　粘性あり、しまりなし。
12 黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性あり、しまりなし。

0　SK（1：40）　2m

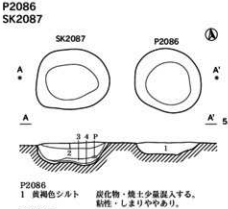
0　SE（1：60）　3m

SK2072



SK2072
1 浅黄色シルト　焼土粒・炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
3 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。

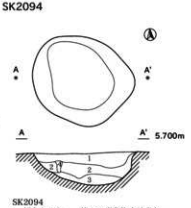
P2086
SK2087



P2086
1 黄褐色シルト　炭化物・焼土少量混入する。粘性・しまりややあり。

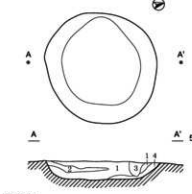
SK2087
1 褐色シルト　焼土・炭化物やや多く含む。粘性ややあり、しまりややなし。
2 黄褐色砂　下部に炭化物少量混入する。粘性・しまりややなし。
3 褐色シルト　焼土・炭化物多量混入する。粘性ややあり、しまりややなし。
4 暗赤褐色焼土　VI層の焼土化したもの。

SK2094



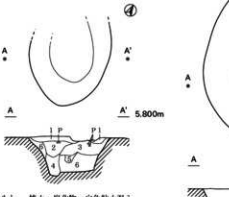
SK2094
1 褐色シルト　焼土・炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
2 褐色シルト　焼土・炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
3 黄褐色シルト　白色粘土・炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
4 赤褐色シルト　焼土。硬くしまる。

SK2104



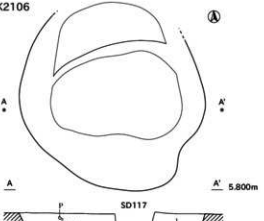
SK2104
1 褐色シルト　白色粘土・炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2 褐色シルト　炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
3 白色粘土　粘性・しまりあり。
4 白色粘土と黄褐色土シルトの混合土　粘性・しまりあり。

SK2105



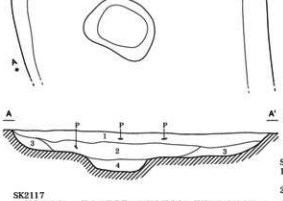
SK2105
1 褐色シルト　焼土・炭化物・白色粘土混入。粘性・しまりあり。
2 褐色シルト　白色粘土多量混入、焼土・炭化物極微量混入。粘性・しまりあり。
3 褐色シルト　焼土・炭化物多量混入、白色粘土少量混入。粘性・しまりあり。
4 灰色褐色粘土　炭化物極微量混入。粘性・しまりあり。
5 褐色シルト　炭化物極微量混入。粘色あり、しまりなし。
6 褐色シルト　やや砂含む。粘性・しまりあり。

SK2106



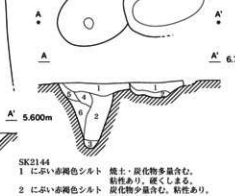
SK2106
1 褐色シルト　焼土・炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2 褐色シルト　焼土・炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
3 褐色シルト　焼土・炭化物多量含む。粘性・しまりあり。

SK2117



SK2117
1 褐色シルト　焼土・炭化物・土器多量含む。粘性・しまりあり。
2 浅黄色シルト　炭化物・土器少量含む。粘性・しまりあり。
3 灰黄色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
4 灰黄色シルト　粘性・しまりあり。

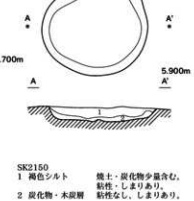
SK2144
P2149



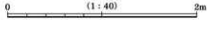
SK2144
1 にぶい赤褐色シルト　焼土・炭化物多量含む。粘性あり、硬くしまる。
2 にぶい赤褐色シルト　炭化物少量含む。粘性あり、硬くしまる。

P2149
1 にぶい褐色シルト　焼土・炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
2 にぶい褐色シルト　炭化物多量含む。焼土少量含む。粘性・しまりあり。
3 白色シルト　粘性・しまりあり。
4 明黄褐色シルト　粘性・しまりあり。
5 明黄褐色シルト　炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
6 明黄褐色シルト　炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

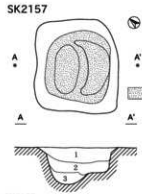
SK2150



SK2150
1 褐色シルト　焼土・炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2 炭化物・木炭層　粘性なし、しまりあり。

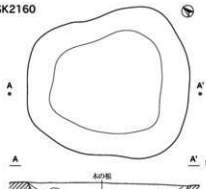


SK2157



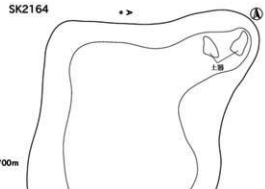
SK2157
1 褐色シルト　炭化物・土師器片多量含む。粘性・しまりあり。
2 炭化物層　褐色シルト少量混入。木炭残る。粘性・しまりなし。
3 褐色シルト　炭化物微量含む。粘性なし、しまりあり。

SK2160



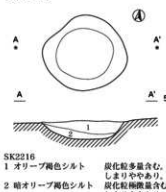
SK2160
1 褐色シルト　白色シルトブロック状に混入。粘性・しまりあり。
2 褐色シルト　粘性・しまりあり。

SK2164



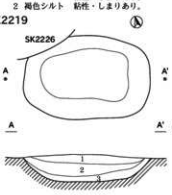
SK2164
1 褐色シルト　焼土・炭化物・土器多量含む。粘性・しまりあり。
2 白色シルト　粘性・しまりあり。
3 黄褐色シルト　粘性・しまりあり。

SK2216



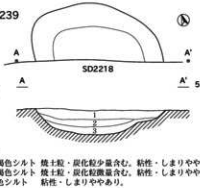
SK2216
1 オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。

SK2219



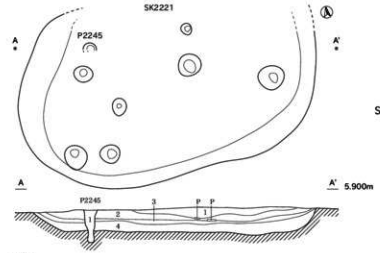
SK2219
1 明黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
2 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
3 オリーブ褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。

SK2239



SK2239
1 明黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
2 浅黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
3 灰黄色シルト　粘性・しまりややあり。

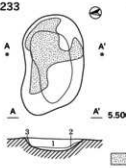
SK2221
P2245



SK2221
1 黒褐色シルト　焼土粒・炭化物・炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。焼土粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
3 暗オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒多量含む。焼土粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
4 浅黄色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。

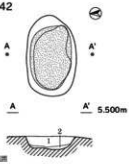
P2245
1 暗オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。

SK2233



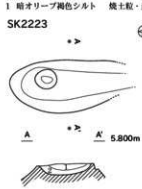
SK2233
1 灰黄褐シルト　1cm程の炭化物粒中量含む。粘性なし。しまりあり。
2 にぶい橙色シルト　焼土。粘性・しまりなし。
3 にぶい黄橙色シルト　1cm程の炭化物粒多量含む。粘性あり。しまりなし。

SK2242



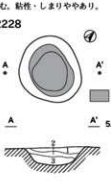
SK2242
1 にぶい黄橙色シルト　5mm～10mm程の炭化物・炭化粒少量含む。粘性なし。しまりあり。
2 にぶい黄橙色シルト　1cm程の炭化物多量含む。粘性なし。しまりあり。

SK2223

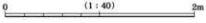


SK2223
1 浅黄色シルト　焼土粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。

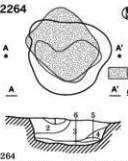
SK2228



SK2228
1 にぶい黄橙色シルト　1mm程の炭化物粒少量含む。粘性なし。しまりあり。
2 灰黄褐シルト　5mm程の炭化物粒・焼土粒少量含む。粘性・しまりあり。
3 灰黄褐シルト　1cm程の炭化物粒・焼土粒多量含む。粘性あり。しまりなし。

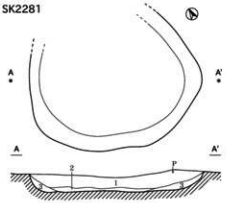


SK2264



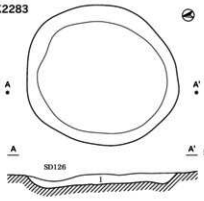
1 灰黄褐色シルト　5mm程の炭化粒多量含む。粘性・しまりなし。
2 にぶい黄橙色シルト　5mm程の炭化粒中量含む。粘性あり・しまりなし。
3 にぶい黄橙色シルト　5mm程の炭化粒少量含む。粘性あり・しまりなし。
4 にぶい黄橙色シルト　1cm程の炭化物少量含む。5mm程の焼土粒少量含む。粘性あり・しまりなし。
5 にぶい黄橙色シルト　5mm程の焼土粒多量含む。2mm程の炭化粒少量含む。粘性あり・しまりなし。
6 にぶい黄橙色シルト　5mm程の炭化粒・焼土粒多量含む。

SK2281



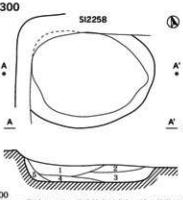
1 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
3 オリーブ褐色シルト　粘性・しまりややあり。

SK2283



1 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。

SK2300

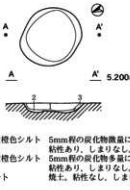


1 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　炭化粒・焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。
3 オリーブ褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
4 オリーブ褐色シルト　粘性・しまりややあり。
5 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。

SK2337

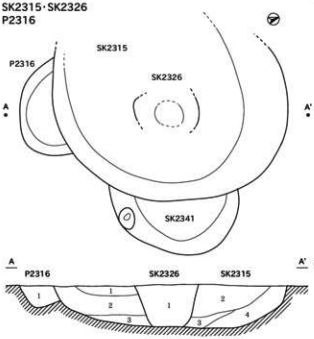
1 オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。

SK2342

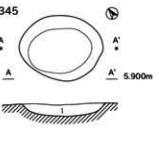


1 にぶい黄橙色シルト　5mm程の炭化物微量に含む。粘性あり、しまりなし。
2 にぶい黄橙色シルト　5mm程の炭化物多量に含む。粘性あり、しまりなし。
3 橙色シルト　焼土。粘性なし、しまりあり。

SK2315・SK2326 P2316

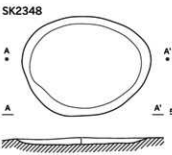


SK2345



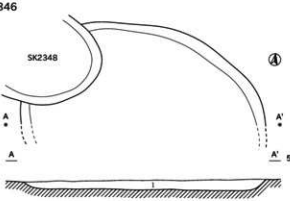
1 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。

SK2348



1 オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。

SK2346



1 オリーブ褐色砂　炭化粒微量含む。粘性・しまりなし。

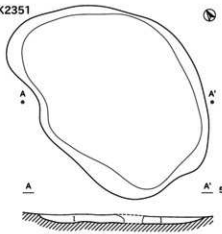
SK2315
1 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
2 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。
3 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
4 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。

P2316
1 オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。

SK2326
1 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。

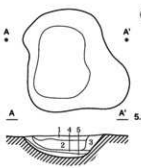
0　(1：40)　2m

SK2351



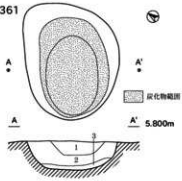
SK2351
1 にぶい黄褐色シルト　3mm程の炭化物粒少量含む。しまりなし。粘性やわあり。

SK2356



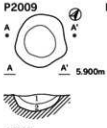
SK2356
1 灰黄褐色シルト　5mm程の炭化物粒少量含む。粘性・しまりなし。
2 灰黄褐色シルト　1cm程の焼土粒中量、8mm程の炭化物粒多量含む。粘性・しまりなし。
3 にぶい黄橙色シルト　2mm程の炭化物粒微量に含む。粘性・しまりなし。
4 灰黄褐色シルト　2mm程の炭化物粒微量に含む。粘性・しまりなし。
5 にぶい黄褐色シルト　黄白色シルトブロック中量含む。粘性・しまりなし。

SK2361



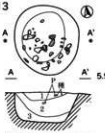
SK2361
1 にぶい黄褐色シルト　1cm程の炭化物粒中量含む。粘性やわあり。しまりなし。
2 にぶい黄褐色シルト　粘性やわあり。しまりなし。
3 炭化物層　黄褐色シルト微量含む。

P2009



P2009
1 オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒多量含む。粘性なし。しまりややあり。
2 黄褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりややあり。

P2013

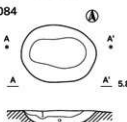


P2013
1 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
2 暗オリーブ褐色シルト　焼土・焼土粒・炭化物・炭化ブロック状に多量含む。粘性・しまりややあり。
3 黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。

P2073

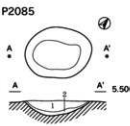
P2073
1 黒褐色シルト　炭化物多量含む。焼土粒少量含む。粘性・しまりややあり。
2 暗オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
3 オリーブ褐色シルト　焼土粒微量含む。粘性・しまりややあり。

P2084



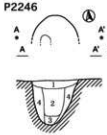
P2084
1 黄褐色シルト　1~2cm程度の炭化物・焼土多量混入。粘性・しまりあり。
2 黄褐色シルト　粘性・しまりあり。

P2085



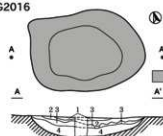
P2085
1 黄褐色シルト　炭化物・焼土やや多く混入する。粘性・しまりややあり。
2 黄褐色シルト　炭化物・焼土は含まない。7層に近似する。

P2246



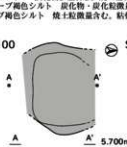
P2246
1 オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
3 灰黄褐色シルト　粘性やわあり。しまりあり。
4 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。

SG2016



SG2016
1 橙色シルト　焼土。粘性なし。しまりあり。
2 暗褐色シルト　焼土。粘性なし。しまりあり。
3 褐色シルト　2の焼土粒少量含む。炭化粒少量含む。粘性・しまりあり。
4 褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。

SG2100

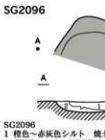


SG2103

SG2100
1 橙色~赤灰色シルト　焼土。非常に硬くしまる。
2 黄褐色シルト　炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
3 白色粘土　しまりあり。

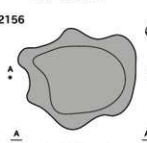
SG2103
1 橙色シルト　焼土。非常に硬くしまる。
2 赤灰色シルト　焼土。炭化物少量含む。硬くしまる。
3 黄褐色シルト　炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

SG2096



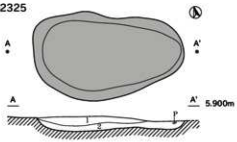
SG2096
1 橙色~赤灰色シルト　焼土。粘性・しまりあり。
2 黄褐色シルト　炭化物多量含む。粘性あり。硬くしまる。

SG2156



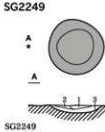
SG2156
1 にぶい黄橙色シルト　焼土。5mm程の炭化物粒多量含む。粘性・しまりなし。
2 にぶい橙色シルト　焼土。粘性あり。しまりなし。
3 灰褐色シルト　焼土。粘性あり。しまりなし。
4 黒褐色シルト　焼土。炭化物粒多量に含む。粘性・しまりなし。
5 明褐灰色シルト　焼土。5mm程の焼土粒多量に含む。
6 にぶい橙色シルト　焼土。粘性・しまりなし。
7 灰褐色シルト　焼土。粘性・しまりなし。
8 にぶい黄橙色シルト　焼土。2mm程の炭化物粒・焼土粒多量含む。
9 灰褐色シルト　焼土。粘性・しまりなし。

SG2325



SG2325
1 赤褐色シルト　焼土。炭化物・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
2 黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。

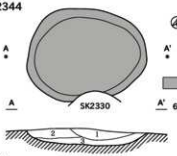
SG2249



SG2249
1 暗赤褐色シルト　焼土。粘性なし。しまりあり。
2 にぶい赤褐色シルト　焼土。粘性・しまりややあり。
3 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。

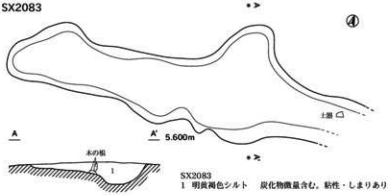
0　(1:40)　2m

SG2344



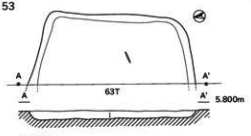
SG2344
1　橙色シルト　　焼土、粘性・しまりややあり。
2　暗赤褐色シルト　　焼土粒多量含む。炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
3　にぶい黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりややあり。
4　灰白色シルト　　粘性ややあり、しまりあり。

SX2083



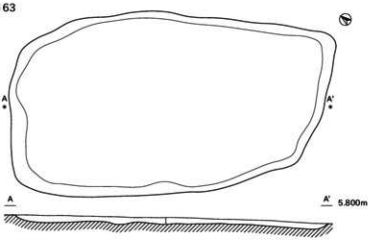
SX2083
1　明黄褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

SX2153



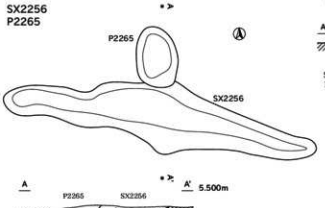
SX2153
1　褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

SX2163



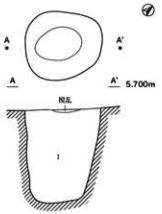
SX2163
1　褐色シルト　炭化物多量含む。粘性・しまりあり。

SX2256
P2265



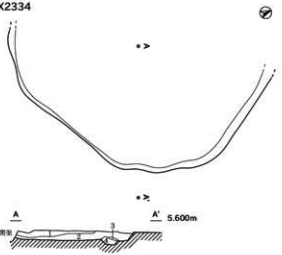
SX2256
1　にぶい黄褐色シルト　1mm程の炭化粒少量含む。粘性・しまりなし。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性ややあり。しまりなし。
P2265
1　にぶい黄褐色シルト　粘性・しまりなし。

SX2327



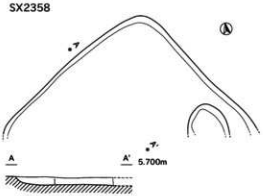
SX2327
1　浅黄色シルト　粘性あり、しまりなし。

SX2334



SX2334
1　灰黄褐色シルト　白色シルトブロック多量含む。2mm程の炭化粒微量含む。粘性なし、しまりややあり。
2　灰黄褐色シルト　白色シルトブロック少量含む。5mm程の炭化粒微量含む。粘性・しまりなし。
3　にぶい黄橙色シルト　5mm程の炭化粒多量含む。粘性・しまりなし。
4　灰白色シルト　粘性ややあり、しまりあり。

SX2358



SX2358
1　褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

0　SG・P・SX2083・2153・2256・2327(1:40)　2m　　0　SX2163・2334・2358(1:80)　4m

SD2046

SD2046
1 オリーブ褐色シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。

SD2074

SD2074
1 褐色シルト　炭化粒中量含む。焼土粒少量含む。粘性あり。しまりなし。
2 黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。

SD2089

SD2089
1 明褐色シルト　炭化物少量混入。粘性・しまりややあり。
2 暗褐色シルト　炭化物多量混入。焼土少量混入。粘性・しまりややあり。
3 褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量混入。粘性・しまりややあり。
4 褐色粘土　炭化粒少量混入。粘性あり。

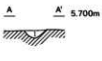
SD2090

SD2090
1 黄褐色シルト　炭化物少量混入。粘性・しまりややあり。

SD2116

SD2116
1 褐色シルト　炭化物少量混入。粘性・しまりあり。
2 黄褐色シルト　白色粘土少量混入。粘性・しまりあり。

SD2123

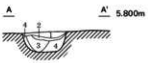


SD2123
1 黄褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

SD2127

SD2127
1 褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
2 黄褐色シルト　白色シルト混入。粘性・しまりあり。
3 黄褐色シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

SD2214



SD2214
1 褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性・しまりあり。
2 黄褐色シルト　灰白色シルト微量含む。炭化粒極微量含む。粘性あり。しまりなし。
3 にぶい黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。
4 黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性・しまりあり。

SD2218

SD2218
1 暗オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
3 オリーブ褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
4 暗灰黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性あり。しまりなし。
5 オリーブ褐色シルト　粘性・しまりややあり。
6 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性あり。しまりなし。

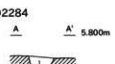
SD2235

SD2235
1 暗灰黄色シルト　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　灰白色シルトブロック多量含む。粘性・しまりややあり。
3 黄褐色シルト　粘性・しまりややあり。
4 黄褐色シルト　炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。

SD2237

SD2237
1 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性・しまりややあり。
3 灰黄色シルト　焼土粒・炭化粒少量含む。粘性あり。しまりなし。
4 明黄褐色シルト　焼土粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
5 オリーブ褐色シルト　焼土粒・炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
6 明黄褐色シルト　炭化粒微量含む。粘性あり。しまりなし。

SD2284

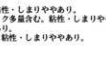


SD2284
1 暗オリーブ褐色シルト　炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。

SD2294

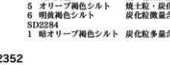
SD2294
1 にぶい黄橙色シルト　粘性ややあり、しまりなし。

SD2335



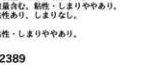
SD2335
1 オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。

SD2352



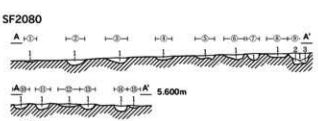
SD2352
1 褐色シルト　炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
2 黄褐色シルト　粘性・しまりあり。
3 褐色シルト　白色シルトをブロック状に含む。粘性・しまりあり。

SD2389



SD2389
1 オリーブ褐色シルト　炭化物・炭化粒多量含む。粘性・しまりややあり。
2 オリーブ褐色シルト　炭化粒微量含む。焼土粒極微量含む。粘性・しまりややあり。
3 黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒極微量含む。粘性・しまりややあり。

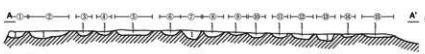
SF2080



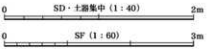
SF2080
1 黄灰色シルトと明褐色シルトの混合土　粘性あり、硬くしまる。
2 明褐色シルト　粘性あり、硬くしまる。
3 黄灰色シルト　粘性あり、硬くしまる。

土器集中 2227

SF2200



SF2200
1 灰白色シルト　粘性なし、しまりあり。

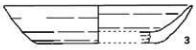


A・B区中世遺構（1～29）

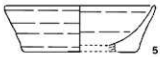
SE13（1）

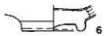
SE41（2）

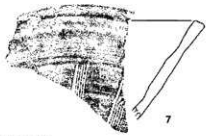
SE84（3）



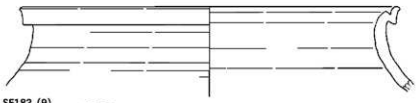
SE99（4～7）





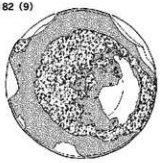


SE145（8）

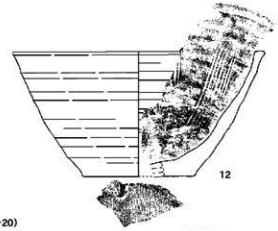


SK6（10～12）

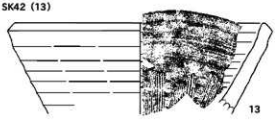
SE182（9）



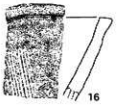
ス　ス
タール

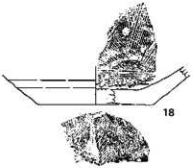


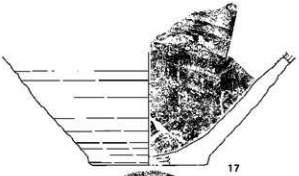
SK42（13）

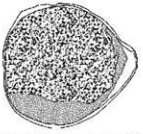


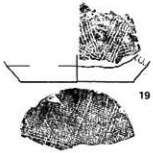
SD113（14～20）

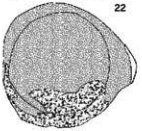




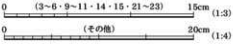




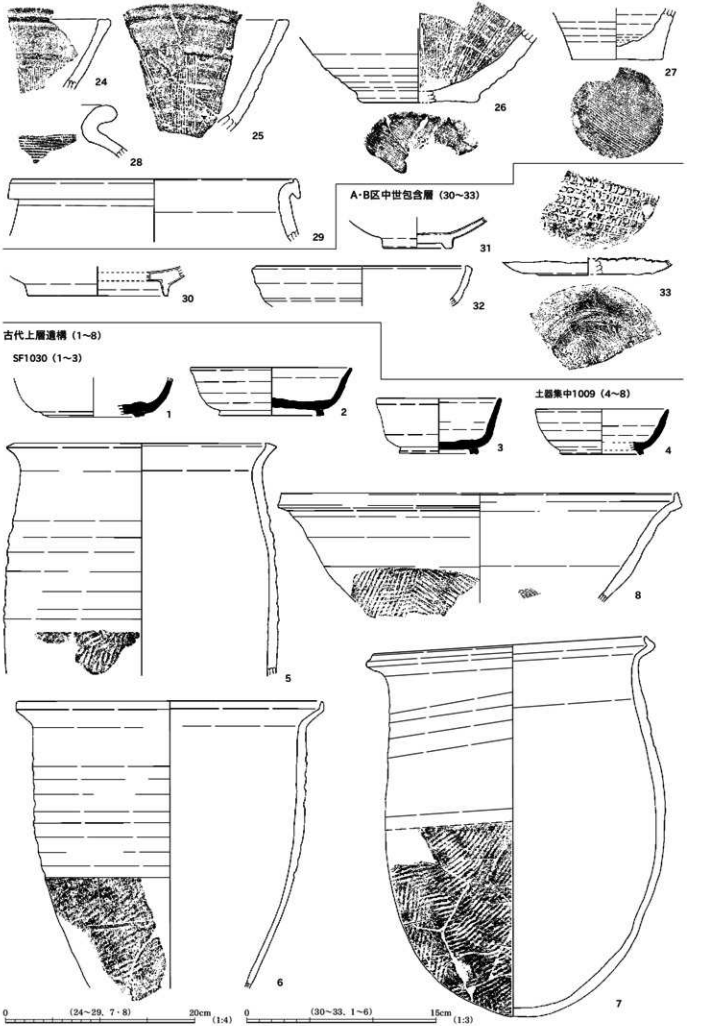




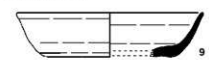
SD114（21～29）



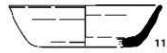
図版 36　中世遺構出土土器・陶磁器２（A・B区）、中世包含層出土土器・陶磁器（A・B区）、古代上層遺構出土土器１



古代上層（9～18）


9

10


11

12

13

14

15

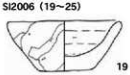
16

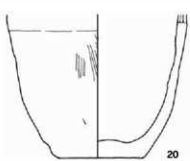
17

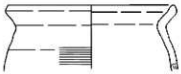
18

古代下層遺構（19～88）

SI2006（19～25）

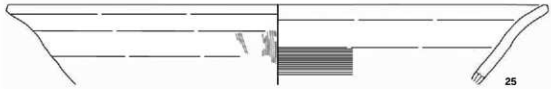

19


20


21

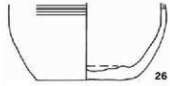
22

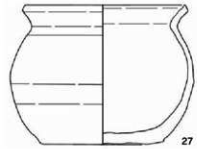
23

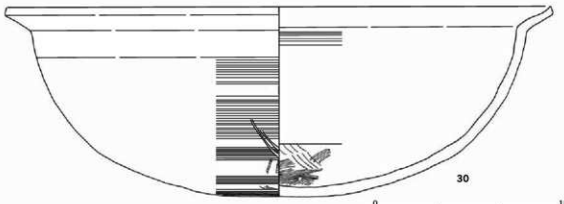

25

SI2088（26～30）

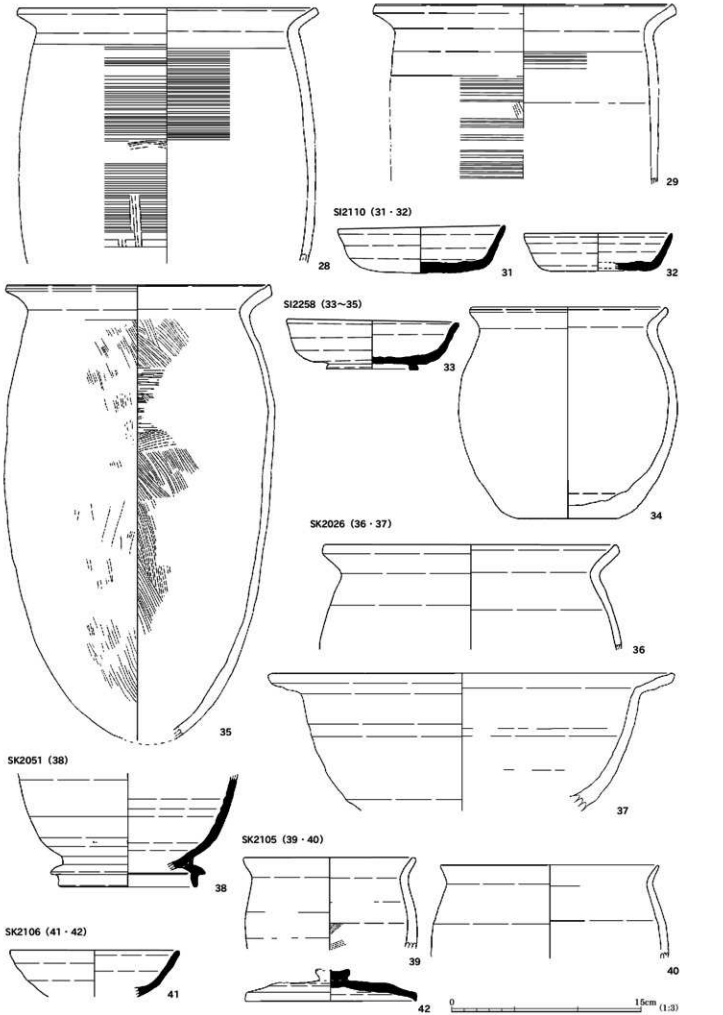
24

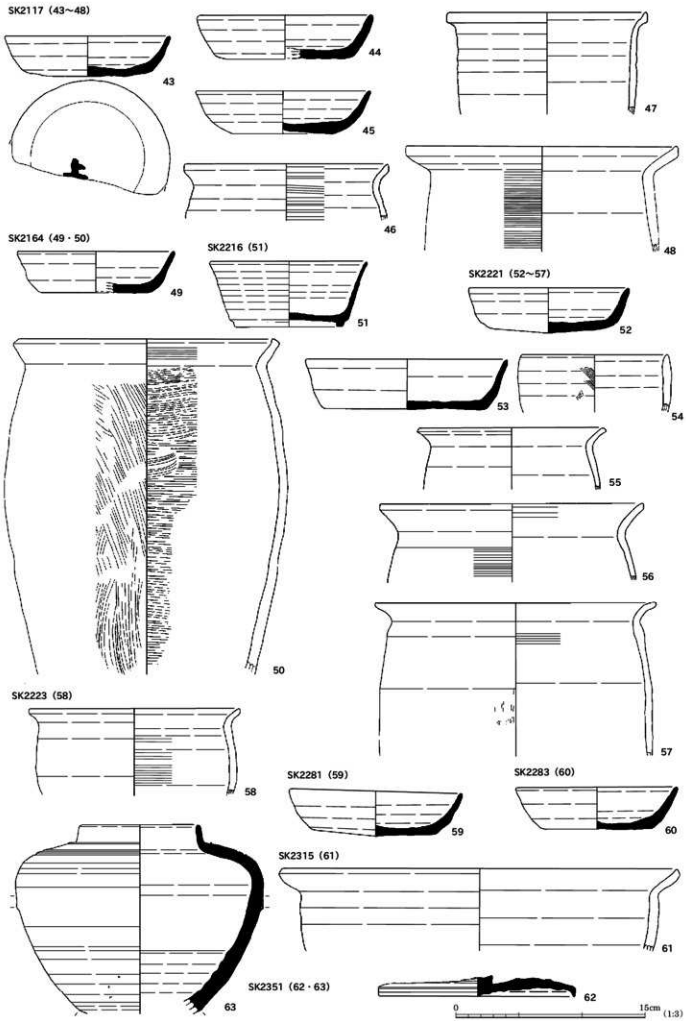

26

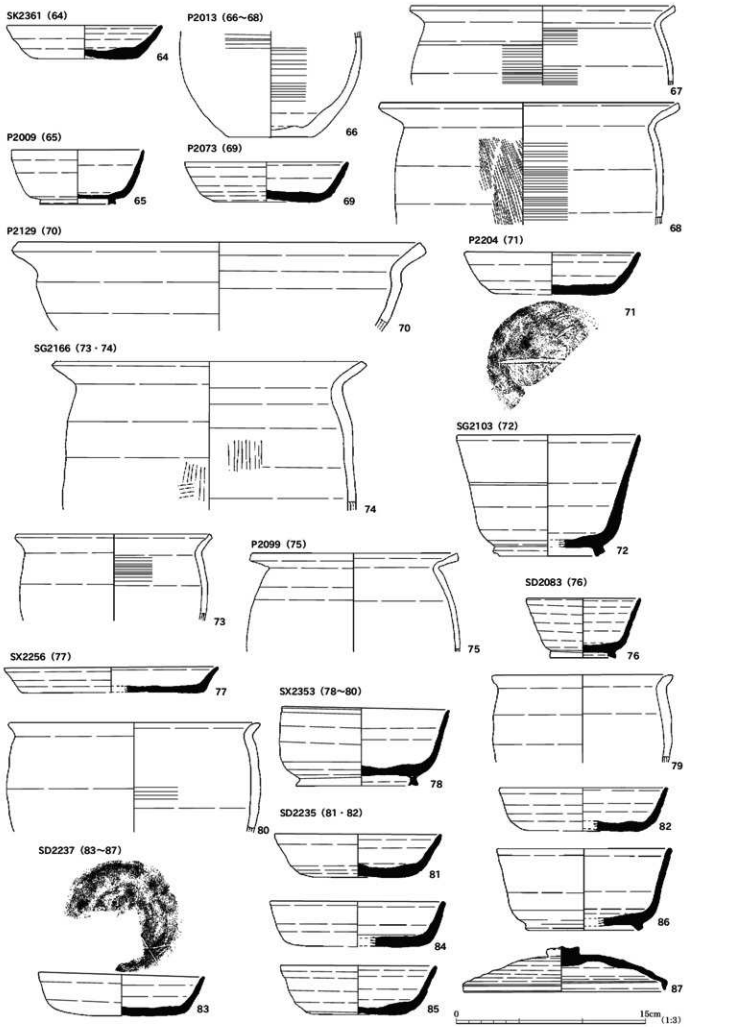

27

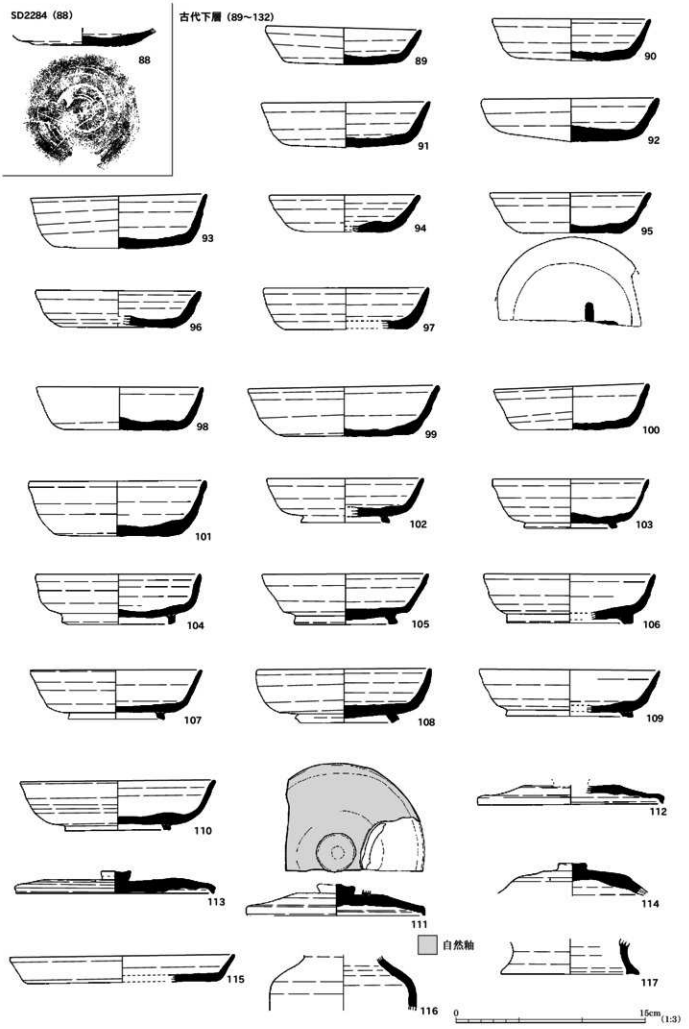

30

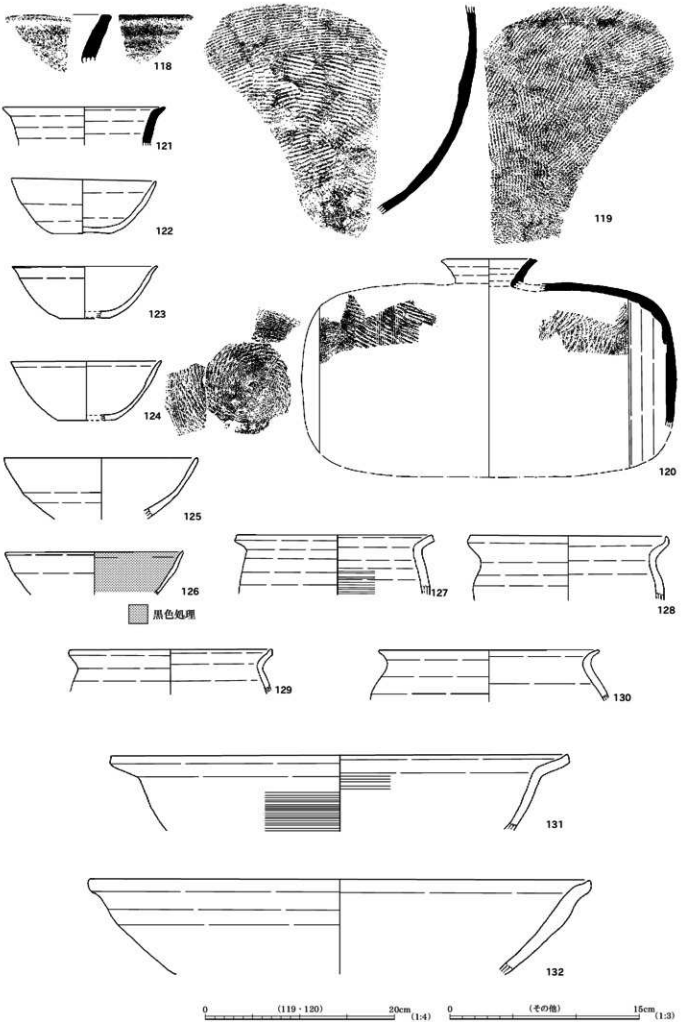
0　15cm（1:3）


28
29
SI2110 (31・32)
31
32
SI2258 (33~35)
33
34
35
SK2026 (36・37)
36
37
SK2051 (38)
38
SK2105 (39・40)
39
40
SK2106 (41・42)
41
42
0
15cm
(1:3)


SK2117 (43～48)
43
44
45
46
47
48
SK2164 (49・50)
49
SK2216 (51)
51
SK2221 (52～57)
52
50
53
54
55
56
57
SK2223 (58)
58
SK2281 (59)
59
SK2283 (60)
60
SK2315 (61)
61
SK2351 (62・63)
63
62
0
15cm
(1:3)

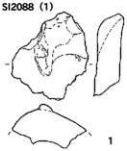

SK2361 (64)
64
P2013 (66~68)
66
67
P2009 (65)
65
P2073 (69)
69
68
P2129 (70)
70
P2204 (71)
71
SG2166 (73・74)
74
SG2103 (72)
72
73
P2099 (75)
75
SD2083 (76)
76
SX2256 (77)
77
SX2353 (78~80)
78
79
80
SD2235 (81・82)
82
SD2237 (83~87)
81
86
84
87
83
85
0
15cm
(1:3)


SD2284（88）
古代下層（89～132）
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
自然軸
0
15cm
(1:3)


118
121
122
123
124
125
126
黒色処理
127
128
129
130
131
132
119
120
0
(119・120)
20cm
(1:4)
0
(その他)
15cm
(1:3)

土製品 (1～8)

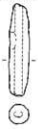
SI2088 (1)



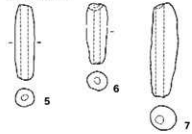
SK2144 (2)

包含層 (3)

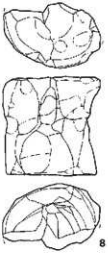
SI2110 (4)



包含層 (5～7)

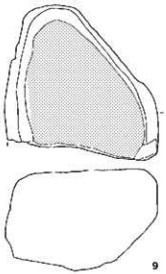


包含層 (8)

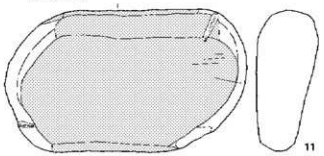


石製品 (9～13)

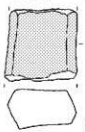
SK166 (9)

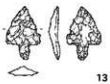


SX2334 (11)

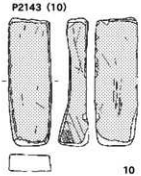


包含層 (12・13)





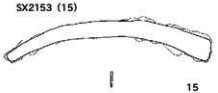
P2143 (10)



金属製品 (14～16)

SK115 (14)

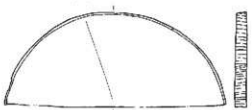
SX2153 (15)

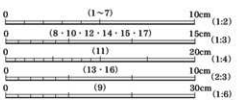


SK42 (16)

木製品 (17)

SE144 (17)





調査区近景（西から）

中世面（A・B区）完掘

A・B区基本層序48Iグリッド（北から）

A・B区基本層序51Iグリッド（北から）

A・B区基本層序54Iグリッド（北から）

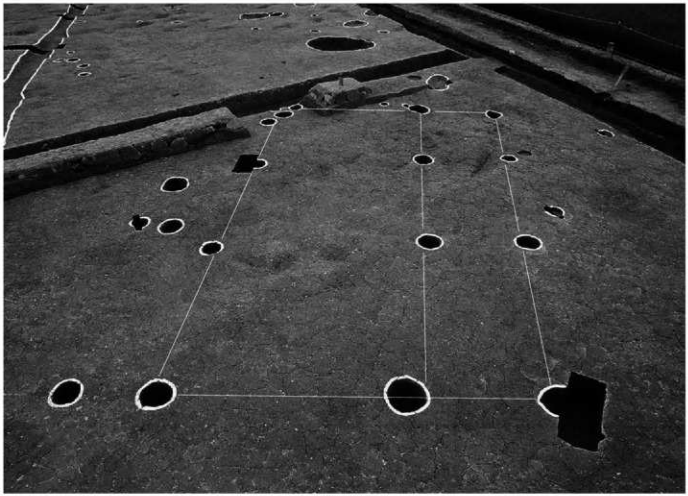
A・B区基本層序57Iグリッド（北から）

A・B区基本層序51Jグリッド（西から）

A・B区基本層序51Lグリッド（西から）

調査風景

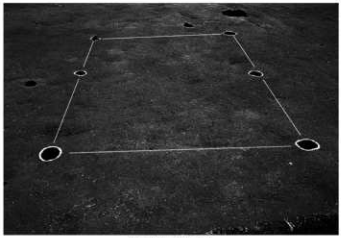
調査風景



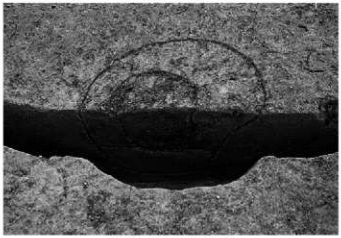
SB50 完掘（東から）

SB50P4 土層断面（北東から）

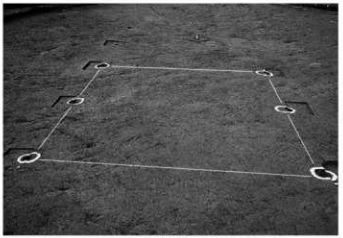
SB50P9 土層断面（南から）

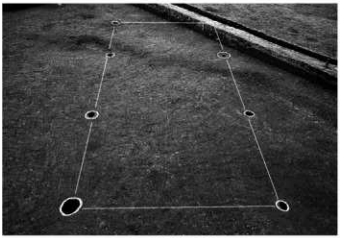


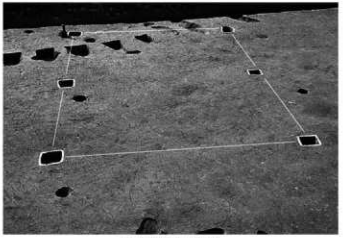
SB8 完掘（西から）



SB8P1 土層断面（北から）


SB87 完掘（南から）


SB97 完掘（東から）


SB98 完掘（東から）

SB98P129 土層断面（北から）

SE13 完掘（南から）

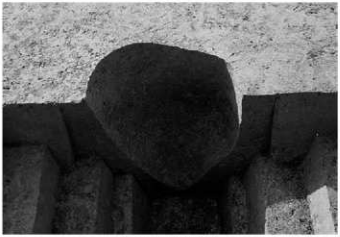
SE88 完掘（南から）

SE90 完掘（北から）

SE99 完掘（東から）

SE139 土層断面（東から）

SE141 土層断面（東から）


SE141 完掘（東から）

SE144 出土状況（西から）

SE145 土層断面（西から）

SE145 完掘（西から）

SE155 完掘（東から）

SE159 土層断面（南東から）

SE159完掘（南東から）

SE161完掘（南西から）

SE182土層断面（南から）

SE182完掘（南から）

SK6完掘（南東から）

SK42土層断面（東から）

SK42出土状況（西から）

SK42出土状況（南から）

SK42出土状況（西から）

SK42完掘（南東から）

SK44土層断面（南西から）

SK44完掘（北東から）

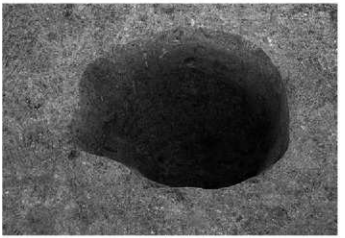
SK115土層断面（北から）

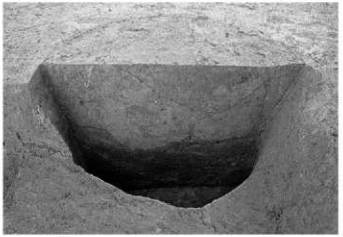
SK115完掘（北から）

SK116土層断面（南から）

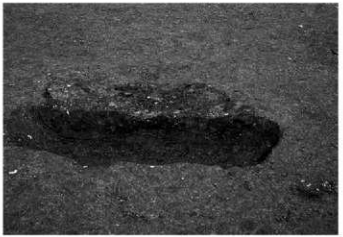
SK116完掘（南西から）

SK160 土層断面（南から）


SK160 完掘（南から）


SK166 土層断面（南から）

SK166 完掘（南から）


SX1 土層断面（西から）

SX1 完掘（西から）

SX28 土層断面（南から）

SX28 出土状況（北東から）

SX28完掘（南から）

SX96土層断面（北西から）

SX96出土状況（北西から）

SX96完掘（北西から）

SD113土層断面（東から）

SD114土層断面（南から）

SD117土層断面（北から）

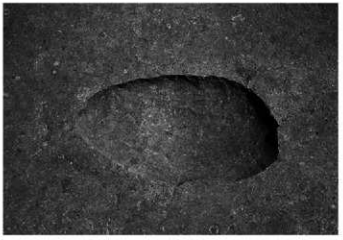
SD126土層断面（南から）

SK1066 土層断面（東から）

SK1066 出土状況（東から）

SK1066 完掘（北から）

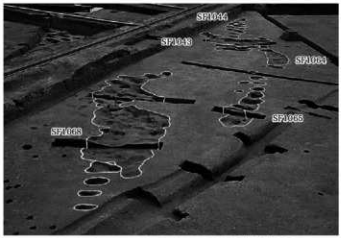
P1049 土層断面（南から）


P1049 完掘（南から）

SF1010 完掘（南から）

SF1030 完掘（南から）

SF1030 ⑥土層断面（東から）



SF1043・1044・1064・1065・1068完掘（北から）

SF1101完掘（北から）

SF1101⑥土層断面（東から）

SF1101⑨土層断面（東から）

SF1102完掘（北から）

SF1102④土層断面（西から）

SF1102⑤土層断面（西から）

土器集中1009出土状況（南西から）

古代下層（A・B区）完掘

SI2006完掘（北西から）

SI2088 完掘（南から）

SI2006 カマド検出状況（北西から）

SI2006 出土状況（北西から）

SI2088 カマド検出状況（西から）

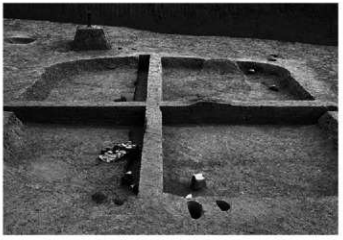
SI2088 出土状況（北東から）

SI2006 旧カマド検出状況（南西から）

SI2006 旧カマド土層断面（西から）

SI2006P1 土層断面（南から）

SI2006 出土状況（北から）


SI2088 土層断面（北西から）

SI2088 土層断面（北東から）

SI2088 カマド土層断面（西から）

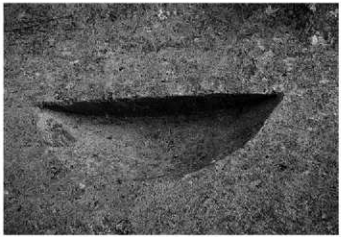
SI2088 カマド土層断面（西から）

SI2088 火床面土層断面（西から）

SI2088 出土状況（北から）

SI2088 間仕切り溝土層断面（北から）

SI208P1 土層断面（北東から）


SI2088P2 土層断面（南西から）

SI2088P3 土層断面（南から）

SI2088P4 土層断面（西から）

SI2088P5 土層断面（北東から）

SI2088P6 土層断面（西から）

SI2110 完掘（北から）

SI2110 土層断面（南から）

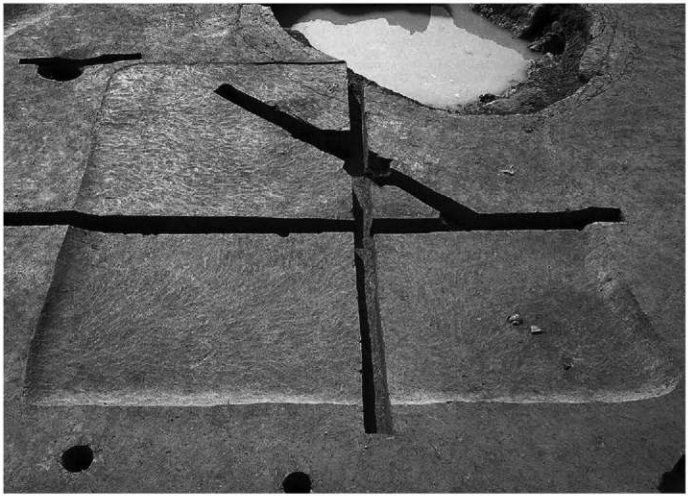
SI2110 土層断面（西から）

SI2110 出土状況（南から）

SI2110P1 土層断面（東から）

SI2258 カマド検出状況（北から）

SI2258 カマド土層断面（東から）



SI2258完掘（北から）

SB2367・2369・2370、SI2006・2258完掘

SE2152土層断面（東から）

SE2152完掘（東から）

SE2343土層断面（北東から）

SE2343完掘（北東から）

SE2347土層断面（南から）

SE2347出土状況（西から）

SE2347完掘（南から）

SK2026土層断面（南から）

SK2026 完掘（北から）

SK2051 土層断面（東から）

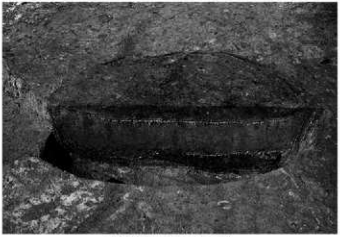
SK2051 完掘（東から）

SK2057 土層断面（東から）

SK2057 完掘（東から）

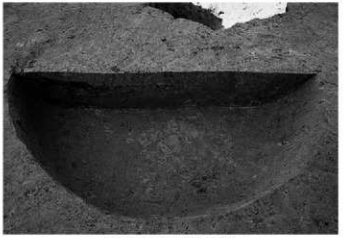
SK2072 土層断面（南から）

SK2072 出土状況（南から）


SK2087 土層断面（南から）

SK2087 出土状況（南から）

SK2087 完掘（南から）


SK2104 土層断面（東から）

SK2104 完掘（南から）

SK2105 土層断面（東から）

SK2105 完掘（東から）

SK2106 土層断面（南から）

SK2106 完掘（東から）

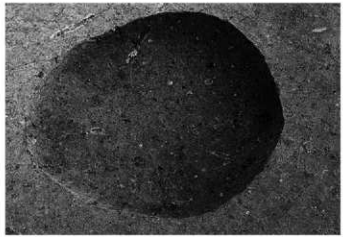
SK2117出土状況（西から）

SK2117完掘（西から）

SK2144完掘（北から）

SK2150土層断面（西から）

SK2150出土状況（西から）


SK2150完掘（西から）

SK2157土層断面（北東から）

SK2157土層断面（北東から）

SK2157完掘（北東から）

SK2160土層断面（南から）

SK2160完掘（南から）

SK2164土層断面（西から）

SK2164出土状況（北から）

SK2164完掘（西から）

SK2221土層断面（南から）

SK2221出土状況（西から）

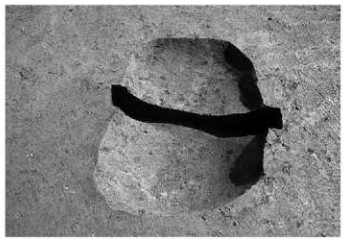
SK2228土層断面（南から）

SK2228出土状況（西から）

SK2228完掘（西から）

SK2233土層断面（西から）

SK2233出土状況（西から）


SK2233完掘（西から）

SK2264出土状況（南から）

SK2264完掘（南から）

SK2281 土層断面（南から）

SK2281 出土状況（南から）

SK2281 完掘（東から）

SK2283 土層断面（西から）

SK2283 完掘（西から）

SK2300 土層断面（南から）

SK2300 完掘（南から）

SK2315 完掘（東から）

SK2337 完掘（東から）

SK2342 土層断面（西から）

SK2342 出土状況（西から）

SK2342 完掘（西から）

SK2345 土層断面（南から）

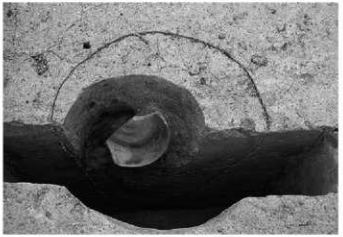
SK2345 完掘（西から）

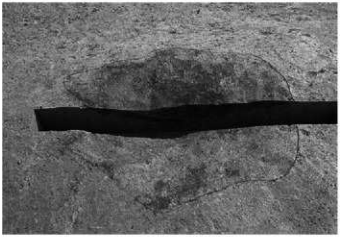
SK2346 完掘（南から）

SK2351 完掘（北から）

P2013土層断面（北から）

P2013完掘（北から）


P2073出土状況（南から）


SG2156検出状況（西から）

SG2156土層断面（西から）

SG2249検出状況（南から）

SG2249土層断面（南から）

SX2083出土状況（西から）

SX2083完掘（西から）

SX2153出土状況（南から）

SX2153完掘（西から）

SX2163完掘（南西から）

SX2256完掘（西から）

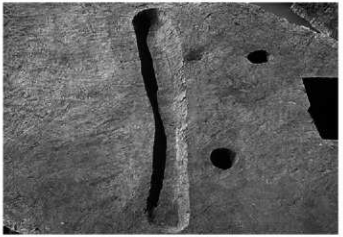
SX2358土層断面（西から）

SX2358完掘（南西から）

SD2074土層断面（北から）

SD2089 土層断面（東から）

SD2090 土層断面（西から）


SD2116 完掘（東から）

SD2127 完掘（東から）

SD2127 土層断面（西から）

SD2218 土層断面（東から）

SD2235 土層断面（南東から）

SD2284 土層断面（西から）

SD2294 完掘（西から）

SD2294 土層断面（西から）

SD2335 土層断面（北から）

SD2352 完掘（北西から）

SF2080 完掘（北から）

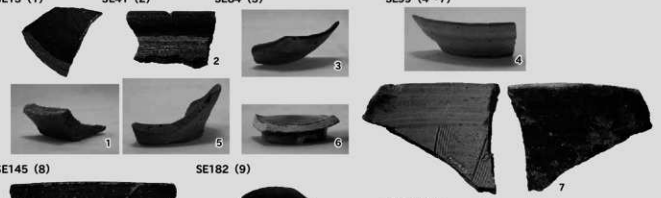
SF2080 ⑧・③土層断面（東から）

SF2200 完掘（北から）

土器集中 2227 出土状況（北西から）

A・B区中世遺構出土土器（1〜29）

SE13（1）　SE41（2）　SE84（3）　SE99（4〜7）



SE145（8）　SE182（9）　SK42（13）

SK6（10〜12）　SD113（14〜20）

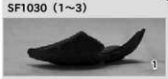
3〜6・9〜11・14・15　(1:3)
1・2・7・8・12・13・16〜18　(1:4)

SD114（21～29）

A・B区中世包含層出土土器（30～33）

古代上層遺構出土土器（1～8）

SF1030（1～3）



土器集中1009（4～8）

7・19・20・24～29　(1:4)　　その他　(1:3)

古代上層包含層出土土器（9～18）

古代下層遺構出土土器（19～88）

SI2006（19～25）

SI2088（26～30）

8　[1:4]
その他　[1:3]

28

SI2258（33〜35）

33

30

SI2110（31・32）

31

32

34

35

SK2026（36・37）

36

37

SK2051（38）

38

SK2105（39・40）

39

40

SK2106（41・42）

41

42

すべて（1:3）

SK2117（43～48）

44

43

46

43

45

47

48

SK2164（49・50）

49

SK2221（52～57）

52

SK2216（51）

51

50

53

57

54

55

56

SK2223（58）

58

SK2281（59）

59

SK2351（62・63）

SK2283（60）

60

SK2315（61）

61

62

P2009（65）

SK2361（64）

64

65

すべて（1:3）

63

P2013（66～68）

66

67

P2073（69）

69

68

P2204（71）

71

SG2103（72）

72

P2129（70）

70

SG2166（73・74）

73

SC2099（75）

75

SX2083（76）

76

SX2256（77）

77

74

SX2353（78～80）

79

80

78

SD2235（81・82）

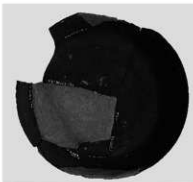
81

82

SD2237（83～87）

84

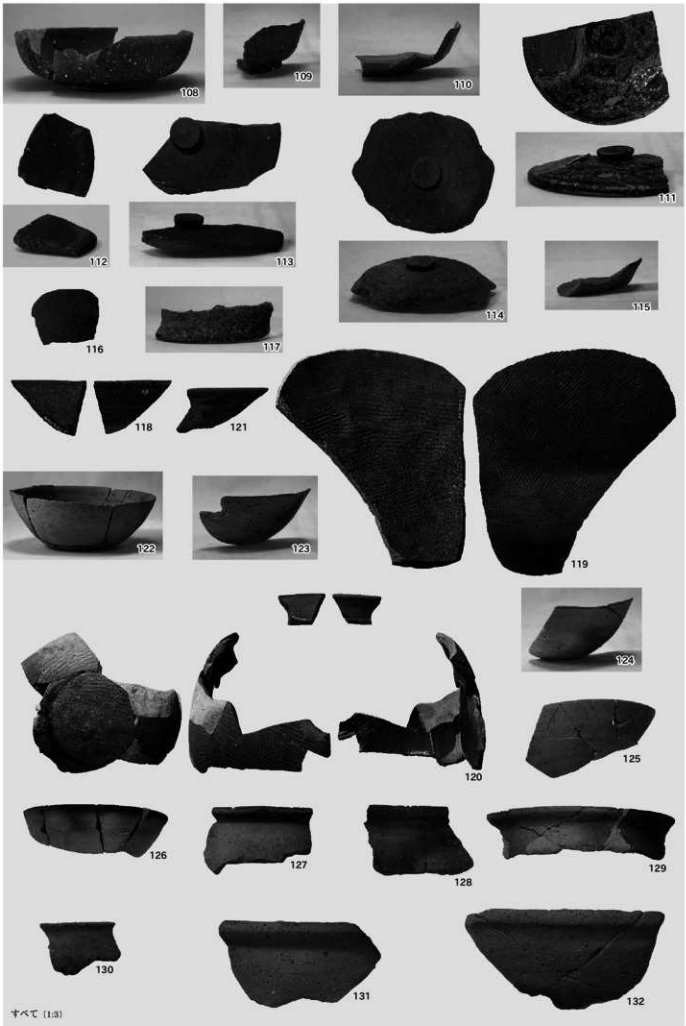
すべて（1:3）



SD2284（88）

古代下層包含層出土土器（89～132）

すべて（1:3）


108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
121
119
122
123
124
120
125
126
127
128
129
130
131
132

すべて（1:3）

土製品（1～8）
SI2088（1）

SK2144（2）

古代下層（3・5～8）

SK2110（4）

石製品（9～13）
SK166（9）

P2143（10）

SX2334（11）

古代下層（12）

金属製品（14～16）
SK115（14）

SX2153（15）

SK209（16）

木製品（17）
SE144（17）

1～7　（1:2）
8・10・12・14・15・17　（1:3）
9　（1:6）
11　（1:4）
13・16　（2:3）

報告書抄録

ふりがな	がらめきいせき
書名	柄目木遺跡Ⅰ
副書名	一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書
巻次	Ⅲ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第216集
編著者名	佐藤友子（埋文事業団）、村上章久・安西雅希・真壁鈴子（以上、株式会社帆苅組）、笹川一郎（日本歯科大学）
編集機関	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒956-0845　新潟県新潟市秋葉区金津93番地1　　TEL　0250（25）3981
発行年月日	2010（平成22）年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
柄目木遺跡 （えつめきいせき）	新潟県阿賀野市大字小里字柄目木75－2番地ほか （にいがたけんあがのしおおあざこざとあざえつめきいせき）	15223	398	37度 50分 04秒	139度 11分 46秒	20080410～ 20090109	13,000	道路（一般国道49号阿賀野バイパス）事業

所収遺跡	種別	時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
柄目木遺跡	平安時代：集落 中世（鎌倉～室町時代）：集落	平安時代（8世紀末～9世紀初頭）、中世（13～14世紀）	平安時代：掘立柱建物3、竪穴建物4、井戸3、土坑88、溝32、道11、焼土18、ピット191 中世：掘立柱建物5、井戸17、溝16、土坑17、ピット99、焼土3	平安時代：土師器、須恵器 中世：珠洲焼、北越窯瀉系陶器、青磁、瀬戸焼・美濃焼、銭貨	

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第216集

一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ

柄目木遺跡Ⅰ

平成22年3月30日印刷　編集・発行　新潟県教育委員会

平成22年3月31日発行

〒950-8570　新潟市中央区新光町4番地1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845　新潟市秋葉区金津93番地1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　北越印刷株式会社

〒940-1164　新潟県長岡市南陽2丁目949番8
電話　0258（23）7711
FAX　0258（23）9712